

千歳市

チプニー 2 遺跡 (3)

— 一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成16・17(2004・2005)年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

例 言

1. 本書は北海道開発局札幌開発建設部が行う一般国道337号新千歳空港関連工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成16・17年度に実施した千歳市チブニー2遺跡の3冊目の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は第1調査部第4調査課が担当した。
3. 本書の執筆、編集は、皆川洋一、菊池慈人、佐藤剛が分担した。
4. 遺物の整理は皆川洋一と佐藤剛が担当した。
5. 写真撮影は菊池慈人が担当した。
6. 鉄製品の保存処理は第1調査部第1調査課田口尚が担当した。
7. 石器の石材鑑定は第1調査部第1調査課花岡正光の指導で皆川洋一が行った。
8. 遺物・記録類は報告書作成後、北海道立埋蔵文化財センターが保管する。
9. 調査にあたっては下記の諸機関、各氏からご指導、協力をいただいた（順不同、敬称略）。
北海道教育委員会　千歳市教育委員会　恵庭市教育委員会
渡辺重建工業株式会社　株式会社トラス技研
北海道教育委員会　長沼孝、藤原秀樹
千歳市教育委員会　金井邦彦、田村俊之、豊田宏良、松田淳子、久原直利
恵庭市教育委員会　松谷純一、長町章弘
平取町教育委員会　森岡健治
厚真町教育委員会　乾　哲也

記号等の説明

記号等の説明

1. 文及び図表中では、次の略号を使用した。

U：Ⅲ層の遺構 L：Ⅴ層の遺構 P：土壌 F：焼土 FC：フレイク・チップ集中

2. 実測図の縮尺は、原則として次の通りであり、すべてにスケールを付けている。

遺構 1：40 復元土器 1：3 土器拓本 1：3 鉄製品 1：2

剥片 1：2 磨製 1：2 礫石器 1：3

3. 遺構図中の方位は真北を、レベルは標高（単位m）を示す。

4. 遺構の規模については、次の要領で示した。尚、一部破壊されているために推定の困難なものなどは、現存長を（ ）で示した。

「確認面での長軸×短軸／床面（壙底面）での長軸×短軸／確認面からの最大深・最大厚m」

5. 土層の標記で基本土層はローマ数字、遺構の覆土についてはアラビア数字で表した。

6. 土層の記述には下記の記号、略称を用いた場合がある。

樽前 a 降下軽石堆積物：Ta-a 白頭山一苦小牧火山灰：B-Tm

樽前 c 降下火砕堆積物：Ta-c 恵庭 a 降下軽石堆積物：En-a

恵庭 a 降下軽石堆積物起源のローム層：En-L

恵庭 a 降下軽石堆積物のうち未風化の軽石礫：En-P

7. 土層説明には『新版標準土色1997年版』を引用した。

8. 石器・石製品等の大きさは「最大長×最大幅×最大厚cm／重さg」の順で記してある。

破損しているものについてはその数値を（ ）で囲ってある。

石器は機能部にこだわらず長軸を長さ、短軸を幅、厚さは最大値を採用した。

目 次

例言

記号などの説明

目次

表目次

図版目次

I 調査の概要	1
1 調査要綱	1
2 調査体制	1
3 調査の経緯	1
4 調査区の設定	11
5 調査の概要	11
6 基本土層	12
7 調査と整理の方法	13
8 遺物の分類	13
II III層の調査	18
1 盛土状遺構	18
2 道跡	18
3 土壌	19
4 焼土	22
5 フレイク・チップ集中	22
III V層の調査	28
1 土壌	28
2 焼土	28
IV 包含層の遺物	40
1 鉄製品	40
2 土器	40
3 石器	53
4 土製品	54
一覧表	60

写真図版

報告書抄録

目 次

図 I - 1	遺跡の位置	2
図 I - 2	遺跡周辺の地形と調査区	4
図 I - 3	調査区の設定	5
図 I - 4	土層模式図	12
図 I - 5	遺構の配置	15・16
図 II - 1	Ⅲ層の遺構 (1)	20
図 II - 2	Ⅲ層の遺構 (2)	23
図 II - 3	Ⅲ層の遺構 (3)	24
図 II - 4	Ⅲ層遺構の遺物 (1)	25
図 II - 5	Ⅲ層遺構の遺物 (2)	26
図 II - 6	Ⅲ層遺構の遺物 (3)	27
図 III - 1	V層の土壌	29
図 III - 2	V層の焼土 (1)	30
図 III - 3	V層の焼土 (2)	31
図 III - 4	V層の焼土 (3)	32
図 III - 5	V層の焼土 (4)	33
図 III - 6	V層の焼土 (5)	34
図 III - 7	V層の焼土 (6)	35
図 III - 8	V層の焼土 (7)	36
図 III - 9	V層の焼土 (8)	37
図 III - 10	V層の焼土 (9)	38
図 III - 11	V層の焼土 (10) と V層遺構の遺物	39
図 IV - 1	鉄製品	40
図 IV - 2	土器 (1)	42
図 IV - 3	土器 (2)	43
図 IV - 4	土器 (3)	44
図 IV - 5	土器 (4)	45
図 IV - 6	土器 (5)	46
図 IV - 7	土器 (6)	47
図 IV - 8	土器 (7)	48
図 IV - 9	土器 (8)	49
図 IV - 10	土器 (9)	50
図 IV - 11	土器 (10)	51
図 IV - 12	土器 (11)	52
図 IV - 13	石器 (1)	55
図 IV - 14	石器 (2)	56
図 IV - 15	石器 (3)	57
図 IV - 16	石器 (4)	58
図 IV - 17	石器 (5)・土製品	59

表 目 次

表 I - 1	遺物点数一覧	17
表 - 1	Ⅲ層の盛土状遺構 (UM) 一覧	60
表 - 2	Ⅲ層の道跡 (UR) 一覧	60
表 - 3	Ⅲ層の土壌 (UP) 一覧	60
表 - 4	Ⅲ層の焼土 (UF) 一覧	60
表 - 5	Ⅲ層のフレイク・チップ (UFC) 一覧	60
表 - 6	V層の土壌 (LP) 一覧	61
表 - 7	V層の焼土 (LF) 一覧	61
表 - 8	Ⅲ層遺構の掲載土器一覧	64
表 - 9	V層遺構の掲載土器一覧	64
表 - 10	Ⅲ層遺構の掲載石器一覧	64
表 - 11	V層遺構の掲載石器一覧	64
表 - 12	包含層掲載土器一覧	65
表 - 13	掲載復元土器規模一覧	67
表 - 14	包含層掲載石器土製品一覧	68

図版目次

- 図版1 調査前状況
1 火山灰除去作業(平成16年度調査区) N→
2 表土除去後(平成17年度調査区) SW→
- 図版2 調査状況
1 C地区トレンチ調査 SW→
2 B地区25%調査 NE→
- 図版3 Ⅲ層の調査(1)
1 A地区北側Ⅲ層調査 SW→
2 A地区南側Ⅲ層調査 S→
- 図版4 Ⅲ層の調査(2)
1 UP-2・3断面 S→
2 UP-4断面 E→
3 UP-5確認面 NE→
4 UP-6遺物出土状況 NW→
5 UP-7遺物出土状況 NW→
6 UP-8遺物出土状況 E→
- 図版5 Ⅲ層の調査(3)
1 UP-9遺物出土状況 N→
2 UP-10遺物出土状況 N→
3 UP-11完掘 SE→
4 UR-1検出状況 SE→
- 図版6 Ⅲ層の調査(4)
1 UM-1(盛土状遺構) W→
2 UFC-2検出状況 SE→
3 UFC-3検出状況 NE→
4 UFC-4検出状況 N→
5 UFC-5検出状況 W→
- 図版7 Ⅲ層の調査(5)
1 UF-38検出状況 NE→
2 UF-39検出状況 NE→
3 UF-40検出状況 E→
4 UF-44検出状況 NE→
5 UF-45断面 SE→
6 UF-46断面 S→
7 UF-68検出状況 S→
- 図版8 Ⅲ層の調査(6)
1 A地区北側遺物出土状況 NW→
2 A地区南側遺物出土状況 NE→
- 図版9 Ⅲ層の調査(7)
1 土器出土状況(N-81) N→
2 遺物出土状況(Q-46) SE→
3 遺物出土状況(I-45) SW→
4 遺物出土状況(J-48) NW→
5 土器出土状況(J-48) S→
6 土器出土状況(L-53) E→
7 鉄斧出土状況(N-46) NE→
- 図版10 V・VI層の調査(1)
1 A地区北側V層上面検出状況 NE→
2 A地区南側V層調査状況 NE→
- 図版11 V・VI層の調査(2)
1 LP-6断面 SE→
2 LP-7断面 SW→
3 LP-6・7完掘 SE→
4 LP-8断面 SE→
5 LP-8完掘 SE→
- 図版12 V・VI層の調査(3)
1 LF-84断面 SE→
2 LF-103断面 NW→
3 LF-109~116検出状況 SE→
4 LF-130~142検出状況 S→
- 図版13 V・VI層の調査(4)
1 LF-148~158検出状況 N→
2 LF-163検出状況 N→
3 LF-164検出状況 S→
4 LF-165検出状況 SE→
5 LF-166検出状況 NW→
- 図版14 V・VI層の調査(5)
1 土器出土状況(E-61) E→
2 遺物出土状況(M-69) SE→
3 土器出土状況(M-63) W→
4 いかり石出土状況(O-46) NW→
5 有舌尖頭器出土状況(F-55) SE→
6 有舌尖頭器出土状況(I-57) NE→
- 図版15 調査終了
1 平成16年度調査区完掘 S→
2 平成17年度調査区完掘 NE→
- 図版16 遺構の土器(1)
1 UP-9
2 UP-9
3 UP-6
4 UP-7
5 UP-10
6 UF-38
- 図版17 遺構の土器(2)
1 UP-3・9
2 UP-6
3 UP-9
4 UF-38
5 UM-1
6 LF-92
7 LF-98
8 LF-118
9 LF-132
10 LF-135
11 LF-142
12 LF-144
- 図版18 包含層の土器(1)
図版19 包含層の土器(2)
図版20 包含層の土器(3)
図版21 包含層の土器(4)

- 図版22 包含層の土器 (5)
図版23 包含層の土器 (6)
図版24 包含層の土器 (7)
図版25 包含層の土器 (8)
図版26 包含層の土器 (9)
図版27 包含層の土器 (10)
図版28 遺構の石器・包含層の石器
 1 U F C - 1
 2 U F C - 2
 3 U F C - 4
 4 U F C - 5
 5 L F - 84
 6 包含層の石器 (1)
図版29 包含層の石器 (2)
図版30 包含層の石器 (3)
図版31 包含層の石器 (4)
図版32 包含層の石器・土製品・鉄製品
 1 包含層の石器 (5)
 2 土製品
 3 鉄斧

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：一般国道337号線新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

遺跡名：チプニー2遺跡（北海道教育委員会登録番号 A-03-278）

平成16年度

所在地：千歳市中央962-11・12・13,1064-11,1068-19,1196-47

調査面積：13,400㎡

調査期間：平成16年4月1日～平成17年3月31日（現地調査5月6日～9月6日）

平成17年度

所在地：千歳市中央855-39

調査面積：1,300㎡

調査期間：平成17年4月1日～平成18年3月31日（現地調査5月24日～6月23日）

2 調査体制

第1調査部長 千葉 英一

第4調査課長 三浦 正人

平成16年度発掘担当者 主査 皆川 洋一

同 主任 菊池 慈人

同 主任 佐藤 剛

平成17年度発掘担当者 主査 皆川 洋一

同 主査 菊池 慈人

3 調査の経緯

(1) 一般国道337号新千歳空港関連工事

この調査の原因である一般国道337号新千歳空港関連工事は、北海道開発局札幌開発建設部が実施している地域高規格道路「道央圏連絡道路」計画の一環である。道央圏連絡道路（一般国道337号）は道央都市圏の新しい交通・物流ルートとなる4車線道路で、新千歳空港を起点とし、北海道横断自動車道千歳東IC、北海道縦貫自動車道江別東IC、重要港湾石狩湾新港、北海道横断自動車道銭函ICを結ぶ延長約80kmの半環状道路である（図I-2）。市町村としては千歳市、長沼町、南幌町、江別市、当別町、札幌市、石狩市、小樽市を連結している。事業は新千歳空港関連・泉郷道路・長沼南幌道路・美原バイパス・美原道路・当別バイパスの6区間に分けられている。「新千歳空港関連」事業は新千歳空港と北海道横断自動車道千歳東ICを結ぶ9.2km区間で、平成元年度に事業化された。このうち新千歳空港から千歳市街地への2.5kmのほか、昭和55年度に事業化された当別バイパス（当別町-小樽市）23.8kmが平成15年度までに部分供用され、平成16年3月26日には石狩川を渡河する美原大橋を含む美原バイパス3.9kmが2車線で暫定供用されている。

平成2（1990）年12月札幌開発建設部は千歳市教育委員会を經由して北海道教育委員会（以下、道教委）あてに、国道337号根志越道路整備工事に伴う千歳市柏台から同市中央までの路線内における埋蔵文化財保護のための事前協議書を提出した。協議を受けた道教委は平成3年6月、路線内の遺跡

I 調査の概要

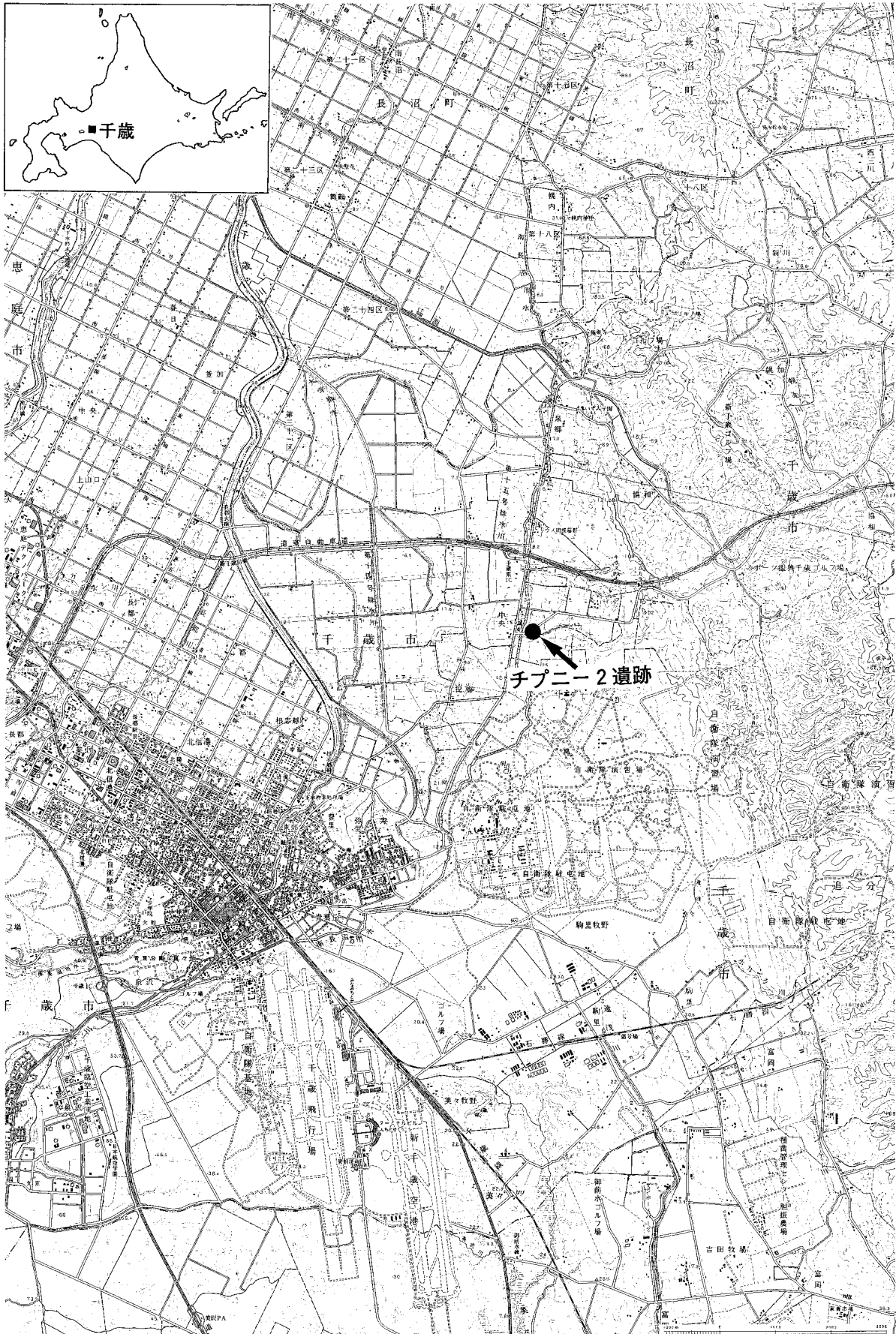


図 I - 1 遺跡の位置

所在確認調査を実施した。その結果、周知の祝梅川・祝梅川矢島・祝梅川山田・祝梅川上田・アンカリトー6・アンカリトー7・キウス13号周堤墓（のちのオリカ1遺跡）・キウス5遺跡と未掲載の仮称祝梅砂丘遺跡（のちの柏台1遺跡）・仮称キウス7～10遺跡の12箇所、対象面積299,000㎡、全計画路線の半分程度について範囲確認調査が必要と判断、同年7月道教委から札幌開発建設部へ回答された。

平成7（1995）年5月、事業名の変更等により、再度事前協議書が札幌開発建設部から道教委に提出された。ここで事業名が一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事となり、事業地の面積約828,000㎡、工期は平成8年4月1日から平成12年12月15日、埋蔵文化財包蔵地保護については現状保存は困難なため範囲確認調査（試掘）を希望する旨協議された。

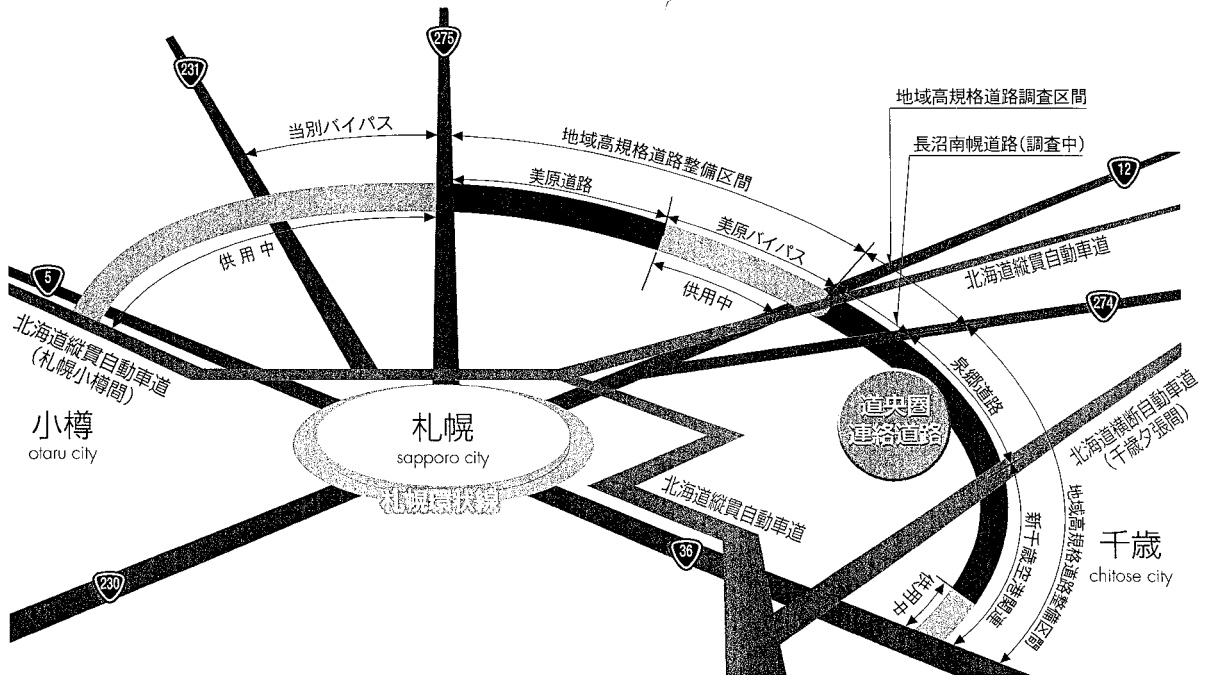
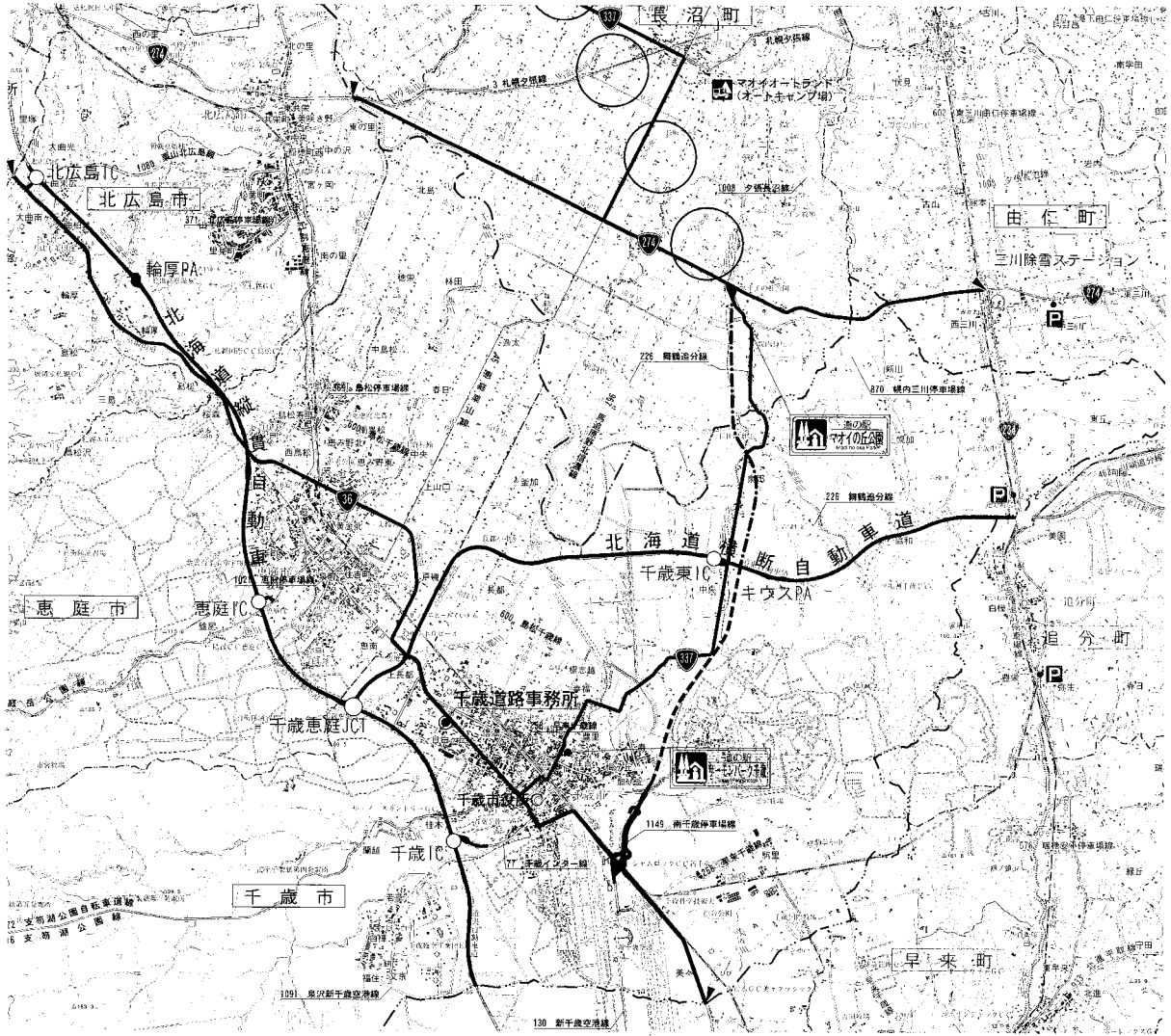
（2）柏台1遺跡とその後の試掘調査

平成7年11月と平成8年5月、道教委は当事業地内で初の範囲確認調査を千歳市柏台地区の仮称祝梅砂丘遺跡とした包蔵地で実施した。その結果、地表下約4mにある恵庭a降下軽石層（En-a）直下の風成堆積物中から、旧石器時代の遺物である黒曜石製剥片石器類が検出された。範囲や工法など遺跡の取り扱いについて協議が行われ、工事前の発掘調査を実施することとなった。柏台1遺跡として掲載されたこの遺跡は、平成9（1997）・10年に（財）北海道埋蔵文化財センター（以下、センター）が越田賢一郎・福井淳一を担当者として6,300㎡の発掘調査を実施、En-a直下に広がる疎林樹木痕とEn-a下位の火山灰質シルト層から約32,000点の旧石器時代遺物を検出した。遺物は15ヵ所の集中域に分かれ、13ヵ所で炉跡、琥珀玉も1点確認できた。（北埋調報138集）

その後、用地買収の遅延などにより、事業地内の埋蔵文化財関係調査は途絶えていた。以降の範囲確認調査は以下のとおりである（平成17年3月現在）。

- 平成12（2000）年6月 仮称チプニー川左岸遺跡（平成3年所在確認調査：仮称キウス8）実施。4,800㎡について調査必要と判断。チプニー1遺跡と呼称。
- 平成13年5月 チプニー川の右岸（平成3年所在確認調査：仮称キウス9）の一部実施。2,500㎡について調査必要と判断。チプニー2遺跡と呼称。
- 平成13年9月 キウス9遺跡（平成3年所在確認調査：仮称キウス10）南半部実施。
- 平成13年10月 キウス13号周堤墓と周辺を試掘。周堤墓とされていた部分は耕作等の削平による高まりの残存と判明したため、遺物の得られた範囲をもってオリカ1遺跡と名称変更し、3,900㎡の調査必要区域を設定した。
- 平成13年9月・10月 オリカ1遺跡の北東400mにあるオリカ2遺跡（平成3年所在確認調査：仮称キウス7）実施。9月は確認調査範囲の中央を通る市道祝梅第2道路の北側、11月は南側が対象。樽前c降下軽石層より上位の焼骨片の多量検出と縄文期の土器石器から、アイヌ文化期の集落跡と縄文期の遺物包含地と目される約9,000㎡について調査が必要と判断。
- 平成14年6月 オリカ1遺跡の現オリカ川右岸確認調査未了地について実施。1,600㎡の調査必要範囲が確定。
- 平成14年7～8月・10月 キウス5遺跡で実施。旧河川部の低地と台地部を合わせた約15,000㎡の調査必要範囲が確定した。
- 平成14年10月 チプニー2遺跡の北半部実施。
- 平成15年10月 チプニー2遺跡の確認調査未了地（市道協和中央線の両側）実施。遺物の出土等

I 調査の概要



北海道開発局 「千歳道路事務所 事業概要」パンフレットより抜粋

図 I-2 遺跡周辺の地形と調査区

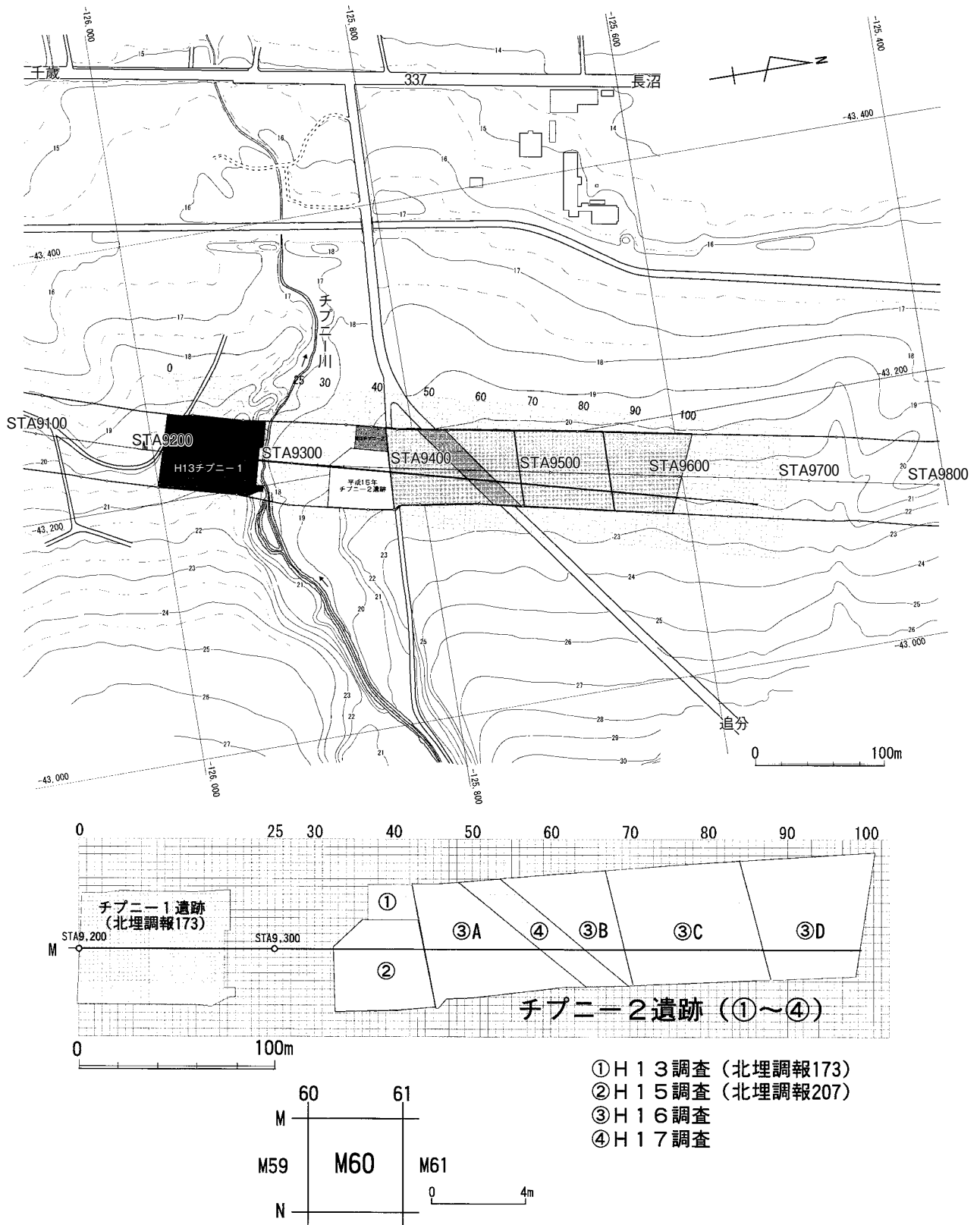


図 I - 3 調査区の設定

I 調査の概要

により遺構確認を含めて約15,000㎡の追加確定。

- 平成16年10月 祝梅川山田遺跡の一部実施。祝梅川上田遺跡の隣接地として判断保留。梅川4遺跡も対象となったが、以前別件のため道教委と千歳市教委により実施済でデータがあると判明し、調査が必要と判断（用地未買収による不確定部分あり）。
- 同 キウス9遺跡（平成3年所在確認調査：仮称キウス10）北半部（キウス川左岸部未了）実施。擦文期の竪穴と思われる凹みや擦文土器・縄文土器石器を確認。16,500㎡については調査が必要と判断。800㎡判断保留。
- 平成17年5月 キウス9遺跡北半部のうち未了であった7,700㎡実施。同上の結果を得、保留800㎡も含めて調査が必要と判断。
- 平成17年10月 祝梅川上田遺跡・梅川1遺跡・祝梅川小野遺跡、3遺跡約43,000㎡を対象に実施。検討中。
- 平成17年11月 オルイカ2遺跡と南長沼用水を挟んだ隣接地約13,000㎡の実施予定。

（3）平成13年度以降の発掘調査

以上の範囲確認調査から発掘調査が必要と判断された遺跡は、平成13年度から（財）北海道埋蔵文化財センターが、札幌開発建設部札幌新道建設事務所（平成16年度から千歳道路事務所）の工事計画に則って以下のごとく発掘調査を実施している（平成17年度現在）。

- ◇平成13年度 チプニー1遺跡 4,360㎡ 担当者：佐川俊一・笠原興 主に縄文後・晩期・擦文期・アイヌ期の土器・石器・鉄製品 報告書：北埋調報173集
- ◇同 チプニー2遺跡 450㎡ 担当者：山中文雄 主に縄文晩期の遺物 報告書：北埋調報173集
- ◇平成14年度 オルイカ1遺跡 5,460㎡ 担当者：佐川俊一・末光正卓 縄文後期の住居跡・後期晩期の土器石器・アイヌ期の平地住居跡など 報告書：北埋調報188集
- ◇同 オルイカ2遺跡 3,230㎡ 担当者：和泉田毅・阿部明義 旧石器ブロック・縄文中期晩期の土器石器・アイヌ期の平地住居跡（集落）など 報告書：北埋調報189集
- ◇平成15年度 オルイカ1遺跡 1,600㎡ 担当者：菊池慈人・末光正卓 主に縄文後期の遺物 報告書：北埋調報206集
- ◇同 チプニー2遺跡 2,000㎡ 担当者：皆川洋一・広田良成 縄文中期の住居跡と遺物・擦文期の墓と鉄製品・アイヌ期の平地住居跡と鉄製品・青磁碗など 報告書：北埋調報207集
- ◇同 キウス5遺跡 5,000㎡ 担当者：三浦正人 縄文中期の住居跡と遺物・旧河川部で縄文期と近世の木製品・低位部に近世の畑跡 報告書：未報告・調査年報16参照
- ◇平成16年度 オルイカ2遺跡 6,500㎡→5,500㎡に変更 担当者：阿部明義・広田良成 旧石器ブロック・縄文中期晩期の土器石器・アイヌ期の平地住居跡（集落）など 報告書：北埋調報221集
- ◇同 チプニー2遺跡 14,700㎡→13,400㎡に変更 担当者：皆川洋一・菊池慈人・佐藤剛 主に縄文晩期の遺物 当報告書
- ◇同 キウス5遺跡 1,056㎡ 担当者：皆川洋一・菊池慈人 主に縄文晩期・擦文期の遺物 報告書：未報告・調査年報17参照
- ◇平成17年度 キウス9遺跡 17,000㎡→17,044㎡に変更 担当者：三浦正人・皆川洋一・菊池慈人・新家水奈・愛場和人・阿部明義・広田良成 石刃鏃70点以上・縄文早期前期晩期の遺構遺

物・擦文期の住居と鍛冶遺構（集落）・アイヌ期の平地住居跡など 整理作業中
 ◇同 チプニー2遺跡 1,300㎡ 担当者：皆川洋一・菊池慈人 当報告書

（４）チプニー2遺跡の調査の経緯

これらのうち、当報告のチプニー2遺跡の調査に至る経緯について詳述する。チプニー2遺跡は千歳市中央地区の中央部に位置し、馬追丘陵から西流する小河川チプニー川の右岸に広がる（図I-1）。また、遺跡範囲内を東西に市道協和中央線およびこれと分岐するチプニー川沿いの小道（農家道）が横断する（図I-3）。そのため当国道建設工事の計画では、チプニー川橋脚工事や市道ボックスカルバート工事と道路切り替えなどの工事が順次行われることになっていた。

前掲した平成13年5月の範囲確認調査（5月30・31日）で、川から約50m離れた標高約20m段丘上約2,500㎡について調査が必要と判断された。チプニー川沿いの小道（農家道）の南側である。遺跡の呼称は仮称キウス9から変更され、チプニー2遺跡と命名された。センターもチプニー1遺跡の調査中であり試掘調査に協力している。6月札幌開発建設部は道教委に対し、平成14年度に予定しているチプニー川橋台の工事に伴い右岸側に市道から入る工事用道路を造成するので発掘必要範囲のうち400㎡の調査を年度内に終了させて欲しいとの要望をした。これを受けた道教委は7月、チプニー1遺跡調査からこの相当分500㎡を減じて、チプニー2遺跡450㎡を優先して調査を行う旨をセンターに通知した。センターはこれに対応したが、結果的にチプニー1遺跡についても調査は当初予定どおり終了した（北埋調報173集『千歳市チプニー1遺跡・チプニー2遺跡』）。

これに引き続き道教委は札幌開発建設部の要請を受け、平成14年10月15～18日、チプニー2遺跡北半部約12,000㎡の試掘を実施した。センターもオルイカ2遺跡の調査中であり試掘調査に協力している。この年の範囲は、大規模な農地造成により包含層相当層が殆ど破壊され消失していたため、工事には支障がないものと判断された。わずかに最南部で耕作土中から擦文土器片2点を採集したため、この隣接の試掘未了区の結果が出るまで、約1,500㎡については判断保留とした。

平成15年度調査分として、センターでは5月6日～7月11日にチプニー川右岸残り2,000㎡を調査し、縄文中期の住居跡と遺物・擦文期の墓と鉄製品・アイヌ期の平地住居跡と鉄製品・青磁碗などの成果を得た。この調査は北埋調報207集『千歳市チプニー2遺跡（2）』として報告した。なおこの調査終了によりチプニー2遺跡の調査は、北側の試掘調査結果を待って次年度の再開とされたのである。前述したとおり、札幌開発建設部は市道協和中央線のボックスカルバート工事とこれに伴う市道や小道の切り替えに取りかからなければならないため、平成15年度も道教委にチプニー2遺跡の残り約14,000㎡対象の試掘調査を要請した。10月21・22日、道教委は市道協和中央線を含むこの範囲の試掘調査を実施。センターもキウス5遺跡の調査中でありこれに協力した。結果、全般的な遺物の出土状態から当該試掘部分と判断保留区の一部を含む約15,000㎡を、遺構確認を含めた調査必要範囲として確定した。

平成16年度は、前述の試掘調査結果から判断された14,700㎡を対象として発掘調査を行うこととなった。チプニー2遺跡としては第3次の調査となる。内訳は北側から3,924㎡がⅢ層遺構確認調査区（C区）、4,429㎡がⅢ層のみの発掘調査（B区）、残りが通常の発掘調査（A区：市道を挟んで南北区に分割）である。調査成果等は当報告書の次章以降に詳述してある。この年の調査は結果的に市道協和中央線の仮道切り替えが年度内に完了できないことから、道路部分1,300㎡を次年度送りとしたため、13,400㎡の調査完了となった。次項に当報告書と関わる平成16・17年度の「オオタカの一件」を含む紆余曲折を整理しておく。

(5) 平成16年度および17年度のチプニー2遺跡調査に対する情勢

平成16年度はオリカ2遺跡と併行してチプニー2遺跡の調査を行うため、表土処理の重機稼働から始まった。まず4月22日から調査範囲全域の抜根に取りかかり、23日終了と併行して、遺構確認調査のC区南側から表土除去に手を付けた。C区北側（調査範囲北端）に手を付けなかったのは、そのさらに北側を剥いた表土の堆積ヤードとしたため、そこがダンプカーの通路となるからである。この部分については、最後に重機によるトレンチ確認を行う予定とした。第一回目の表土除去はダンプカーの通路を残してⅢ層発掘のB区までとし、27日に終了した。24～28日A南区の西側に事務所等プレハブの建て上げ、26～28日一部の杭打設と準備は順調に進んでいた。

5月6日、調査員6名が現地入りし、プレハブ整備・物品搬入が始まったばかりの午前、札幌開発建設部千歳道路事務所から、「チプニー2遺跡の付近にオオタカが営巣しているので、発掘調査に入るのを一時見合わせてほしい」との連絡が入った。聞くと、連休中に入った環境調査でオオタカの営巣が確認されたとのこと。4月下旬には重機が稼働していたというのに…。午後、同千歳道路事務所から、「オオタカの営巣とそれに対する工事や発掘調査の影響について、5月10日午後に環境調査アドバイザーの専門家と札幌開発建設部との現地確認と打ち合わせを行なう」旨の連絡が届いた。また、「それまではオリカ2遺跡にも立ち入らないでほしい」との要請があった。10日には開所式を控えており、作業員送迎バスの進入もできないため、調査に取りかかれるかという問題とともに、この対応の必要に迫られた。

5月7日、再度千歳道路事務所から、「5月10日の打ち合わせに調査事務所を使用したい、またその折に埋文センター側も同席して話を聞くように」との指示があった。三浦は諸々の対応打ち合わせのためセンター本部へ。開所式は急遽、バスを江別のセンター本部まで運行し、同所で行うこととした。この間もプレハブ整備・物品搬入は進めていた。

5月10日午後、当事務所において札幌開発建設部環境調査アドバイザー門崎允昭氏、札幌開発建設部道路調査課道路調査専門官、千歳道路事務所工事課計画係係長、同主任ほか札幌開発建設部7名が現地確認の後、当センター第1調査部千葉部長、第4調査課三浦・皆川・菊池も参加し、オオタカ関係の打ち合わせが持たれた。門崎允昭氏の話によれば、営巣樹の位置から見て、発掘調査や周辺工事では、オオタカ営巣になんら影響はなく、発掘調査は差し支えなし。道路用地内のバス旋回や当事務所の使用も問題なしとのことであった。ただし、重機や車のクラクション音は避けるようにとの指示があった。札幌開発建設部からは慎重を期しチプニー2遺跡の調査工程について、当調査チームと後日の打ち合わせしたい旨の申し入れがあったのでこれを了承した。また、我々も営巣樹のある林内には立ち入らないことを約束した。なお、オオタカ営巣位置はC区から国道側の南長沼用水に近い林縁ということであった。

5月11日、現場プレハブにて作業説明とオオタカ関係の諸注意を作業員に行った後、現場発掘作業を開始、C区南側から着手した。杭打設も再開した。

5月13日午前、千歳道路事務所から、チプニー2遺跡の調査工程について当日午後から打ち合わせしたいとの連絡があり、了承した。この打ち合わせにおいて確認及び申し入れた事項は以下のとおりである。

- ・ A区の南端にある道路の付け替えが終了しないと、A区に南側の表土除去が行えないこと。
- ・ この工事については、千歳道路事務所が6月上旬に行なうとのこと。
- ・ A北区の表土除去もA南区と同時に進めようが、来年度の工事工程から、南側が優先されること。
- ・ 重機稼働時にはクラクションを使用しないこと。

- ・ A区の表土除去が完了するまでは、B区とC区の調査に専念する。
- ・ C区の北端部の未着手部は、オオタカの巣立ちが確認されるまで着手しない。8月中旬以降になる可能性もある。
- ・ 従って調査着手工程は C区南 → B区 → A南区 → A北区
併行して 道路付け替え → A区 表土除去 ↑→ C区北 重機 となる。

このような状況から、表土除去及び杭打設測量の日程に変更が生じることとなった。

5月19日午後、千歳道路事務所工事第3係から「チプニー2 遺跡A区の南端にある道路の付け替えが1ヶ月遅れる。理由は、付け替え道路両端部の借地部の樹木伐採に森林法による申請・許可が必要で、千歳市ではこれに約1ヶ月かかるから。」との連絡が入った。当課としては、1ヶ月の先延ばしでは調査箇所がなくなってしまうことから、調査工程の再変更を以下のとおり計画した。

- ・ A北区の表土除去を6月上旬に先行して着手し、表土除去が完了しだい調査に入る。
- ・ 道路の付け替え終了後、A南区の表土除去に着手、順次調査する。
- ・ 幾度の調査工程変更による工程の遅れ＝調査面積減については、A南区の調査進行状況を考慮し、8月下旬～9月上旬に、千歳道路事務所との打ち合わせを行ないたい。
- ・ 従って調査着手工程は C区南 → B区 → A北区 → A南区→C区北重機

併行して A北区表土除去 ↑ 道路付替 → A南区表土除去 ↑ となり、杭打設測量の日程にも再度変更が生じることになった。

なお、表土除去請負業者との打ち合わせで、A北区の表土除去は遅くとも6月10日までに着手することになった。

5月27・28日、オオタカ保護のためチプニー川橋上部工事騒音測定がなされる。

5月28日、A北区側の重機による表土除去開始。クラクションとダンプの後部口のバタつきに注意。バックホウ・ダンプ・ブル各1台。

5月31日、札建千歳道路事務所より「チプニー川橋上部工事騒音測定者からの情報で、現場で重機を使用しているらしいが、オオタカ巣立ち後の8月中旬以降の約束ではなかったか」との、勘違いのクレーム電話あり。重機はチプニー2遺跡A北区に入っており、これは前回の打ち合わせどおり。約束のC地区には入れていないと返事。重機の位置と入っていない場所、入りたくても道路の付け替えが行なわれておらず入れないA南区を示したFAXを送付。

6月1日朝、札建千歳道路事務所より「チプニー川橋上部工事騒音測定を再度行なうので、その間の2時間ほどチプニー2遺跡A地区北側の表土除去重機を止めてほしい」と要請の電話あり。さらに、測定立会にきていた道路事務所工事第3係からも要請あり。その際、除去排土をC区付近に置くとダンプ音がうるさくオオタカへの影響が心配なのでチプニー川橋南の排土場まで回り込んで置くようにとの指示を受けた。雨とこの一時休止により、重機は6月2日まで延長。排土のダンプを2台増強。

6月2日、千歳道路事務所より「オオタカ監視者から、C区付近で重機が稼働しており、オオタカに影響ありとの指摘があった」旨の電話あり。その後、チプニー2遺跡周辺を巡視。墓地道路の用水を渡った先の盛土付近で当方と無関係の重機・ブルの稼働を確認。千歳道路事務所に連絡・通知。

6月7日からチプニー川橋上部工事再開。常時騒音測定が条件で、チプニー2遺跡A北区道路際に測定位置。担当者一名常駐。

6月21日、許可が下り、農家道の切り替えのための樹木伐採が行われた。音量測定によればチェーンソウの音でも遺跡内ではほとんど感知せずとのこと。

6月23日、農家道の切り替え工事開始。千歳道路事務所にA南区表土除去工事实施日程を電話連絡。

I 調査の概要

工事了解。ちなみにオオタカは順調に生育中とのこと。

6月25日、道路付け替え終了を待たず、A南区表土除去工事を開始。バックホウ1台・ダンプ2台。27日18:30過ぎ終了する。

6月30日、千歳道路事務所より「A南区が終了しないと市道協和中央線の仮道切り替えができない。時間等の制約で年度内に完了するのは難しい。相当分をキウス5遺跡調査で代替できないか」と打診あり。面積計算し、本年度は市道部分1,300㎡が未着手になることが確定。

7月6日、千歳道路事務所とキウス5遺跡で代替え案打ち合わせ。7日、札幌開発建設部から道教委とセンターへ同件の連絡あり。協議の段階へ。

8月2日、札建千歳道路事務所へ電話。夏期現場休業・キウス5遺跡の件とともにオオタカのその後を確認。子オオタカは巣立ち始めているがまだ親元へも戻ってくる状態とのこと。C区北側に着手できるのは予定通り8月下旬以降になりそうとのこと。8月17日、キウス打ち合わせの際にも確認。子オオタカの様子は変わらず。

8月25日、千歳道路事務所から「子オオタカのうち一羽は分散済み。もう一羽が残っているらしい。チップニーの重機をいつまで待てるか」と打診の電話。諸事情から9月13日が限界と返答。キウス5遺跡は先行して8月末～9月初頭で入ることも伝える。

8月27日、表土除去請負業者とキウス5遺跡・チップニー2遺跡C区表土除去打ち合わせ。9月6・7日に連続して入りたい。この旨、千歳道路事務所にも伝える。

9月2日、キウス5遺跡の全協議が整い、チップニー2遺跡1,300㎡減と代替のキウス5遺跡1,056㎡調査が決定。

9月3日、C区北側を残して、16年度のチップニー2遺跡調査を終了。キウス5遺跡の調査に入るまで作業員は全員オリイカ2遺跡で従事。

9月6日、キウス5遺跡の表土除去が本日午前中に終わると、台風18号の襲来を考慮し、本日午後そのままチップニー2遺跡C区北側に重機を入れたいが、オオタカの様子はどうかを、千歳道路事務所に打診。とりあえずオオタカはもう分散したらしいが、オオタカ監視人の都合をつけ、午後付き添いのもとに最終重機稼動了解の返答。午後、C区北側で監視付重機稼動。トレンチをあける。人力で遺構確認。遺構・遺物の非検出を確認し16年度のチップニー2遺跡調査を完了。

平成17年度調査は、4月1日千歳道路事務所での打ち合わせから始まった。予定通り市道協和中央線部分1,300㎡の調査で期間1ヶ月と積算してある。当遺跡の第4次調査となる。昨年度A区の中央部を横断する形状で、両脇のデータはそろっている。打ち合わせ上、オオタカについてはほぼ影響・心配ともなし。営巣しても昨年度より調査区から遠いので大丈夫と伝えられた。市道付け替え工事と旧路面除去が5月連休明けになるので、調査区の盛土・表土除去に入れるのは5月中～下旬とのこと。したがって調査スタートは、早くも5月末、遅くも6月初旬の予定となった。

5月9日、調査員7名がキウス9遺跡入りし準備、11日開所式・キウス9遺跡調査開始。

5月16日に仮設道路の完成と切り替え完了との連絡を受け、5月18日に盛土・表土除去を実施。21・22日には杭の打設を、24日からは地形測量に入った。

5月30日、発掘調査を開始、6月23日には無事終了し、都合5カ年、17,150㎡にわたるチップニー2遺跡の調査を終了した。

(6) オオタカについて

タカ目タカ科に属する中型の森林性の猛禽で、「鷹狩り」のタカとして知られている。雌は羽を広げると1mを超え全長は60cmぐらい、体重900~1,200g、雄は全長約50cm、体重500~700gと雌がやや大きい。主に針葉樹の大木に営巣し、巣は地上10m前後にあり、径約1m・厚さ60cmほどである。他のタカや自己の古巣を利用することも多い。一夫一妻で造巣は2月から、産卵は4~6月に1回である。卵は2~4個で、35~38日で孵化、約40日後に飛び始め、その後約1~2ヶ月親の縄張りから立ち去る。北海道で繁殖するのは亜種のチョウセンオオタカとみられている。

猛禽類は食物連鎖の頂点に位置する動物で、もともと数は少ない。オオタカは環境省日本版レッドデータブックでは「絶滅の危険が増大している種」である絶滅危惧Ⅱ類(UV)に指定されており、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(種の保存法)では国内希少野生動植物種にも指定、ワシントン条約の附属書Ⅱや日ロ渡り鳥条約にも取り上げられている。

日本では四国の一部・本州・北海道・千島の広い範囲で繁殖。森林型は連続分布した広大な森林に生息、都市型は少数の植林地でも生活する。そのため里山や農耕地・牧草地・水辺・都市公園や住宅地でも観察され、大規模開発との競合も多く、保護問題が各地で起こっている。独立行政法人森林総合研究所北海道支所のプロジェクトで鷹尾元・工藤琢磨・尾崎研一の3氏による「石狩平野のオオタカ」(http://af2.kpu.ac.jp/7th_bio_html/3.html)には「里山・農耕地帯では林縁を利用し開放地で小動物・鳥類の補食を盛んに行う。石狩平野では開拓以来森林が切り開かれて農地となり、低地に残るまとまった森林は少ないが、一方農地の保護のための防風林が多い。オオタカがこれらの防風林を営巣・捕食・移動に利用していることが観察されている。」との説明がある。

近年では都市型オオタカが急速に増えており、騒音環境での繁殖が確認されるなど、日本全体の個体数は激増しているとの見方もある。

(三浦 正人)

4 調査区の設定

調査区の設定については札幌開発建設部の一般国道337号新千歳空港関連工事の用地平面図を使用した。工事予定中央線のSTA9,200とSTA9,300地点を結んだ線を基軸線とし、それをグリッドのMラインと呼称している。グリッドの縦ラインは、STA9,300地点のMラインと直行させた20ラインを基本としている。発掘区のメッシュは4×4mとし、各グリッドの呼称は縦と横ラインの交点名をそのまま右下のグリッドの名称とした。例えば、Mラインと60ラインの交点の右下のグリッドはM-60グリッドとなる(図I-3)。

座標値(旧日本座標値系)

STA9,200	X = -125,991.990	Y = -43,438.385
STA9,300	X = -125,895.427	Y = -43,412.708

5 調査の概要

2カ年の調査で、遺構はⅢ層から盛土状遺構1カ所(UM-1)、道跡1本(UR-1)、土壌10基(UP-2~11)、焼土20カ所(UF-38~47)、フレイク・チップ集中5カ所(UFC-1~5)などが見つかった。大半が縄文時代晩期後葉のものと考えられる。UP-5は擦文文化期の、UP-4、6、7、9・10は晩期後葉の墓の可能性がある。V・VI層からは、土壌3基(LP-6~8)、焼土111カ所(LF-59~169)などが見つかった。LP-6・7は縄文中期後半、LP-8は縄文時代晩期後葉の墓の

I 調査の概要

可能性がある。焼土の幾つかは縄文時代早期後葉や晩期後葉のものと思われるが、直接人為的とは言えないものも多いように思われる。

遺物は総数14534点が出土した。遺構から824点、包含層から13708点で、内訳は鉄製品1点、土器11940点、石器1767点、土製品1点などである。(表I-1)。

土器の主体は縄文時代晩期後葉のV群c類土器で、Ⅲ層とV層から出土した。それ以外では縄文時代早期後葉(I群b類)、前期前半(Ⅱ群a類)、中期後半(Ⅲ群b類)、後期(Ⅳ群a~c)、続縄文(Ⅵ群)、擦文(Ⅶ群)の各土器が少量出土した。

石器は有舌尖頭器、スポールなどの旧石器が出土しており大きな成果となっている。その他には石槍、石鏃、石錐、つまみ付ナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、たたき石、砥石、断面三角形のすり石、いかり石などが出土している。また土製品は有孔土製円盤が出土している。

6 基本土層

土層は、基本的に過年度のキウス遺跡群・チブニー2遺跡の調査で使われた土層区分を踏襲している。

I層：表土。

II層：樽前a降下軽石(Ta-a)。1739年に噴火した樽前山を起源とする降下軽石層。堆積するテフラの断面にはいくつかのフォールユニットが観察される。層厚は約30cm。

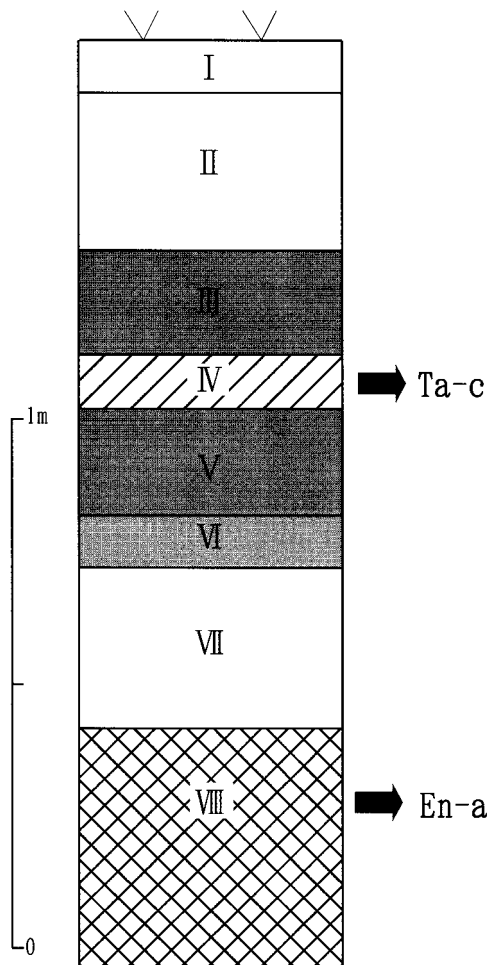


図 I - 4 土層模式図

- Ⅲ層：「第Ⅰ黒色土層（ⅠB）」に相当する黒色の腐食土層。層厚は約20cm。包含される遺構・遺物の時期は、古いほうから縄文時代晩期後葉～擦文文化期で、今回の調査では擦文文化期の墓（UP-5）や晩期後葉の墓（UP-7）などが検出されている。
- Ⅳ層：樽前c降下軽石（Ta-c）。BC.2,300年頃に噴火した樽前山を起源とする降下軽石層。層厚は約10cm。
- Ⅴ層：「第Ⅱ黒色土層（ⅡB）」に相当する黒色の腐食土層。層厚は約20cm。包含される遺構・遺物の時期は、古いほうから縄文時代早期～縄文時代晩期後葉である。
- Ⅵ層：暗褐色を呈する粘土質の腐食土層。Ⅴ層～Ⅶ層の漸移層。層厚は約10cm。縄文時代早期の遺構・遺物、後期旧石器を包含する。
- Ⅶ層：恵庭a降下軽石堆積物（En-a）の風化ローム層。橙色を呈する。層厚は約30cm。
- Ⅷ層：恵庭a降下軽石堆積物（En-a）。層厚は約2m。

7 調査と整理の方法

調査と整理に関しては二カ年ともほぼ同じスタイルで行っている。

重機によるⅠ・Ⅱ層除去の後、調査を開始した。まず、基本的にはグリッドメッシュに従って25%調査を実施し、遺跡内における遺構遺物の濃淡を見極め、全体の調査に及んでいる。

遺物は、グリッド単位で各層位ごとに取上げを行っている。また、遺構などの遺物で重要性が高いと判断されたものに関しては必要に応じて記録したのちに取り上げている。それらの遺物の一次整理に関しては、基本的に現地で行っている。

二次整理に関しては、11月以降に江別市の整理作業所において行っている。

土器は、接合・復元を試みた後、必要と判断されたものを実測図や拓影図を作成し、写真撮影などで記録した。石器等は、成品を中心に抽出し実測図の作成と写真撮影を行っている。鉄製品は保存処理を行ったのち実測図を作成し写真の撮影を行った。

微細遺物に関しては、フローテーションマシンと人力による選別作業を行ったが、今回は成果がなかった。

8 遺物の分類

（土器）

I群 縄文時代早期に属するもの。

a類 貝殻腹緑圧痕文、条痕文のある土器群。

b類 縄文、撚糸文、絡条体条痕文、貼付文などの施される土器群。

b-1類 東釧路Ⅱ・Ⅲ式に相当するもの。

b-2類 コッタロ式に相当するもの。

b-3類 中茶路式に相当するもの。

b-4類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの。

a類 縄文の施された丸底、尖底を特色とする土器群。

a-1類 綱文式に相当するもの。

a-2類 春日町式、中野式など、縄文の施された尖底を特色とするもの。

b類 円筒土器下層式、植苗式に相当するもの。

I 調査の概要

Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの。

a類 円筒土器上層式に相当するもの。

b類 天神山式、柏木川式、北筒式、煉瓦台式に相当するもの。

Ⅳ群 縄文時代後期に属するもの。

a類 余市式、入江式に相当するもの。

b類 船泊上層式、手稲式、鯰澗式、エリモB式に相当するもの。

c類 堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当するもの。

Ⅴ群 縄文時代晩期に属するもの。

a類 大洞B式、上ノ国式に相当するものと、それに並行する在地の土器群。

b類 大洞C式、大洞C' 式に相当するものと、それに並行する在地の土器群。

c類 大洞A式、大洞A' 式に相当するものと、それに並行する在地の土器群。

Ⅵ群 続縄文時代に属するもの。

Ⅶ群 擦文文化期に属するもの。

Ⅷ群 中世の陶磁器。

(石器・石製品・金属製品・その他)

石器は器種別の大分類にとどめ、一器種における記号による細分はおこなっていない。今年度報告分について、剥片石器は有舌尖頭器、スポール、石槍、石鏃、石錐、つまみ付ナイフ、つまみ付石器、スクレイパー類などがあり、礫石器には石斧、たたき石、すり石、砥石、台石・石皿、いかり石などがある。この他に石核、フレイク類 (Rフレイク (retouched flake)、Uフレイク (utilized flake)、フレイク・チップ) などがある。

土製品には有孔土製円盤がある。金属製品には手斧がある。

その他には、炭化物、動物・植物の遺存体などがある。

II Ⅲ層の調査

Ⅲ層の調査では、盛土状遺構1カ所(UM-1)、道跡1本(UR-1)、土壙10基(UP-2~11)、焼土20カ所(UF-38~47)、フレイク・チップ集中5カ所(UFC-1~5)などの遺構が見つまっている。大半が縄文時代晩期後葉のものと考えられる。UP-5は擦文文化期の、UP-4、6、7、9・10は晩期後葉の墓の可能性がある。

1 盛土状遺構

UM-1 (図I-5、II-4/表-8)

位置：H-55,I-54~56,J-55~57,K-56・57,L-57 規模：18.4×(4.5)/0.1m

長軸方向：N-46°-E

特徴 4グリッドに渡る広い範囲において検出されたローム質土は、本来的にⅢ層およびその上下層にも認められないもので、これを盛土状遺構として調査した。検出されたのは平成15年度調査区に接する部分である。本来的にはそちらの方まで範囲が及んでいたと考えられるが、恐らく約50%の範囲が未調査のまま失われている。残存する部分の層厚は最大で10cmほどになり周辺において徐々に薄くなる。ローム質土の起源はⅦ層と考えられるが、調査では風倒木などによる痕跡は認められていない。遺物はV群c類の土器片がローム質土の上面で検出されているが、周辺と比較して分布が密なことから人為的なものと推定される。盛土の中、あるいはその下位からは遺構や遺物は認められない。性格は不明である。

遺物 1~7のV群c類土器が出土した。1は深鉢形土器で、断面が切り出し形を呈する口唇部には、縄文と沈線文が施される。横走る沈線文の施される口縁部と胴部とは、刺突文の施される低い隆帯によって区切られている。2~4は縄文の施された胴部片で、2には軽い研磨の施された無文部が伴う。6・7は口縁部に低い突起が付く鉢形と考えられる土器である。6のやや外側に張り出す口唇部には棒状の施文具による連続の刻みが施される。7の口唇部もほぼ同様の特徴を有しており、それに加えて突起部の内面側にも沈線文が施されている。これらは時期的に晩期の末葉かあるいは続縄文初頭の可能性もある。

時期 検出層位と遺物から縄文時代晩期~続縄文初頭と考えられる。

2 道跡

UR-1 (図I-5)

位置：D-50~52,E-52~55 規模：19.3×0.5/0.05m

長軸方向：N-21.5°-E

特徴 平成17年度調査区の東端部で検出された幅50cm前後の浅い溝状の遺構である。確認されたのはⅣ層(Ta-c)を除去したⅢ層上面で、三カ所にトレンチを設け断面を調査したが掘り込みの痕跡は認められず、ただガラガラと5cmほど窪んでいる状態であった。溝は調査区東に位置するチブニー川の方から土壙群の方に向かって伸びており、本来的には16年度調査区にも及んでいたものと思われる。明らかに伴う遺物は見られないが、周囲の包含層からは縄文晩期後葉の遺物が多数出土しており、この溝においてはやや不自然に思われるほど遺物の出土が見られない。本遺構の伸びる方向の土壙群はほぼ墓と考えられることから、所謂「墓道」のような性格が推定される。

遺物 出土していない。

時期 検出層位と周囲の遺物から縄文時代晩期後葉の可能性がある。

3 土壙

UP-2 (図Ⅱ-1 / 図版4)

位置 : O-70 **規模** : 0.64×0.56 / 0.3×0.32 / 0.14m

長軸方向 : N-87° -E

特徴 平面形は楕円形で皿状であり、壁は緩やかに立ち上がる。UP-3を切っている。

遺物 出土していない。

時期 検出層位から縄文時代晩期以降である。

UP-3 (図Ⅱ-1 / 図版4)

位置 : O-70 **規模** : 0.96×(0.26) / 0.68×(0.14) / 0.18m

長軸方向 : N-113°-W

特徴 平面形は長楕円形で皿状であり、壁は緩やかに立ち上がる。UP-2に切られている。

遺物 出土していない。

時期 検出層位から縄文時代晩期以降である。

UP-4 (図Ⅱ-1 / 図版4)

位置 : C-56 **規模** : 1.16×1.04 / 0.77×0.73 / 0.36m

長軸方向 : N-113°-W

特徴 平面が不整の円形を呈する土壙である。壁は広がりながら緩やかに立ち上がる。覆土2層は埋め戻しと考えられることから墓の可能性はある。

遺物 出土していない。

時期 検出層位と周辺から出土するV群c類土器から縄文時代晩期末葉と考えられる。

UP-5 (図Ⅱ-1 / 表-3 / 図版4)

位置 : E-58 **規模** : (1.08) × (0.85) / (1.02) × (0.82) / (0.25) m

長軸方向 : N-136°-W

特徴 試掘穴に切られた状態で検出された土壙である。平面は隅丸の長方形を呈すると推定され、覆土は埋め戻されていることから擦文文化期の墓の可能性が高い。遺物は試掘調査時には図示したツキが出土しており、これが副葬されていたと考えられる。周囲の包含層からは同時期の遺物は皆無であった。

遺物 13は試掘調査で出土した小形のツキである。全体の約1 / 4が欠失しているが、本来的には一個体であったと思われる。内面は内黒で、表面はヘラで丁寧な研磨が施され光沢を帯びている。口縁には部分的に不明瞭な沈線が巡っている。

時期 検出層位と土壙の形態、推定される副葬品から擦文文化期と考えられる。

UP-6 (図Ⅱ-1 / 表-3 / 図版4)

位置 : E-58 **規模** : 0.59×0.56 / (0.41) ×0.39 / 0.19m

長軸方向 : N-85°-W

II Ⅲ層の調査

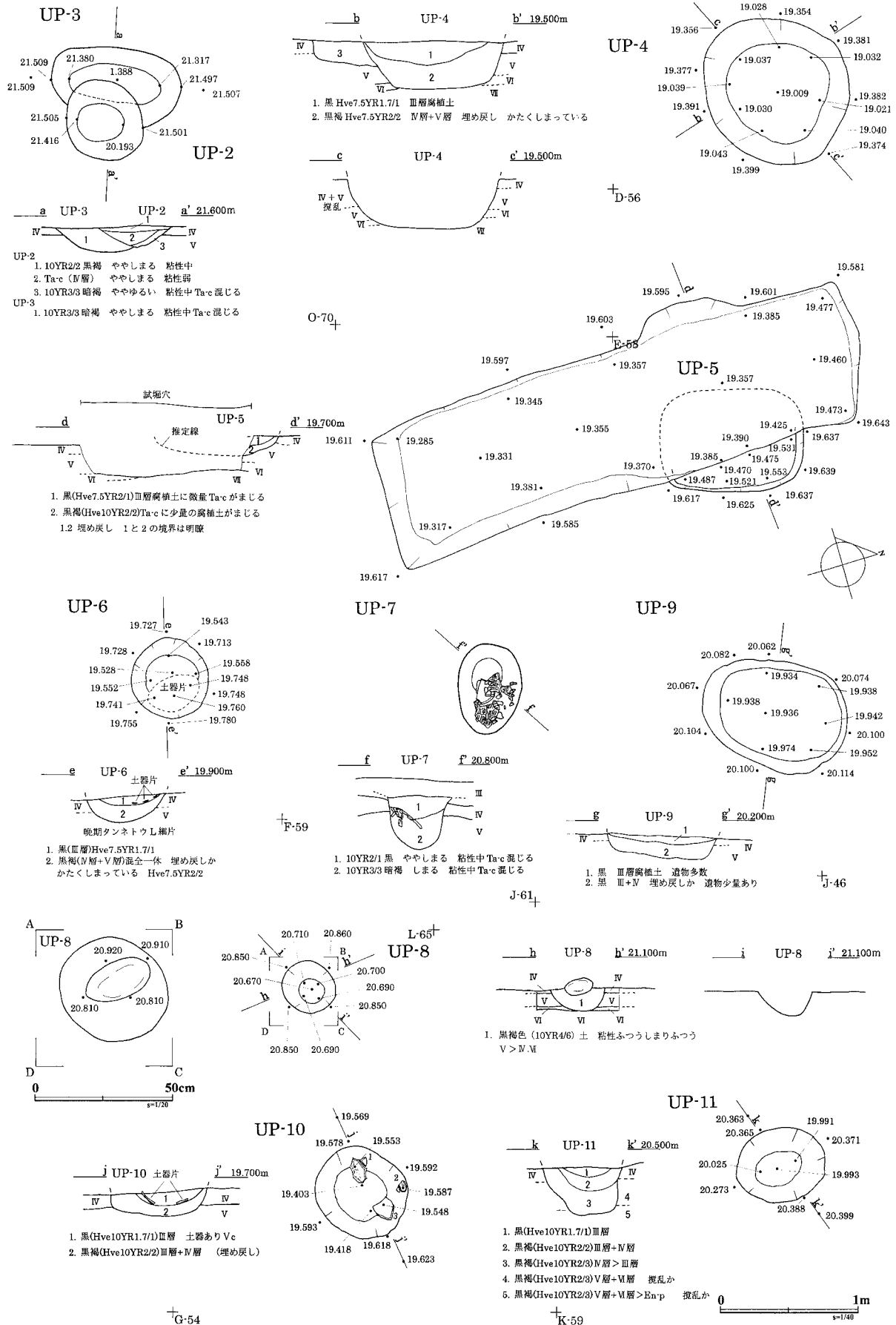


図 II - 1 Ⅲ層の遺構 (1)

特徴 平面がほぼ円形を呈する小形の土壙である。覆土2層は堅く締まった埋め戻し土で、遺物は破片状態でその上面から出土している。墓の可能性もあるが、規模的に見て乳幼児などに限定されよう。

遺物 8・11は地紋に縄文の施された小鉢或いは小形の浅鉢である。11は長軸の口縁部に突起を有するもので、口唇上には縄による刻みが施されている。8は長軸上に貫通孔を有する。

時期 遺物から縄文時代晩期後葉と考えられる。

UP-7 (図Ⅱ-1 / 表-3 / 図版4・16)

位置 : J-61 **規模** : 0.66×0.28 / 0.48×0.22 / 0.4m

長軸方向 : N-66°-W

特徴 平面形は卵形で底面は丸く、壁の立ち上がりは急である。覆土はⅢ層の流れ込みである1層(黒色土)と埋め戻しの2層(暗褐色土)である。

遺物 2層上面より14のV群c類~VI群土器がほぼ1固体出土した。口唇断面が角形の深鉢形土器である。器壁は厚く、焼成も良好である。地紋の縄文は口唇部を含むほぼ全面に見られるが、口唇部直下と底部近くには施されていない。やや飛び出した口唇部の外側には棒状の施文具で刻みが施されている。底部近くの器面には上下に細かい刺突列を伴った幅広で浅い沈線が巡っている。器高があり底部と胴部の境の屈曲が明瞭であることなど他のV群c類とは一線を画す趣がある。VI群の可能性もある。

時期 出土土器から縄文時代晩期末葉~続縄文初頭と考えられる。

UP-8 (図Ⅱ-1 / 表-3 / 図版4)

位置 : L-65 **規模** : (0.40) × (0.37) / 0.19×0.17 / (0.19) m

長軸方向 : N-62°-E

特徴 調査区中央の緩斜面に位置する。IV層除去中に礫と黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形はほぼ円形で、坑底はやや丸みを帯びるがほぼ平坦である。壁の立ち上がりはなだらかに立ち上がるが、坑底の中心がやや北東側に寄るため北東側がやや急である。覆土は上部か確認できないため断定は出来ないが、均質なことから埋め戻しの可能性が高い。また堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中と考えられる。

遺物 大形の楕円礫が出土している。

時期 掘り込み面がⅢ層中であることと周辺のⅢ層の遺物に続縄文時代のものがみられないことから、縄文時代晩期後葉と考えられる。

UP-9 (図Ⅱ-1 / 表-3 / 図版4)

位置 : I-45 / 46 **規模** : 1.07×0.79 / 0.91×0.68 / 0.16m

長軸方向 : N-130°-W

特徴 平面が不整の楕円形を呈する浅い土壙である。覆土2層は埋め戻しと考えられることから墓の可能性もある。遺物は1層から多数、2層からは少量のV群c類土器が出土している。

遺物 9・10・12・20・21はV群c類土器である。9・10は2層出土の胴部片で、器面には縄文が施されている。12は鉢形土器で口唇断面は鋭い切り出し形を呈している。内面に大きく傾斜する口唇上には器面と同じ地紋が施され、先端部の外側には棒状施文具による刻みが施される。口縁部には4条の並行する沈線文が巡る。20・21は深鉢形土器の底部周辺である。どちらもやや丸みを帯びる底部と

II Ⅲ層の調査

の境界は明瞭である。

時期 遺物から縄文時代晩期末葉である。

UP-10 (図Ⅱ-1 / 表-3 / 図版4)

位置 : F-54 **規模** : 0.69×0.64 / (0.40) ×0.35 / 0.17m

長軸方向 : N-101°-W

特徴 平面が不整の円形を呈する小形の土壙である。覆土2層は埋め戻しと考えられ、遺物はその上位からの出土である。覆土の埋め戻しと遺物の出土状況から墓の可能性もあるが、規模的に見て被葬者は幼児などに限定されよう。

遺物 22の大型の浅鉢形土器が出土している。長軸上には内面に低い隆線による文様を持つ大型の突起が付されており、その下位の器面には2カ所の貫通孔が穿たれている。口唇上には縄線文が施され、器面には縄文が施されている。

時期 遺物から縄文時代晩期後葉である。

UP-11 (図Ⅱ-1 / 表-3 / 図版4)

位置 : J-59 **規模** : 0.66×0.54 / 0.35×0.24 / 0.34m

長軸方向 : N-5°-E

特徴 平面形が不整の楕円を呈する土壙である。近接して風倒木が位置するため、少なからず攪乱を受けている。性格は不明である。

遺物 出土していない。

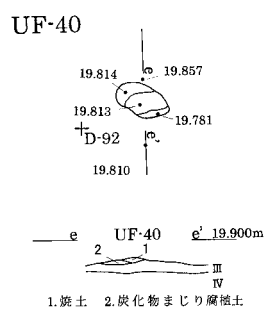
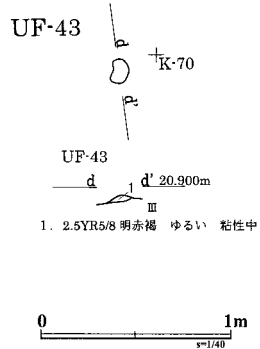
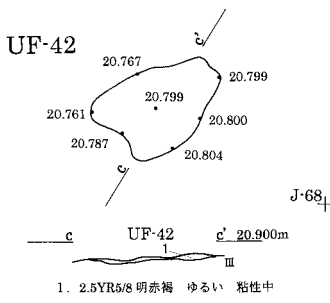
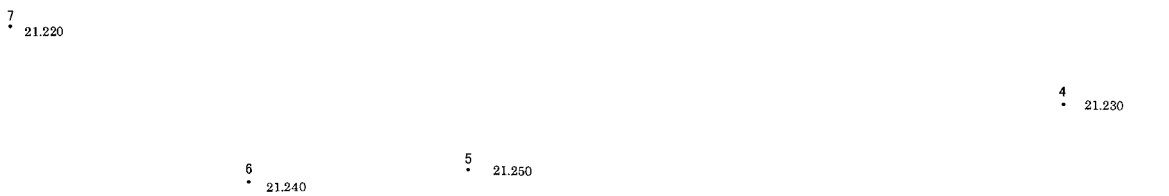
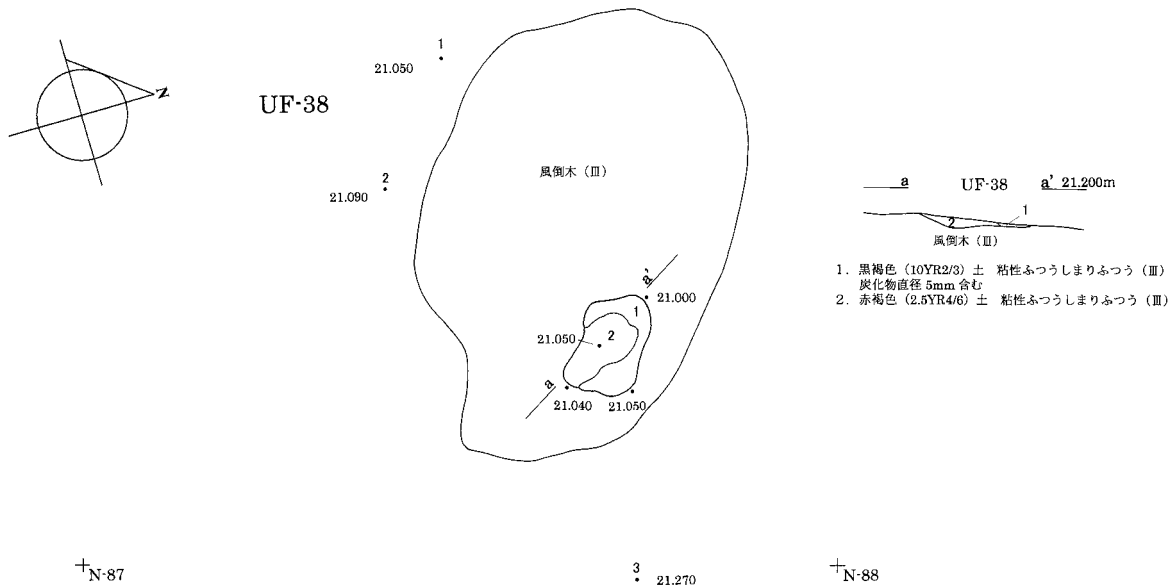
時期 検出層位から縄文時代晩期以降である。

4 焼土

UF-38~47 (図Ⅱ-2・3・6 / 表-4・8)

5 フレイク・チップ集中

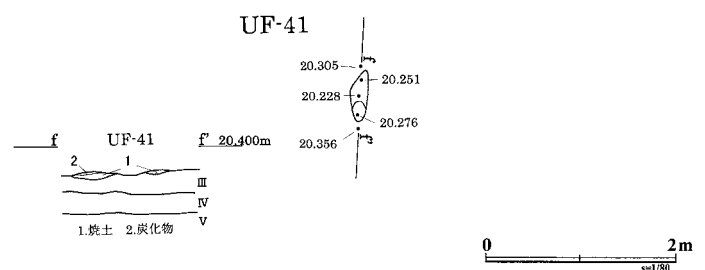
UFC-1~3 (図Ⅱ-3・5 / 表-5・10)



H-88

F-90

F-91



図Ⅱ-2 Ⅲ層の遺構 (2)

II Ⅲ層の調査

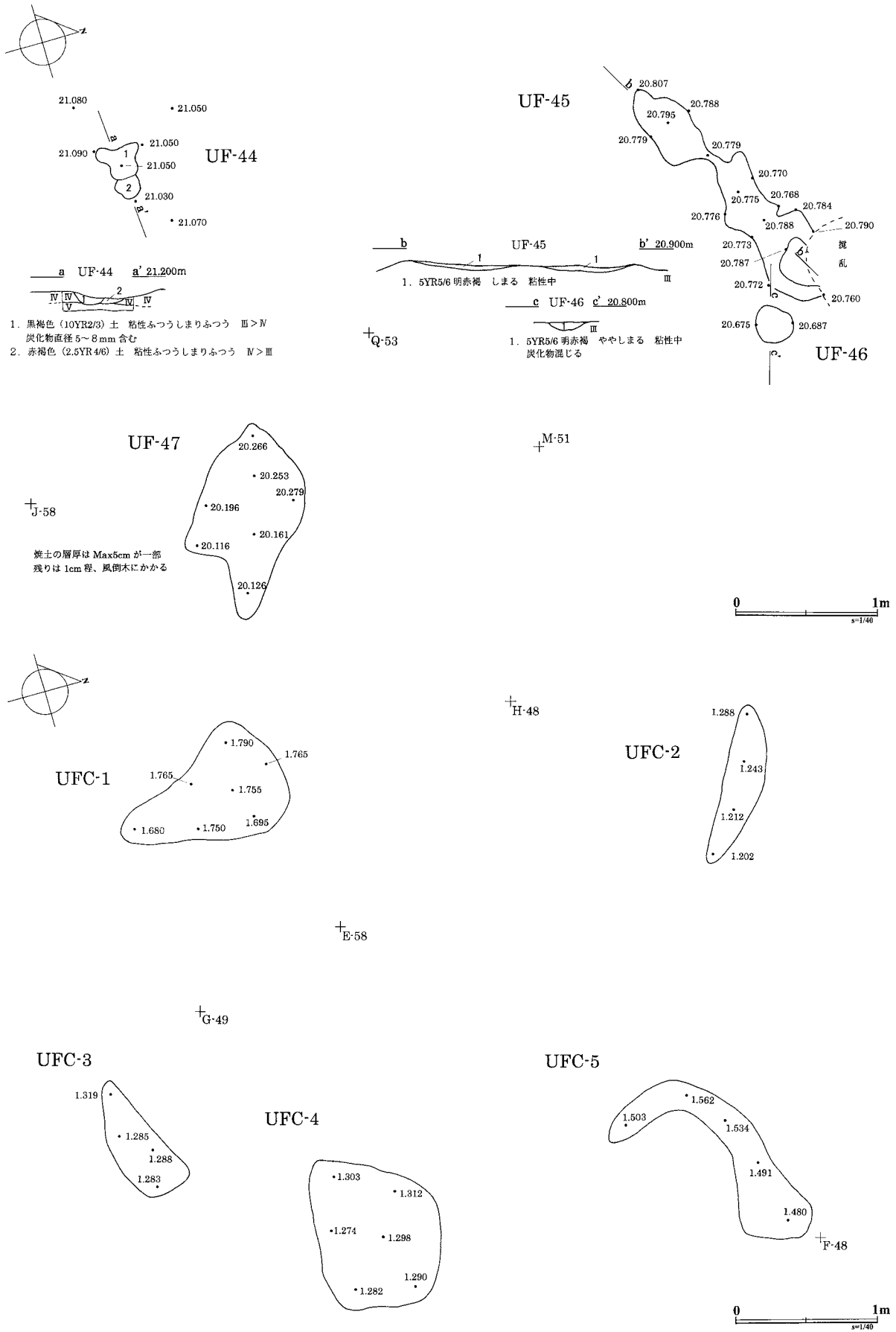
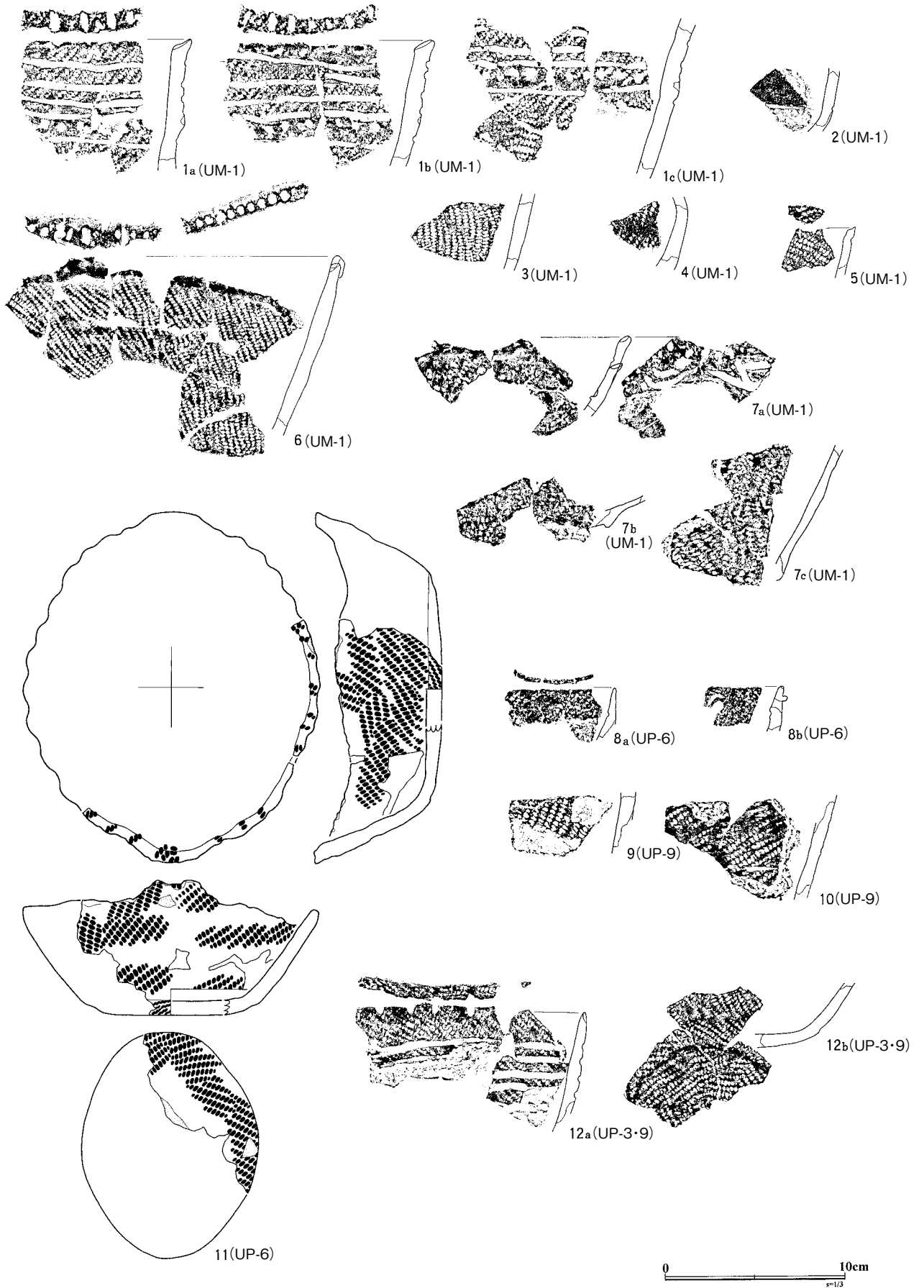


図 II-3 Ⅲ層の遺構 (3)

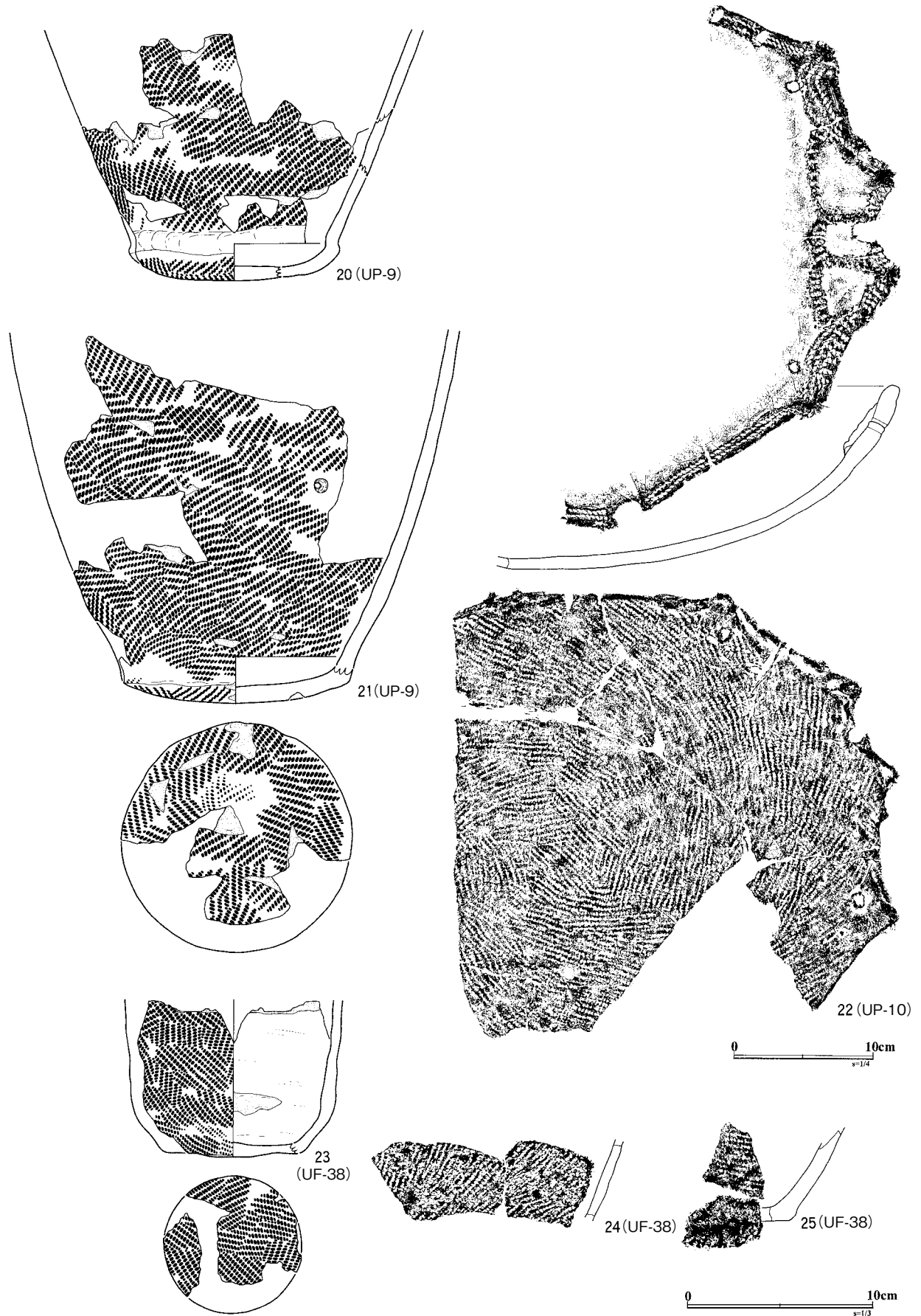


図Ⅱ-4 Ⅲ層遺構の遺物(1)

II Ⅲ層の調査



図Ⅱ-5 Ⅲ層遺構の遺物(2)



図Ⅱ-6 Ⅲ層遺構の遺物(3)

Ⅲ V層の調査

V層の調査では、土壙3基(LP-6～8)、焼土111カ所(LF-59～169)などの遺構が見つまっている。LP-6・7は縄文中期後半、8は縄文時代晩期後葉の墓の可能性がある。焼土の多くは縄文時代晩期のものと思われるが、それ以外に自然のものと思われる焼土も多く、風倒木に接している焼土に関してはその傾向が極めて強いと言えよう。

1 土壙

LP-6 (図Ⅲ-1 / 表-6 / 図版4)

位置：O-70 規模：0.64×0.56 / 0.3×0.32 / 0.14

長軸方向：N-87°-E

特徴 LP-7と隣接する平面が不整の円形を呈する大型の土壙である。ほぼ平坦な壙底面はⅧ層を掘り込んで作られており、壁は緩やかに広がりながら立ち上がる。覆土は2～6層が埋め戻しと考えられるもので、規模、LP-7との配置などから見て、墓の可能性が高い。

遺物 出土していない。

時期 検出層位と覆土の状態から縄文時代早期～晩期が考えられ、中でも遺跡内から見つかった住居から中期後半の可能性が考えられる。また、遺物の出土分布から晩期後葉にも可能性が残る。

LP-7 (図Ⅲ-1 / 表-6 / 図版4)

位置：O-70 規模：0.64×0.56 / 0.3×0.32 / 0.14

長軸方向：N-87°-E

特徴 LP-7と隣接する平面が不整の円形を呈する大型の土壙である。ほぼ平坦な壙底面はⅧ層を掘り込んで作られており、壁は緩やかに広がりながら立ち上がる。覆土は2～6層が埋め戻しと考えられるもので、規模、LP-6との配置などから見て、墓の可能性が高い。

遺物 出土していない。

時期 検出層位と覆土の状態から縄文時代早期～晩期が考えられ、中でも遺跡内から見つかった住居から中期後半の可能性が考えられる。また、遺物の出土分布から晩期後葉にも可能性が残る。

LP-8 (図Ⅲ-1 / 表-6 / 図版4)

位置：O-70 規模：0.64×0.56 / 0.3×0.32 / 0.14

長軸方向：N-87°-E

特徴 平面が不整の楕円形を呈する大型の土壙である。ほぼ平坦な壙底面はⅧ層を掘り込んで作られており、壁は僅かに広がりながら立ち上がる。覆土は2～6層が埋め戻しと考えられるもので、周囲からは晩期後葉の遺物や焼土が密に検出されている。規模などから墓の可能性が高いと考えられる。

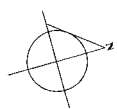
遺物 出土していない。

時期 検出層位と覆土の状態、遺物の出土分布から晩期後葉と考えられる。

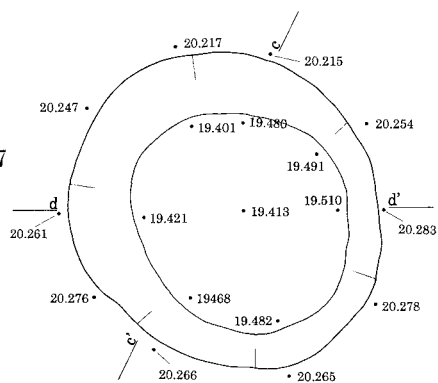
2 焼土

LF-59～169 (図Ⅲ-2～11 / 表-7・9)

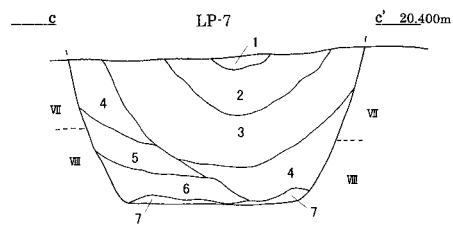
+L-52



LP-7



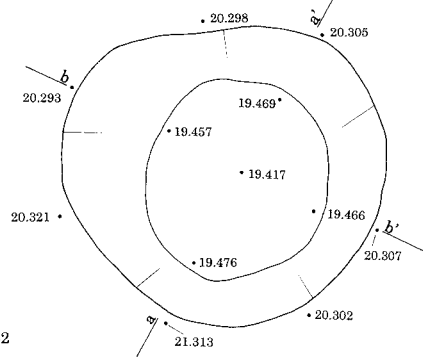
+L-53



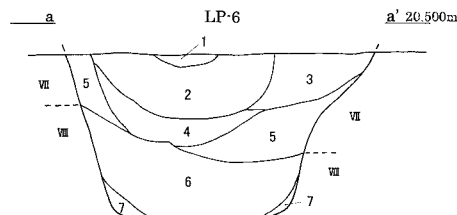
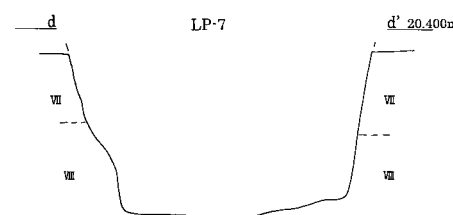
1. 黒色土 V層腐植土
2. 黒色土 V層にⅧ層が少量まじる
3. 明褐色土 V層、Ⅷ層、Ⅷ層がほぼ等しくまじる
4. 暗褐色土 Ⅷ層に少量のⅧ層がまじる
5. 暗褐色土 Ⅷ層に少量のⅧ層とⅧ層がまじる
6. 暗褐色土 Ⅷ層とⅧ層がほぼ等しくまじる
7. 暗褐色土 V層とⅧ層がほぼ等しくまじる

LP-6

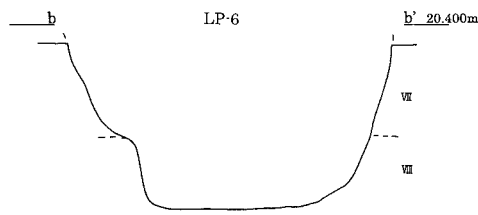
+M-52



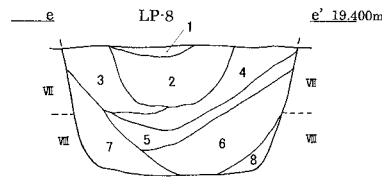
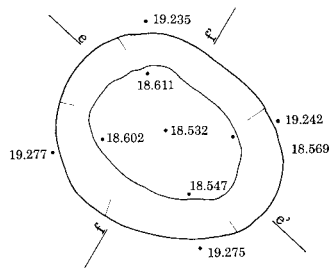
+M-53



1. 黒色土 V層腐植土
 2. 黒色土 V層にⅧ層が少量まじる
 3. 明褐色土 V層、Ⅷ層、Ⅷ層がほぼ等しくまじる
 4. 明褐色土 Ⅷ層、Ⅷ層、Ⅷ層がほぼ等しくまじる
 5. 黄褐色土 Ⅷ層
 6. 明褐色土 Ⅷ層に少量のⅧ層と微量のV層がまじる
 7. 黄褐色土 粒の細かいⅧ層、崩落
- *3~6は埋め戻し

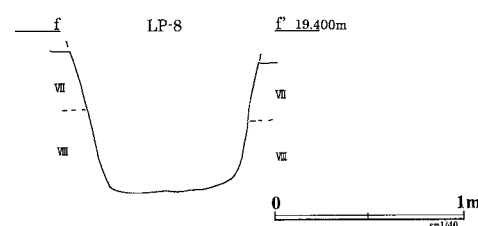


LP-8



1. 黒色土 V層腐植土に微量のⅧ層がまじる
2. 暗褐色土 V層とⅧ層が等しくまざるものに少量のⅧ層、微量のⅧ層がまじる
3. 暗褐色土 V層、Ⅷ層、Ⅷ層が等しくまざるものに微量のⅧ層がまじる
4. 暗褐色土 V層、Ⅷ層、Ⅷ層、Ⅷ層が等しくまじる
5. 黒褐色土 V層とⅧ層が等しくまざるものに少量のⅧ層がまじる
6. 褐色土 Ⅷ層、Ⅷ層、Ⅷ層が等しくまじる
7. 暗褐色土 V層とⅧ層が等しくまざるものに少量のⅧ層とⅧ層がまざる
8. 暗褐色土 Ⅷ層にⅧ層が少量まざる

+G-43



図Ⅲ-1 V層の土壌

III V層の調査

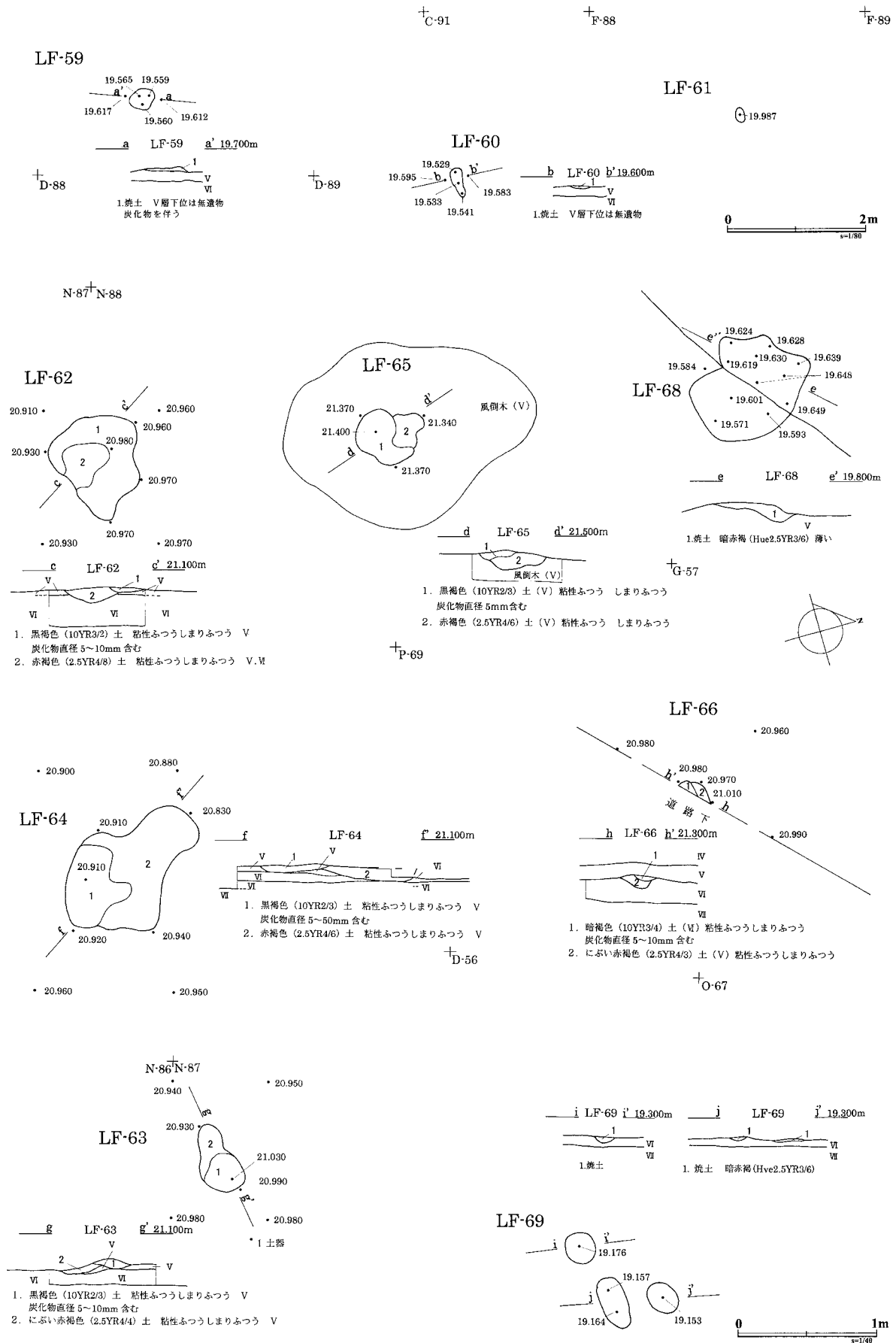


図 III-2 V層の焼土 (1)

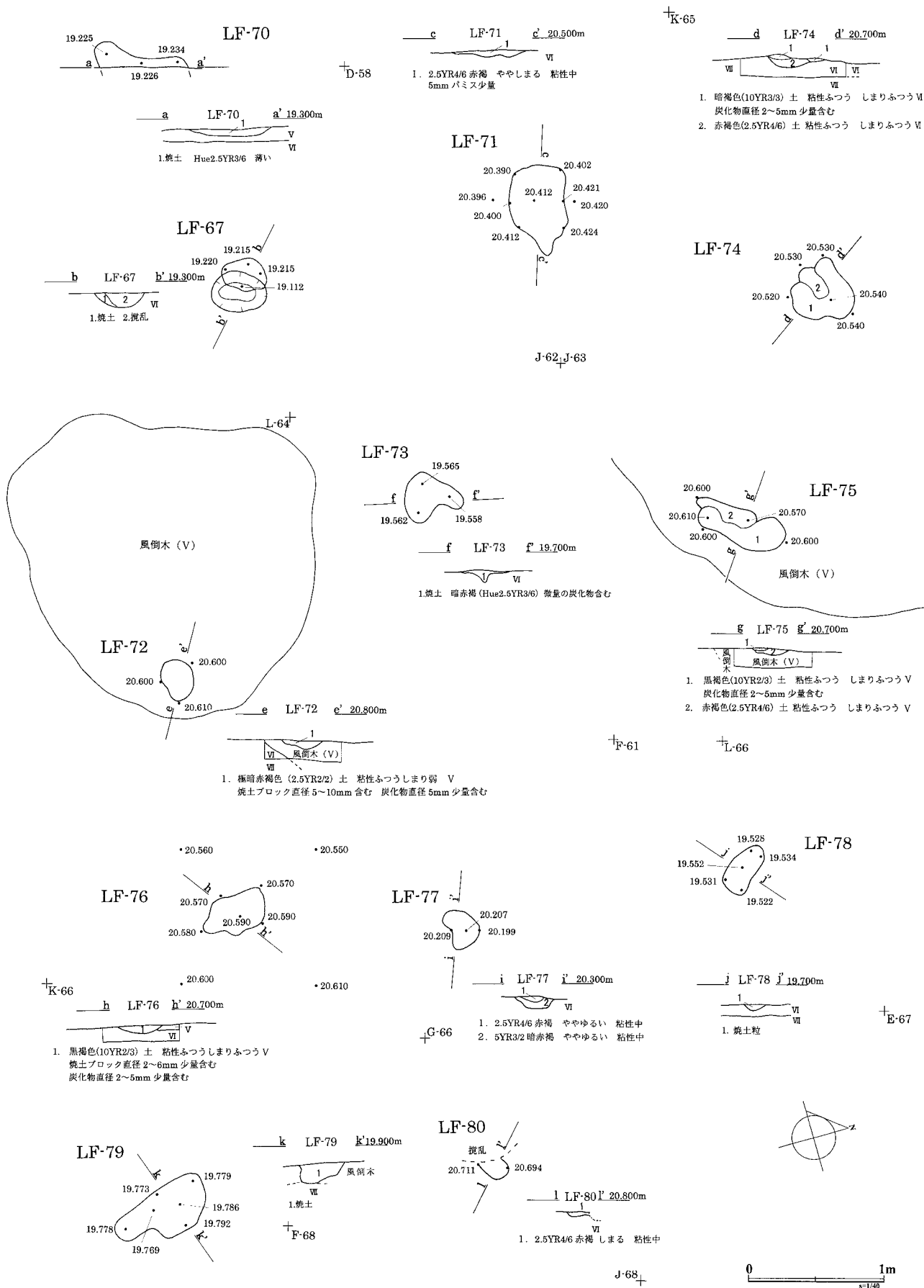
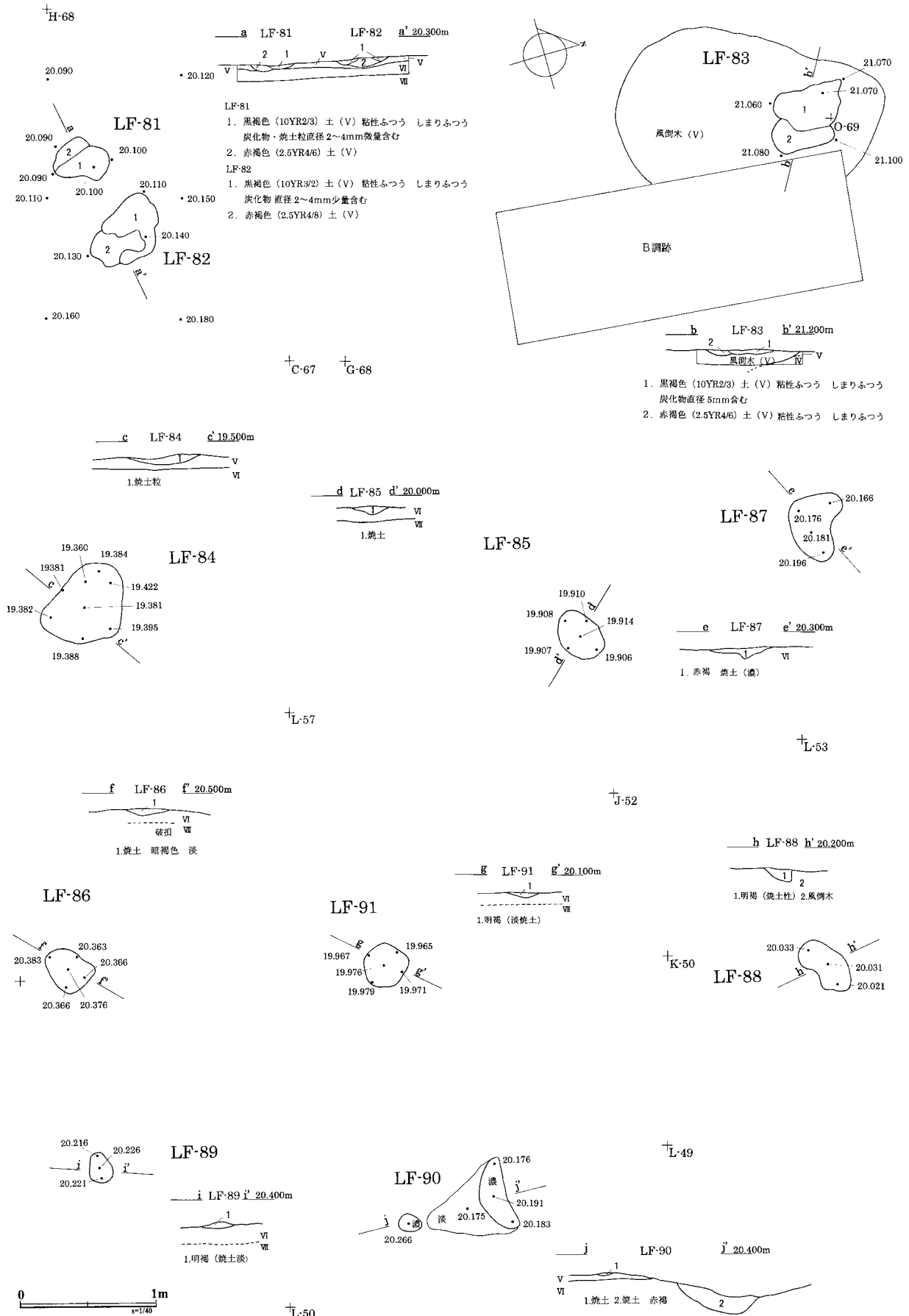
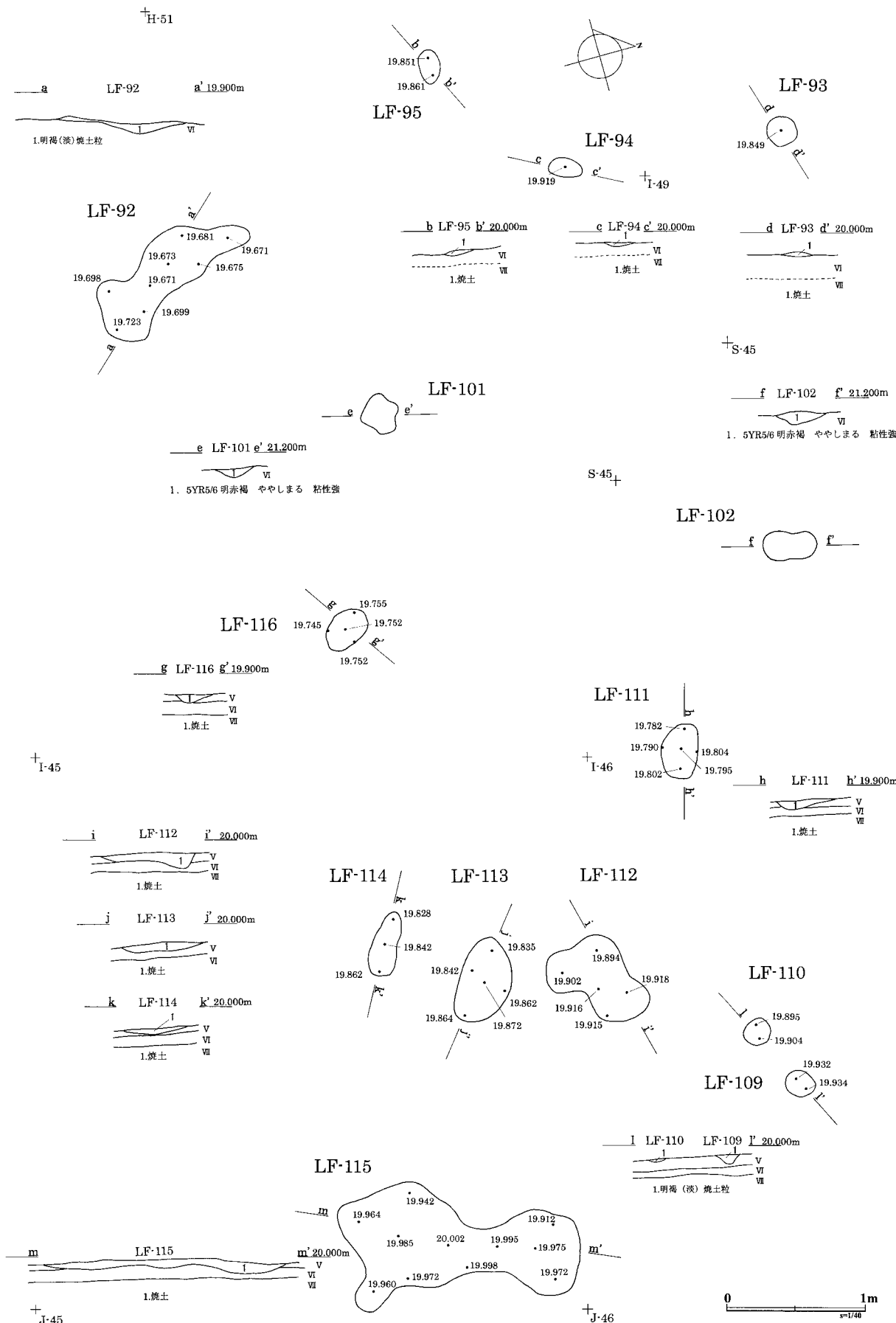


図 III-3 V層の焼土 (2)

III V層の調査

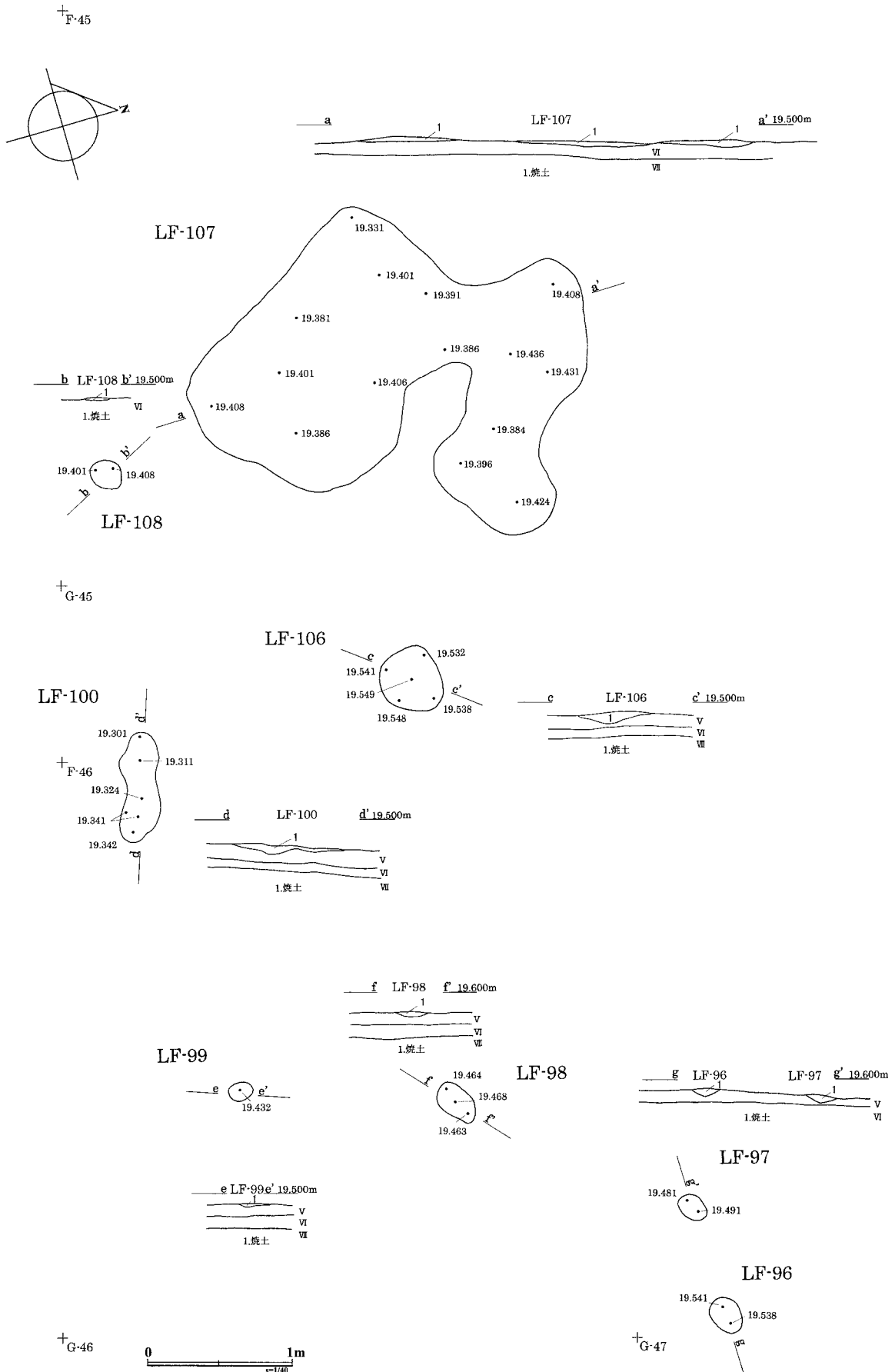


図III-4 V層の焼土 (3)

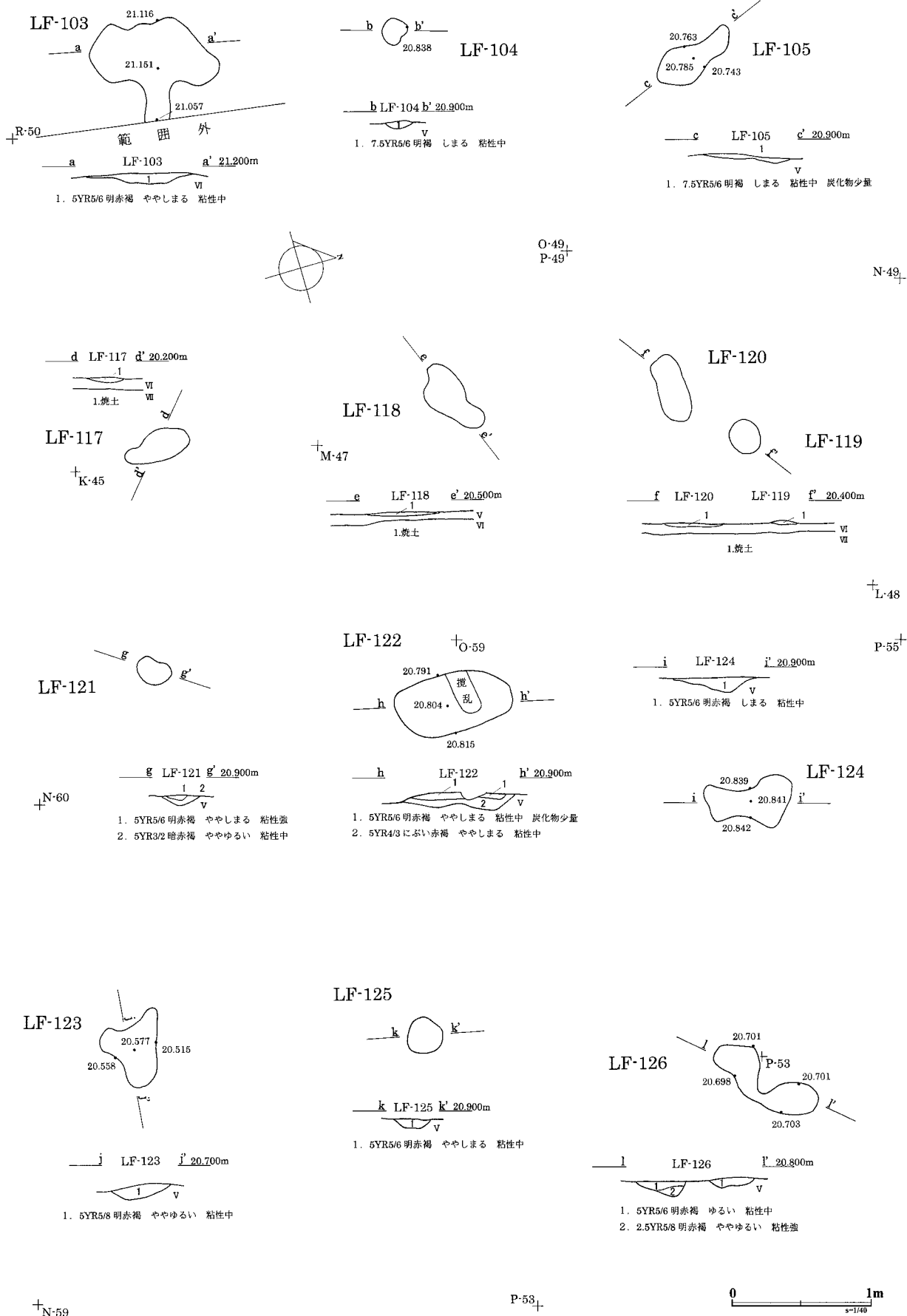


図Ⅲ-5 V層の焼土(4)

III V層の調査

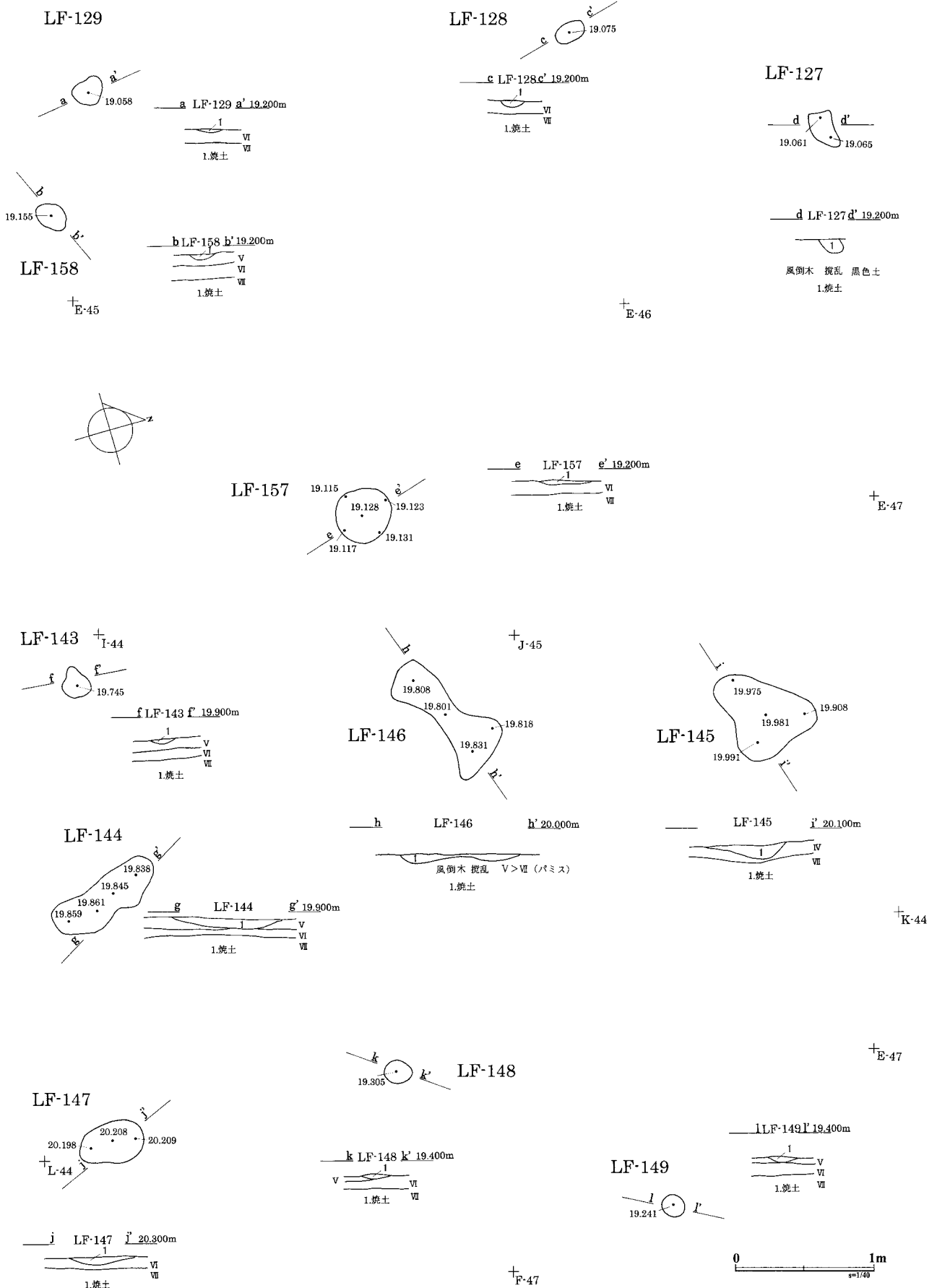


図III-6 V層の焼土(5)

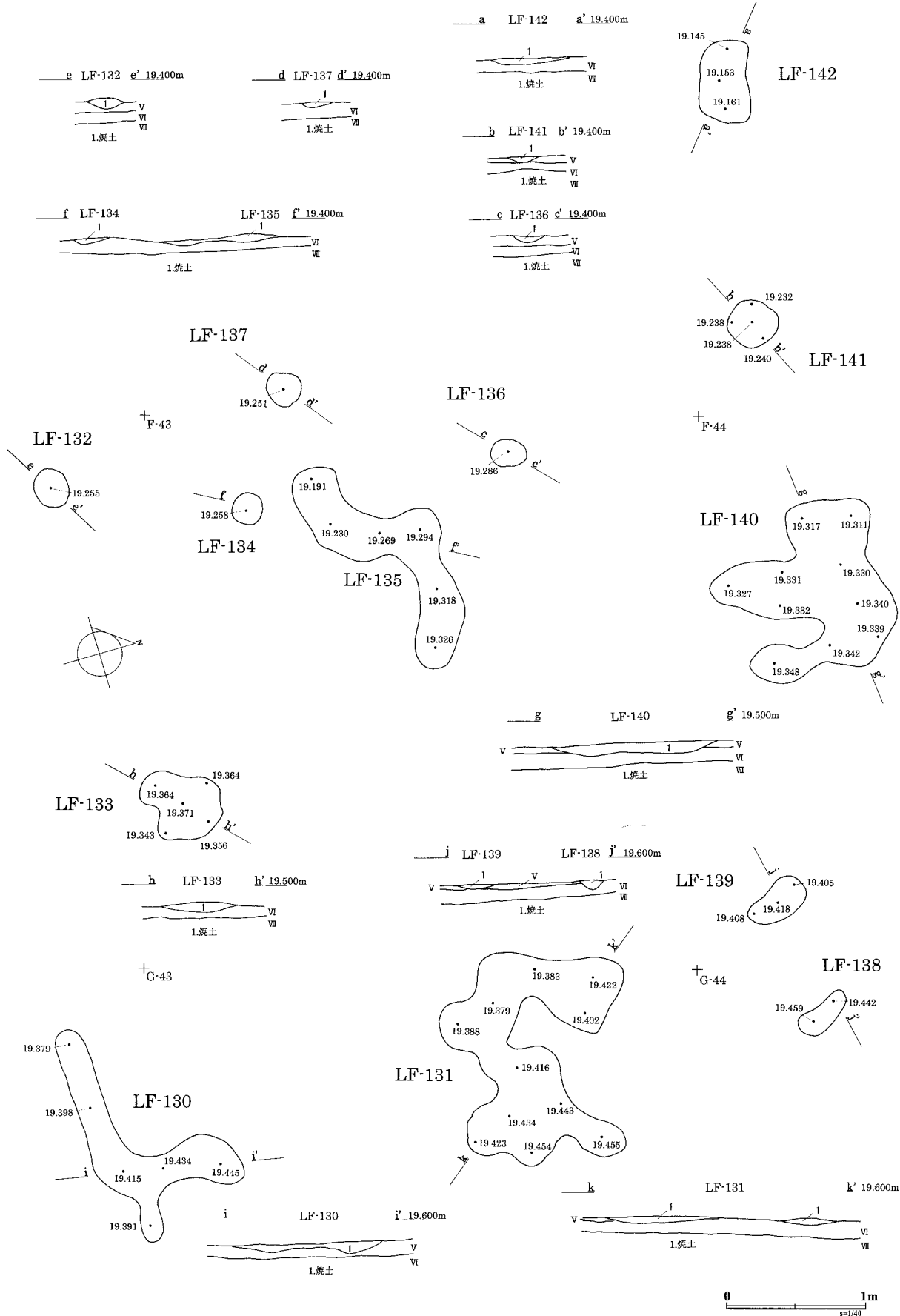


図Ⅲ-7 V層の焼土(6)

III V層の調査

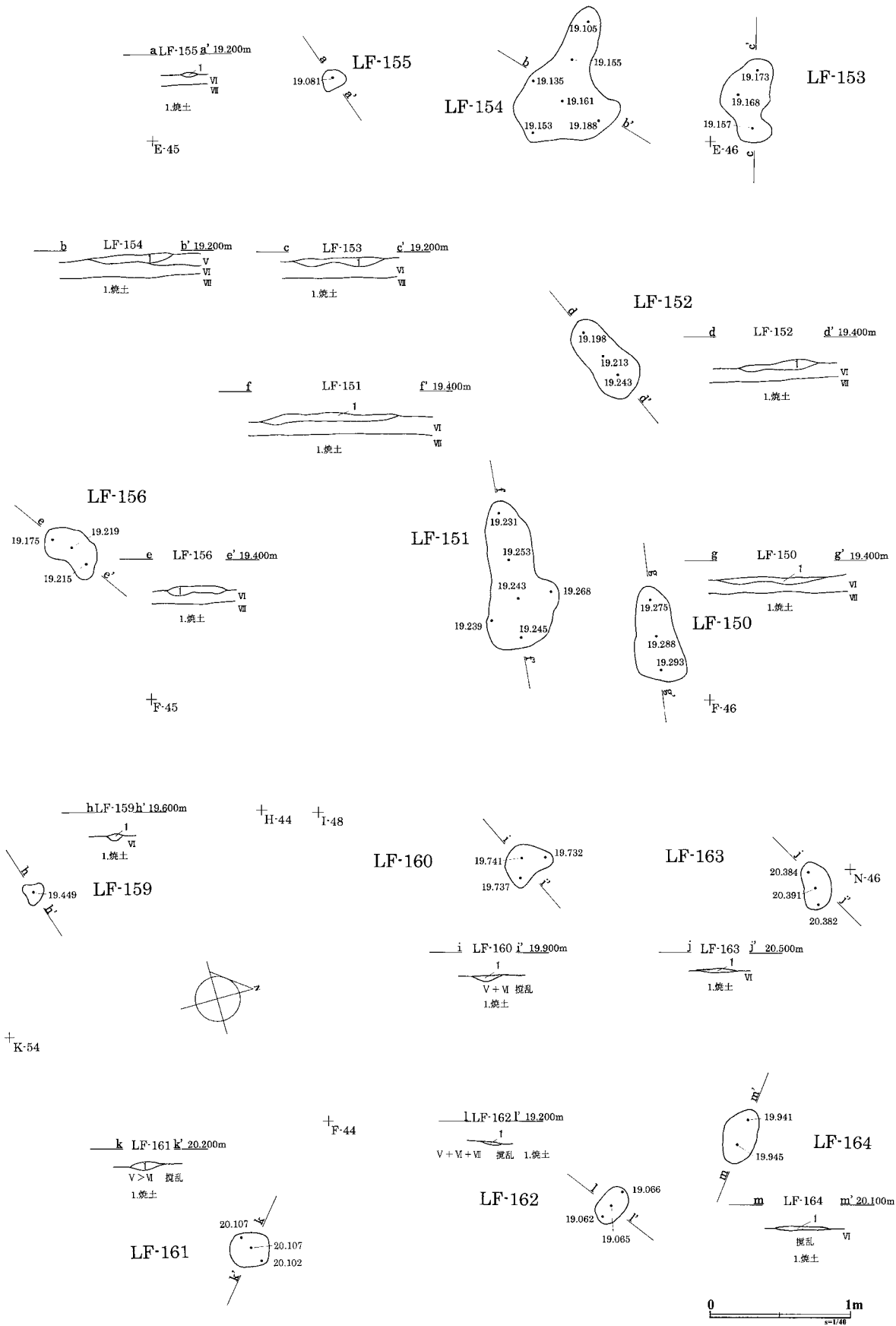


図III-8 V層の焼土(7)

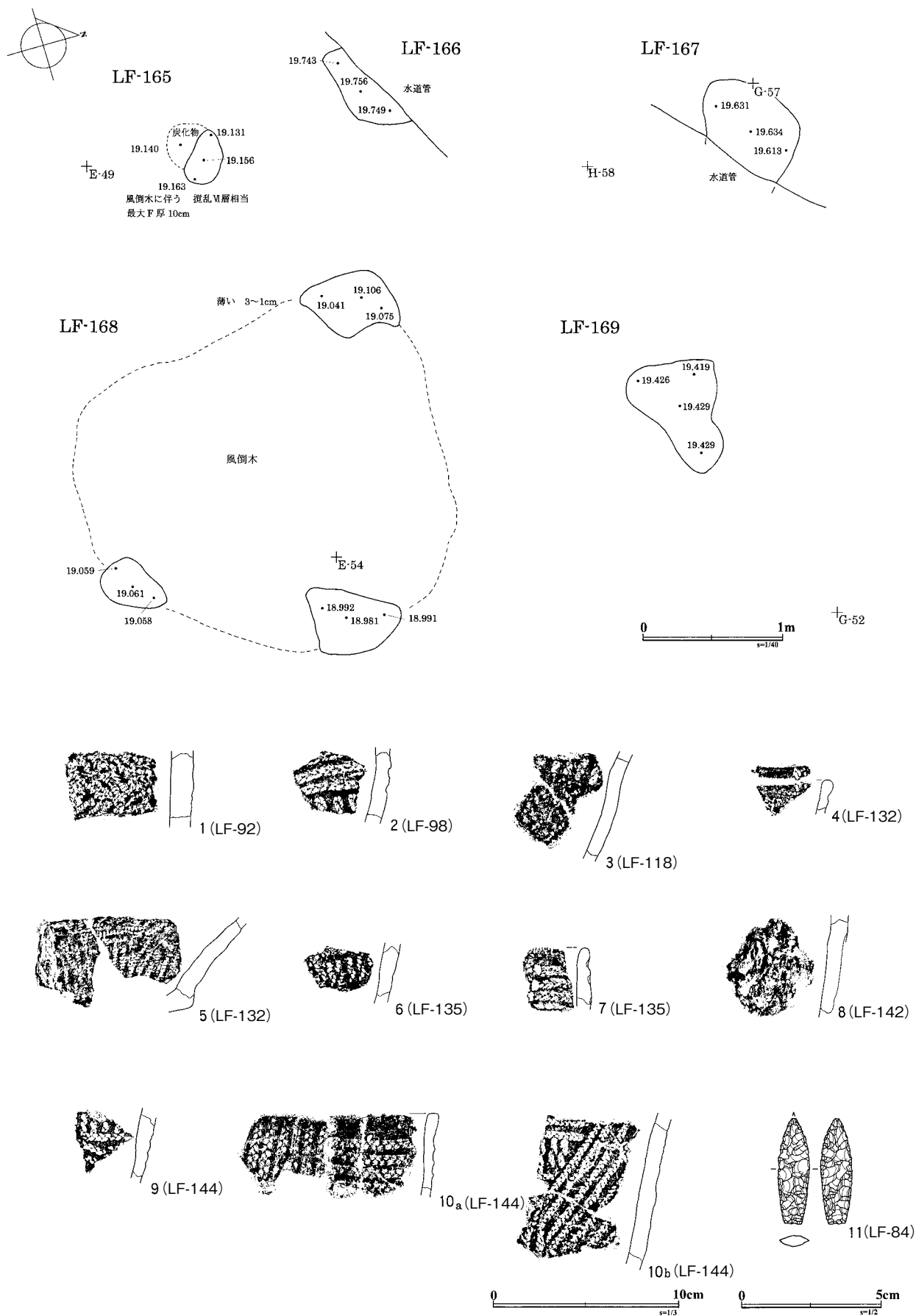


図Ⅲ-9 V層の焼土(8)

III V層の調査



図III-10 V層の焼土(9)



図Ⅲ-11 V層の焼土(10)とV層遺構の遺物

IV 包含層の遺物

主な包含層は、Ⅲ層、Ⅴ層、Ⅵ層である。これらから、2カ年で総数13708点の鉄製品、土器、石器、土製品などの遺物が出土した（表Ⅰ－1）。

1 鉄製品（図Ⅳ－1）

1はⅢ層で出土した手斧である。小型のもので刃部は撥形を呈している。長さは7.85cm、幅3.75cm、厚さ1.70cm、重さは83.20gである。周囲には関連する遺物が皆無で単独での出土であるが、時期的に平成16年度調査報告の擦文文化期の墓（UP－1）に副葬された鉄製品群と大きく矛盾する形態ではない。同期か、あるいは何らかの理由でUP－1から移動した可能性もある。

2 土器（図Ⅳ－2～12／表－12）

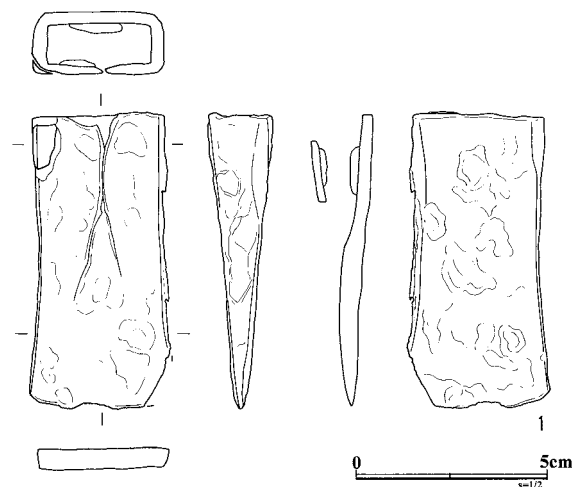
土器は11940点が出土している。主体は縄文時代晩期後葉のⅤ群c類土器で、Ⅲ層とⅤ層から出土した。それ以外では縄文時代早期後葉（Ⅰ群b類）、前期前半（Ⅱ群a類）、中期後半（Ⅲ群b類）、後期（Ⅳ群a～c）、続縄文（Ⅵ群）、擦文（Ⅶ群）の各土器が少量出土した。以下、古い順に述べる。

Ⅰ群b－1類土器（1～6）

全て深鉢形土器である。1、2、4、5の底部間際の器面には縄あるいは管状の施文具で刻みが巡らされている。1は胴部に太い縄による短縄文が施されたもので、底部近くでは縄線文と縄文が施される。2も胴部に短縄文と縄文が施されるもので、退部下端の張り出しは比較的小さい。Ⅰ群b－2類土器の可能性もある。3は口唇部が外側に大きく張り出す口縁部で、口唇上には縄線文と縄の押捺が、器面には縄線文と組紐が押捺されている。6はLF－118出土の土器で、3と同一個体の可能性が高い。

Ⅰ群b－4類土器（7～9）

7、8は胴部、9は丸底の破片である。7、9には自縄自巻の原体による撚糸文風の施文が施され、7には綾絡文も施されている。8は絡条体を羽状構成に施したものである。



図Ⅳ－1 鉄製品

Ⅱ群a類土器 (10)

10は網文土器の胴部で、胎土中には繊維を含む。

Ⅲ群b類土器 (11～21)

全て深鉢形土器である。11～16は口縁部で、11～14は文様の施された肥厚帯を持つ。文様は11、13が篋状の施文具による細かい刻み、12が管状の施文具による2段の刺突列、14、15は半裁竹管状の施文具による2段の刺突列である。12、14、15の肥厚帯下位には大型の刺突文が巡らされている。

17～20は、口縁近くの胴部である。粘土紐の貼付による装飾が施されている。18は地紋に結束羽状縄文の施された底部である。

Ⅳ群a類土器 (22)

22は深鉢形土器で、口縁部から胴部の器面に縦横の粘土紐が貼付されている。

Ⅳ類b類土器 (23～25)

23は全面に丁寧な研磨（磨り消し？）が施された壺形土器である。24、25は深鉢形土器の胴部と底部で、24の器面には沈線で区画された磨り消し部と縄文が施されている。

Ⅳ群c類土器 (26～32)

全て深鉢形土器である。26～28は口縁部で、26、28には突瘤文が施されている。29～32は底部で、全て上げ底或いは上げ底気味である。29の底部近くの器面には爪先を押捺した文様が巡らされている。

Ⅴ群c類土器 (33～101)

晩期末葉のものである。一部には続縄文初頭の特徴が認められる

33～64は深鉢形土器で、Ⅲ層から出土したこれらには沈線文を主体あるいはそれを含む文様が施されている。

口縁部において主体となる文様は、33～35、49、51が蛇行する沈線文、33～36が並行沈線文、43、44、47、48が櫛状の施文具によると考えられる細かい沈線文が施されている。更にこれに、42には縄線文、45、48には縦位の短い沈線が加えられている。

口唇部には33～35、37～39、40、45～49、54～56のように縄文が施されるものが多い。それ以外には42、44、50のような撚糸文、52、53のような縄の圧痕なども認められる。51～56は器面に地紋の縄文だけが施されるものである。56は羽状を構成するもので口唇部の外側が強く張り出す。55は続縄文初頭になるかもしれない。57は貼付が横環する胴部、58～64は底部とそれに繋がる胴部である。58～62の、胴部から底部にかけての屈曲部は比較的明瞭で、63、64は僅かに上げ底を呈している。

65～73は浅鉢形土器である。個体数は少なく器形も鉢形に近い傾向のものが多い。

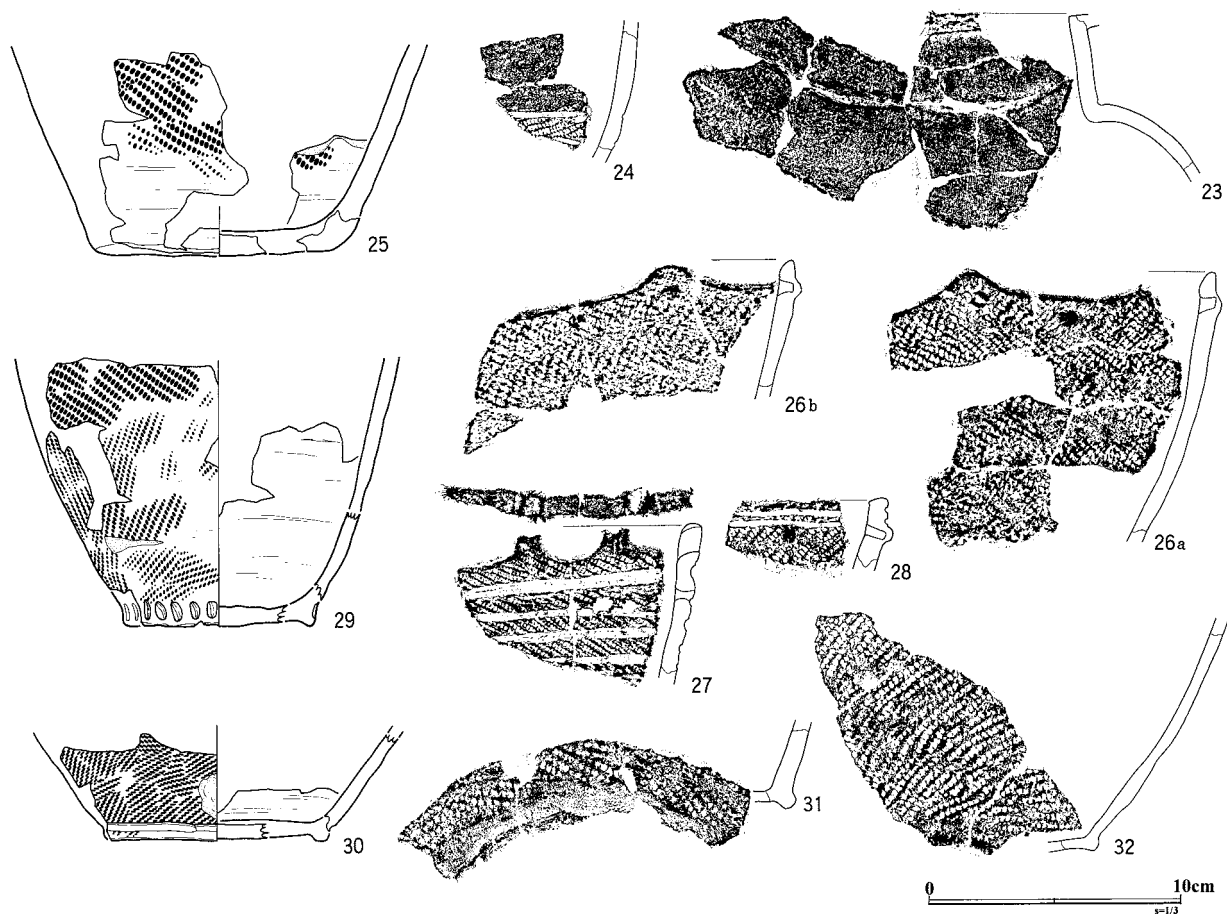
65～69、71は口縁部に比較的大きめの突起を持つもので、口唇部には撚糸を主体とした施文が見られる。65、66は、口縁部内面側にも撚糸を用いた文様が施されている。72、73の口唇部には縄文が施されている。

74～86は鉢形あるいは小形の鉢形土器である。これらの胴部から底部にかけての屈曲部は比較的明瞭なものが多い。73～75、78の口縁部には低い突起が備わっている。74、75、77、84、85の口唇断面は外側が強く張り出す。80、81、84の口唇部には縄文が施されている。

IV 包含層の遺物



図IV-2 土器(1)



図Ⅳ-3 土器 (2)

87～89は舟形土器と考えられるものである。口縁部は垂下する貼付と太目の沈線とによる文様帯を持つ。87、88の貼付には貫通孔が穿たれている。

90～94は壺形あるいは異形土器と考えられるものである。器面には太目の沈線を用いた文様で飾られている。93は地紋が恵山式に見られるような細かい多条縄文が使われている。一見すると浅めの沈線と相まって堂林式のようにも見えるが、Ⅲ層出土であるため恵山式の影響を受けたタンネトウL式土器と思われる。

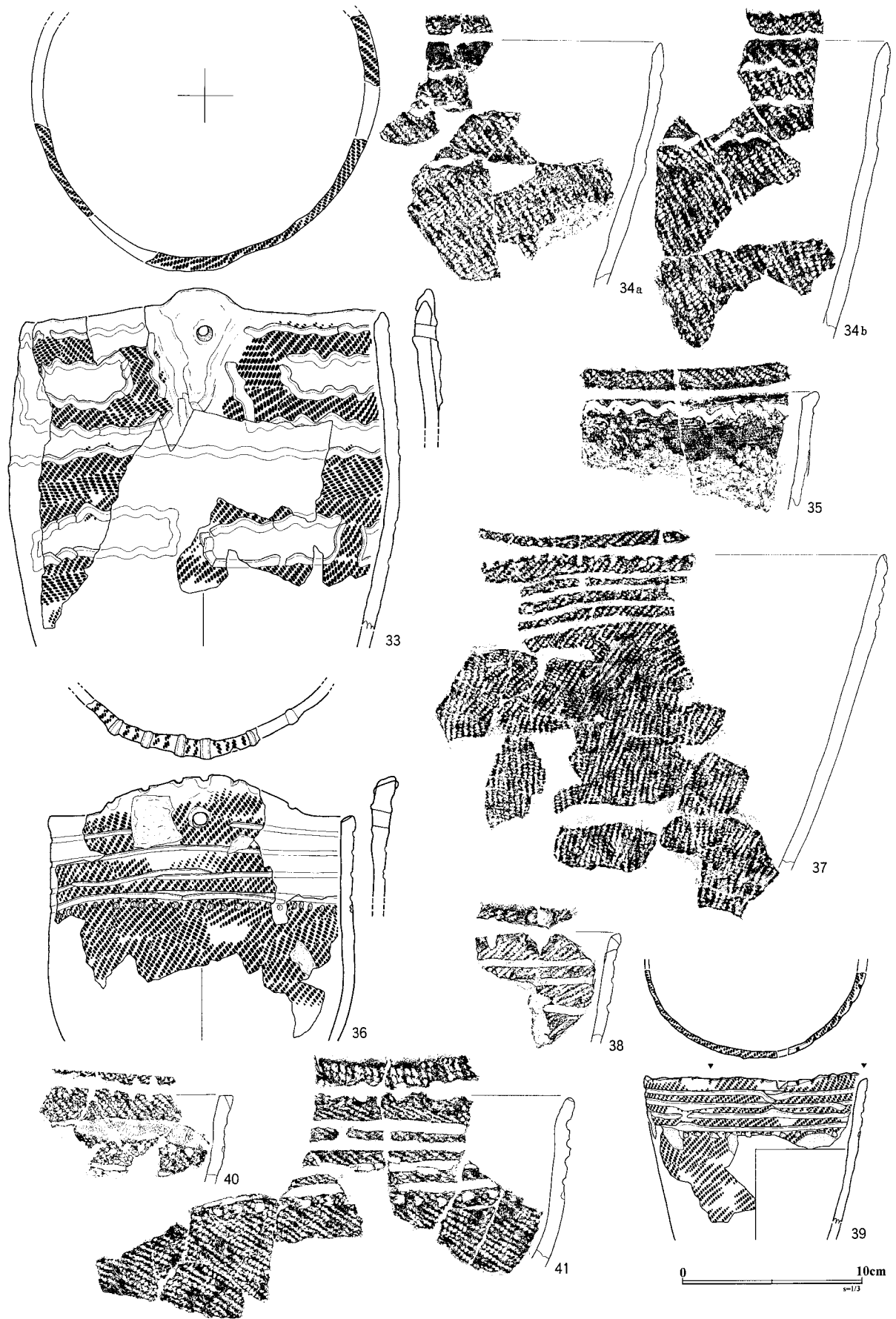
95～101は所謂「大洞系」の土器である。C2の新手～A式に相当する。95～97、100は壺形、98、99、101は鉢形と考えられる。

Ⅵ群土器 (102)

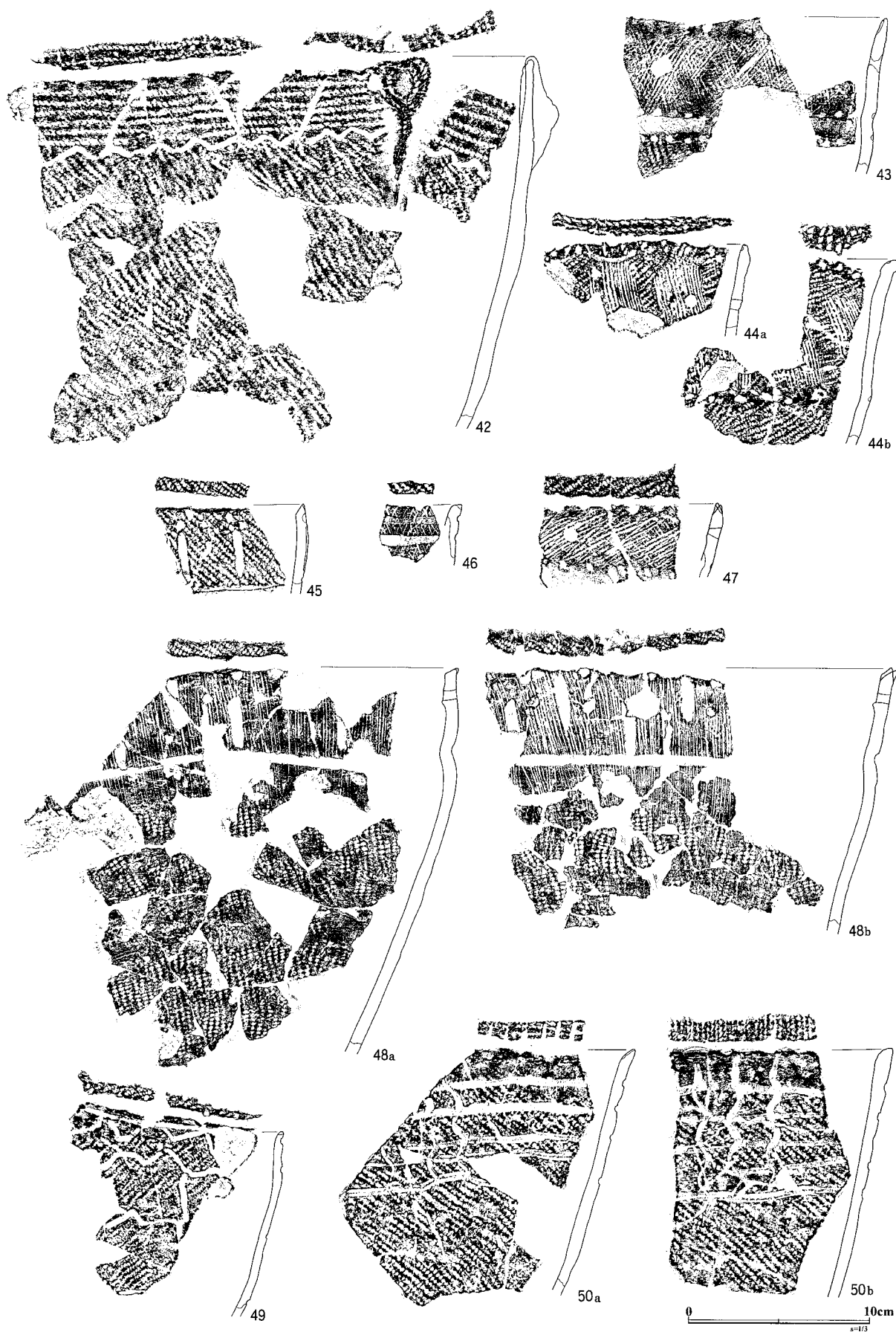
102は胴部の破片で、器面には縞状の特殊縄文が施されている。

Ⅶ群土器 (103～105)

103～105は深鉢形土器で、104は内湾する口縁部、103、105は沈線文の施された胴部である。

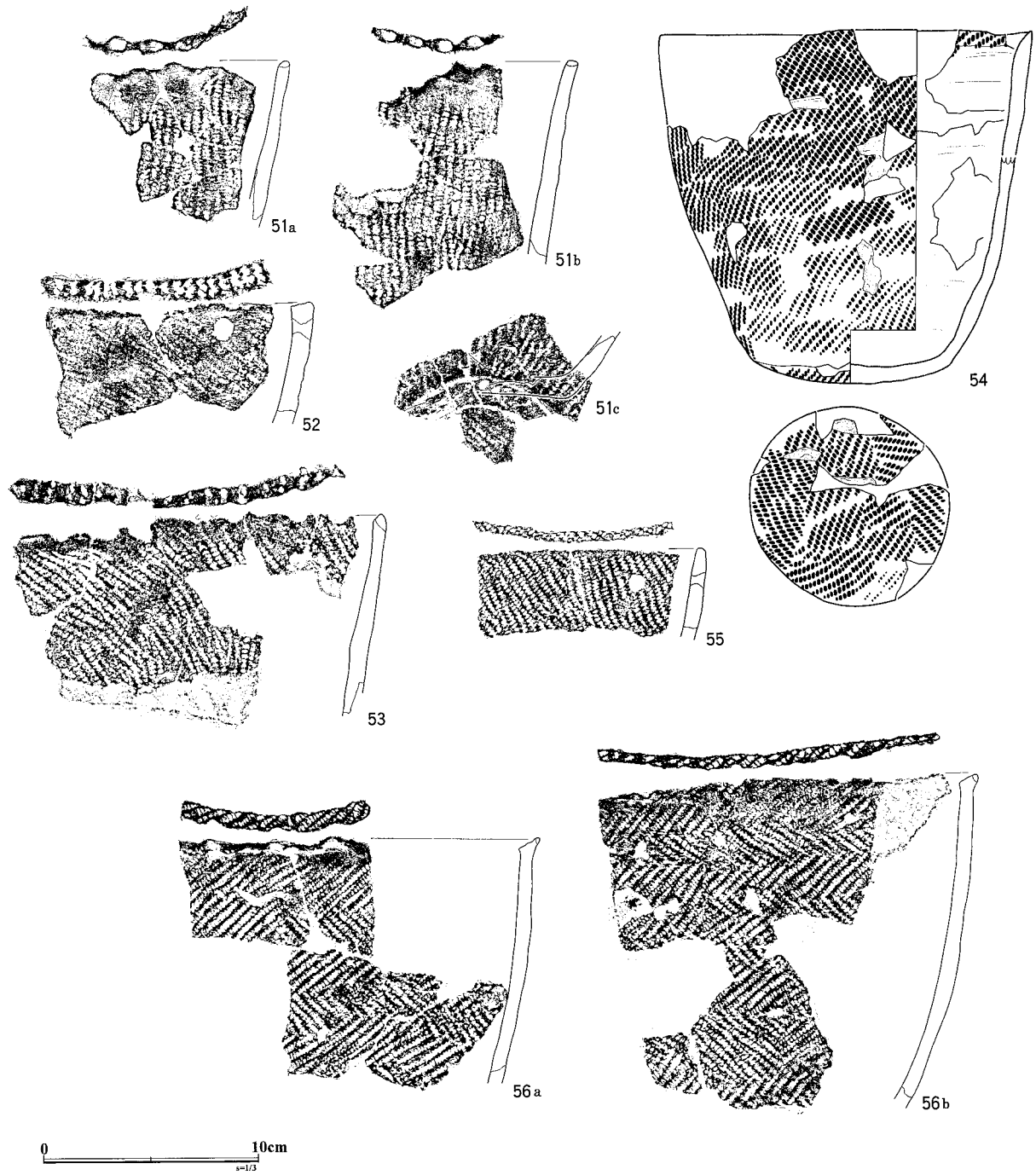


図IV-4 土器(3)

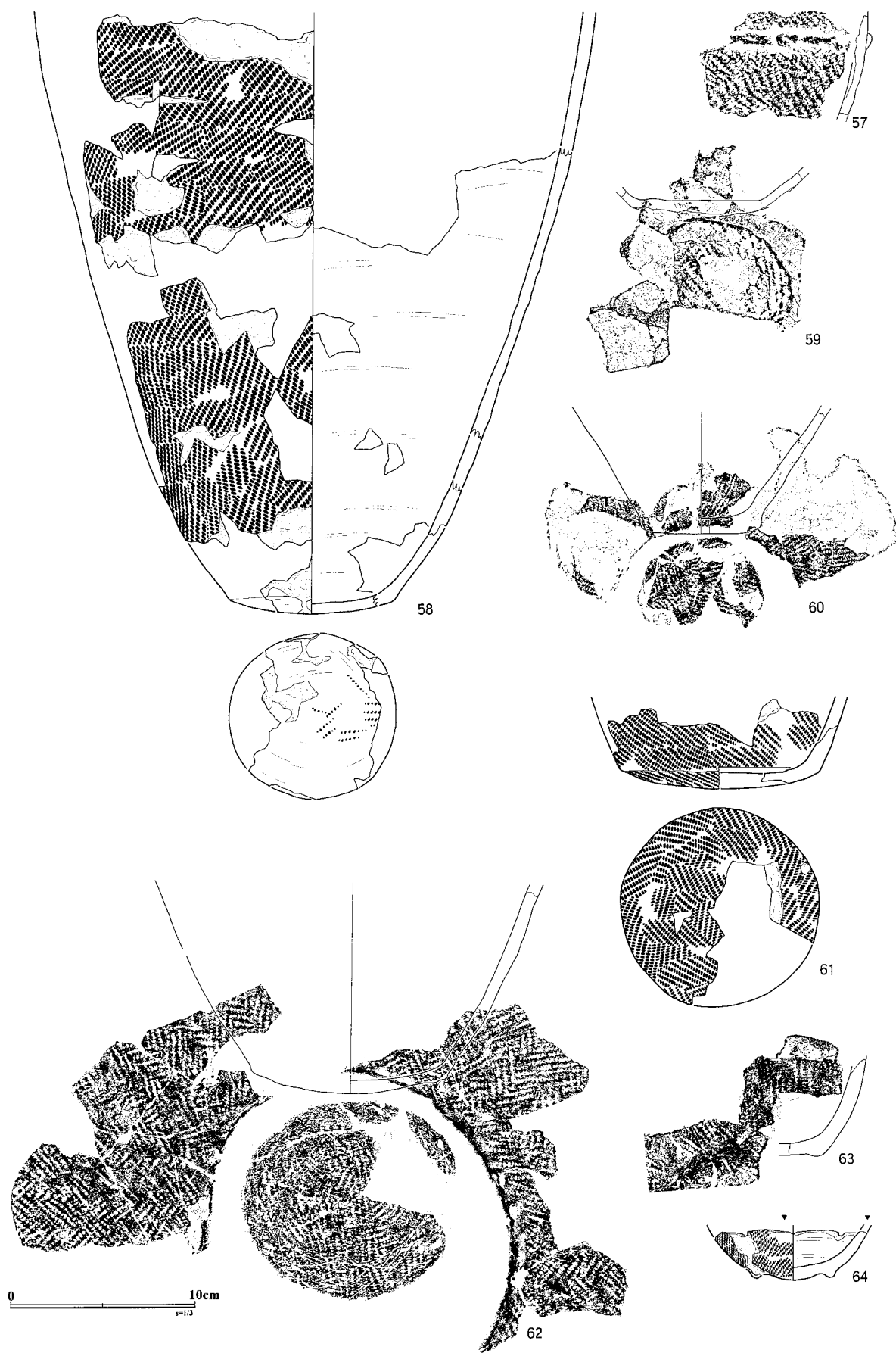


图IV-5 土器(4)

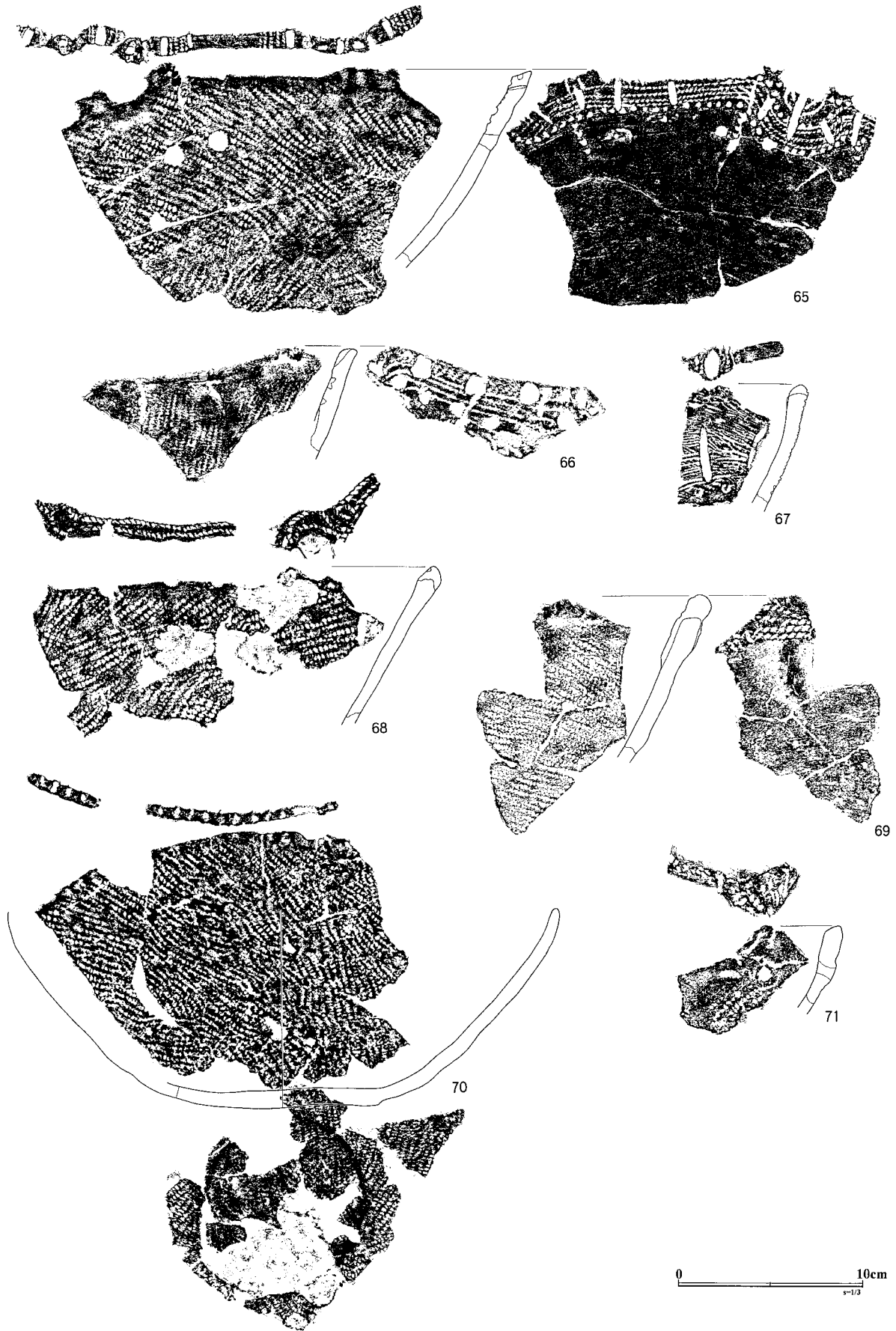
IV 包含層の遺物



図Ⅳ-6 土器 (5)



图IV-7 土器 (6)

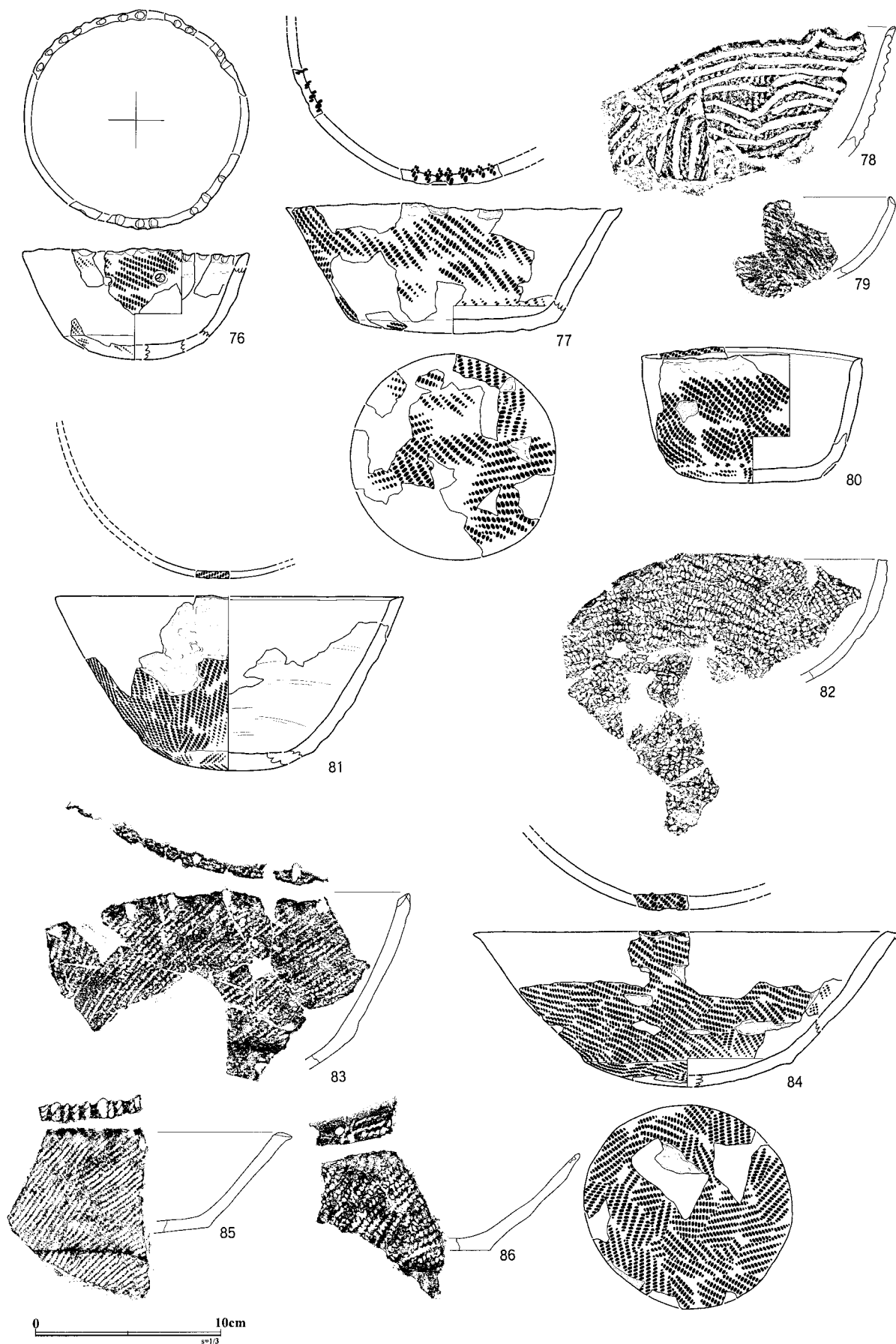


図IV-8 土器(7)

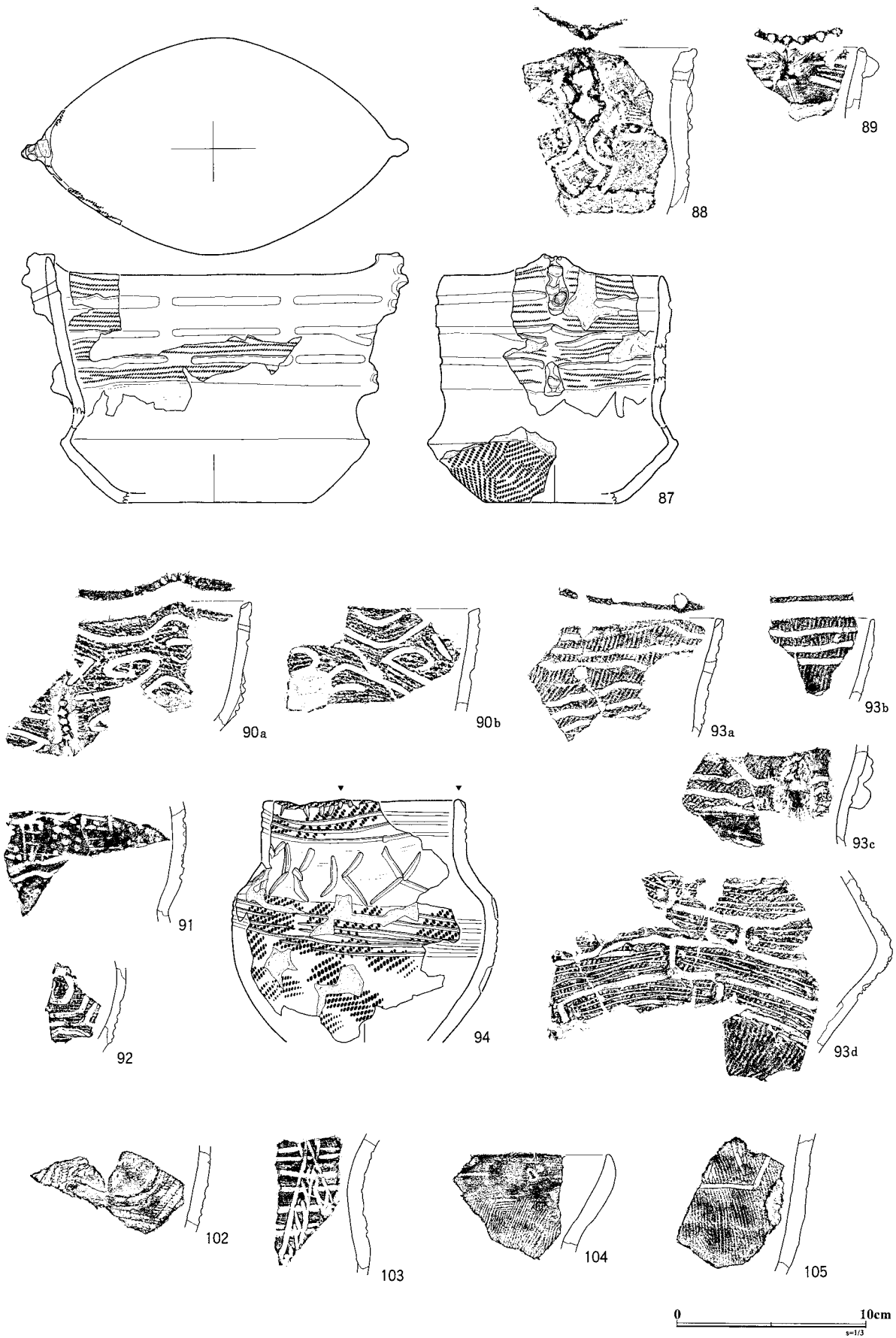


图IV-9 土器(8)

IV 包含層の遺物

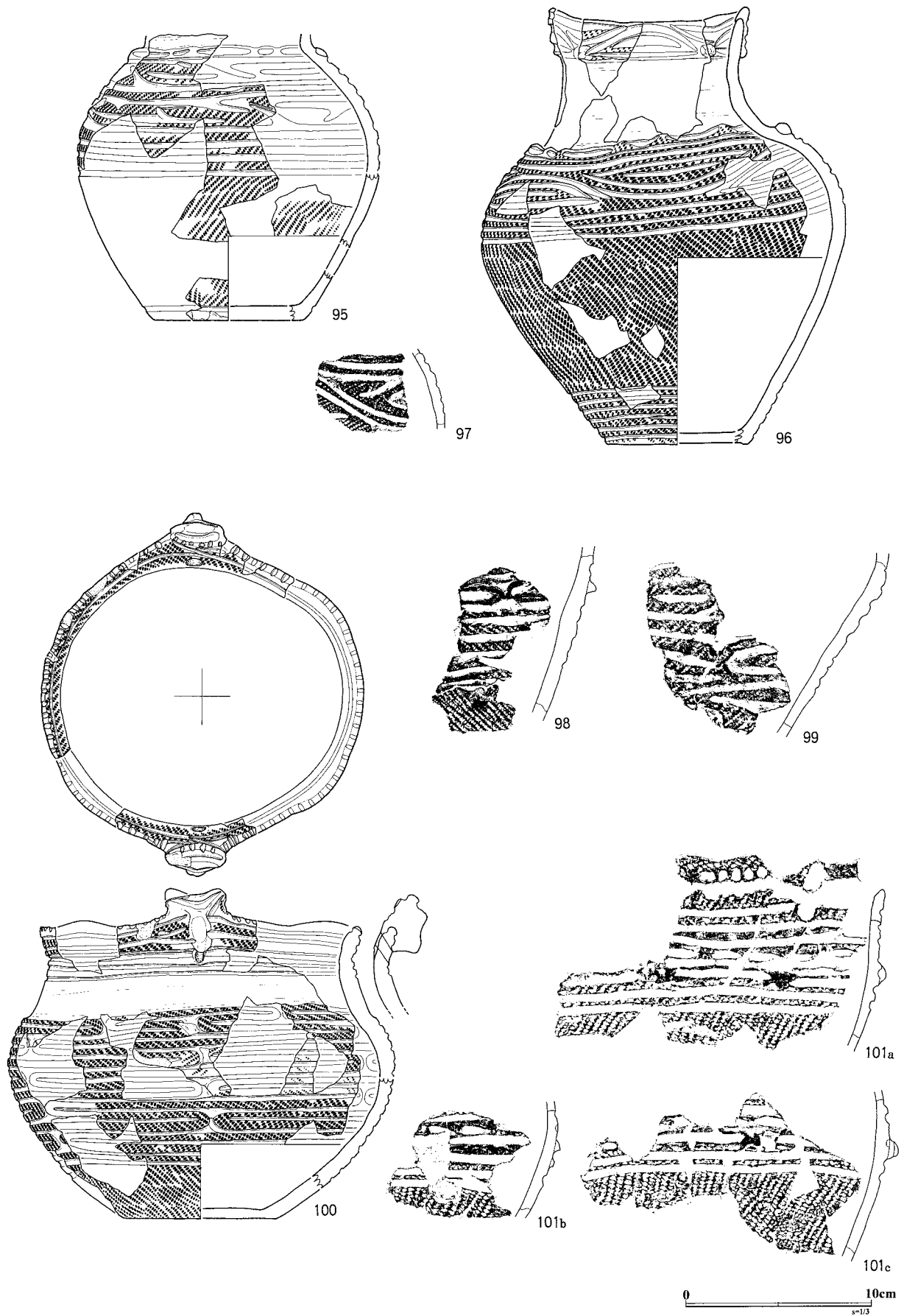


図IV-10 土器(9)



图IV-11 土器 (10)

IV 包含層の遺物



図IV-12 土器 (11)

3 石器 (図Ⅳ—13~17/表—14)

旧石器と縄文時代のものが出土している有舌尖頭器、スポール、石槍、石鏃、石錐、つまみ付ナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、たたき石、砥石、断面三角形のすり石、いかり石などが出土している。

有舌尖頭器 (1~5)

1~3は有舌尖頭器、4、5もその可能性のあるものである。全て黒曜石製のもので、ほぼⅥ層中から出土している。先端部や基部などが破損しているものが殆どで、特に1~3と後述する6は4m四方の中で出土している。

スポール (6)

黒曜石製のもので下端には不明瞭ながらマイクロブレードを作出した痕跡が認められる。形態的には先述の有舌尖頭器の一部を想像させるものがあり、本来的には有舌尖頭器状の形態であった可能性がある。

石槍 (8~11)

8~10は基部の付け根に返しのあるタイプで、これは中期後半~後期前葉に伴うものと考えられる。11は柳葉形のもので先端と基部が欠失している。

石鏃 (12~47)

12,13が柳葉形、14,15が五角形の石鏃で、これらはⅤ~Ⅵ層出土のもので早期後葉に伴う物である。

16~24はⅤ層出土の三角鏃で、16、17は平基で前期前半あるいは早期後葉にも可能性が残る。18~24は凹基のもので、これは前期前半~中期と推定される。

25~30はⅢ層出土の三角鏃で、25~27は大型の凹基、28~30は小形の凹基で晩期末葉~続縄文と考えられる。

31~34はⅤ層出土の有舌タイプで後期のものである。35~45はⅢ層出土の有舌タイプで、これらはⅤ群c類土器に伴うと考えられる。46、47は続縄文に伴う細身の三角鏃である。

石錐 (48)

48は全面に加工痕を有する頁岩製の石錐である。先端部は良く摩滅している。

つまみ付ナイフ (49~53)

49は早期後葉のつまみ付ナイフである。

つまみ部を有するもの (図50~53)

小形でつまみ部を有するもので、50以外はⅤ層の出土である。

スクレイパー (54~96)

54~56は表裏両面に加工が施されたものでⅤ層出土である。57~71も背面に加工を有するが前者のそれより少ない。60、62、63、66はⅤ層、それ以外はⅢ層で出土している。66に関してはⅤ層出土のためつまみ付ナイフの破損品かもしれない。72~91は片面のみの加工で刃部を作出している。92~96は片面の刃部周辺にのみ加工が施された物である。72~96のうち72、91がⅤ層、それ以外はⅢ層で出

IV 包含層の遺物

土している。

石斧 (97～103)

97、103がⅢ層出土、それ以外はⅤ層出土である。

たたき石 (104、105)

104、105は長楕円礫を用いたたたき石である。104は上下両端の使用が著しい。

砥石 (109、110)

砂岩製の砥石である。109は多面砥石。

断面三角形のすり石 (107)

早期後葉のすり石である。

すり石 (106、108)

やや扁平な円礫を素材とするすり石である。主に扁平面を使っている。

いかり石 (111)

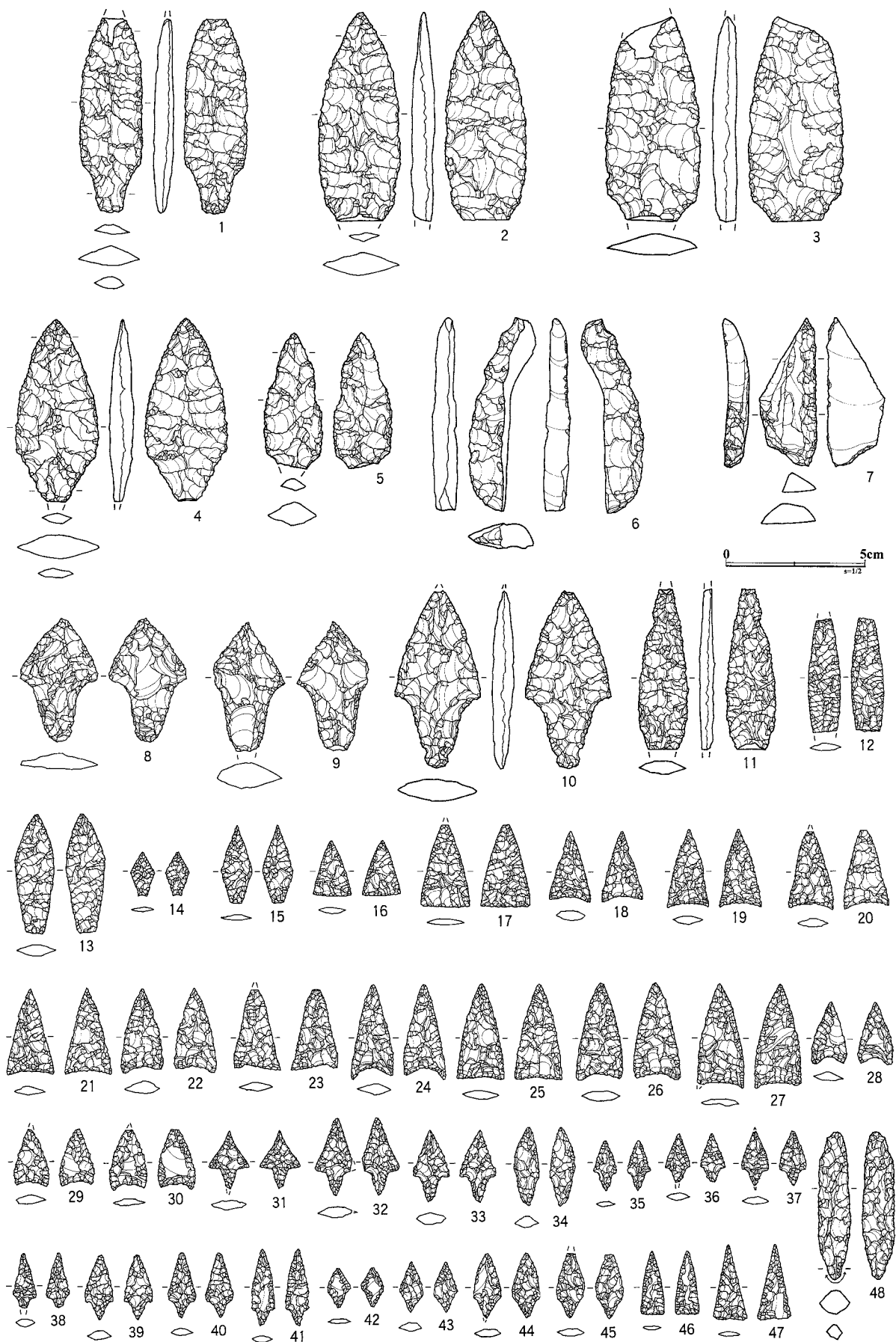
凝灰岩製の製品で、晩期後葉の物である。

4 土製品 (図Ⅳ-17/表-12)

有孔再生土器片が出土している。

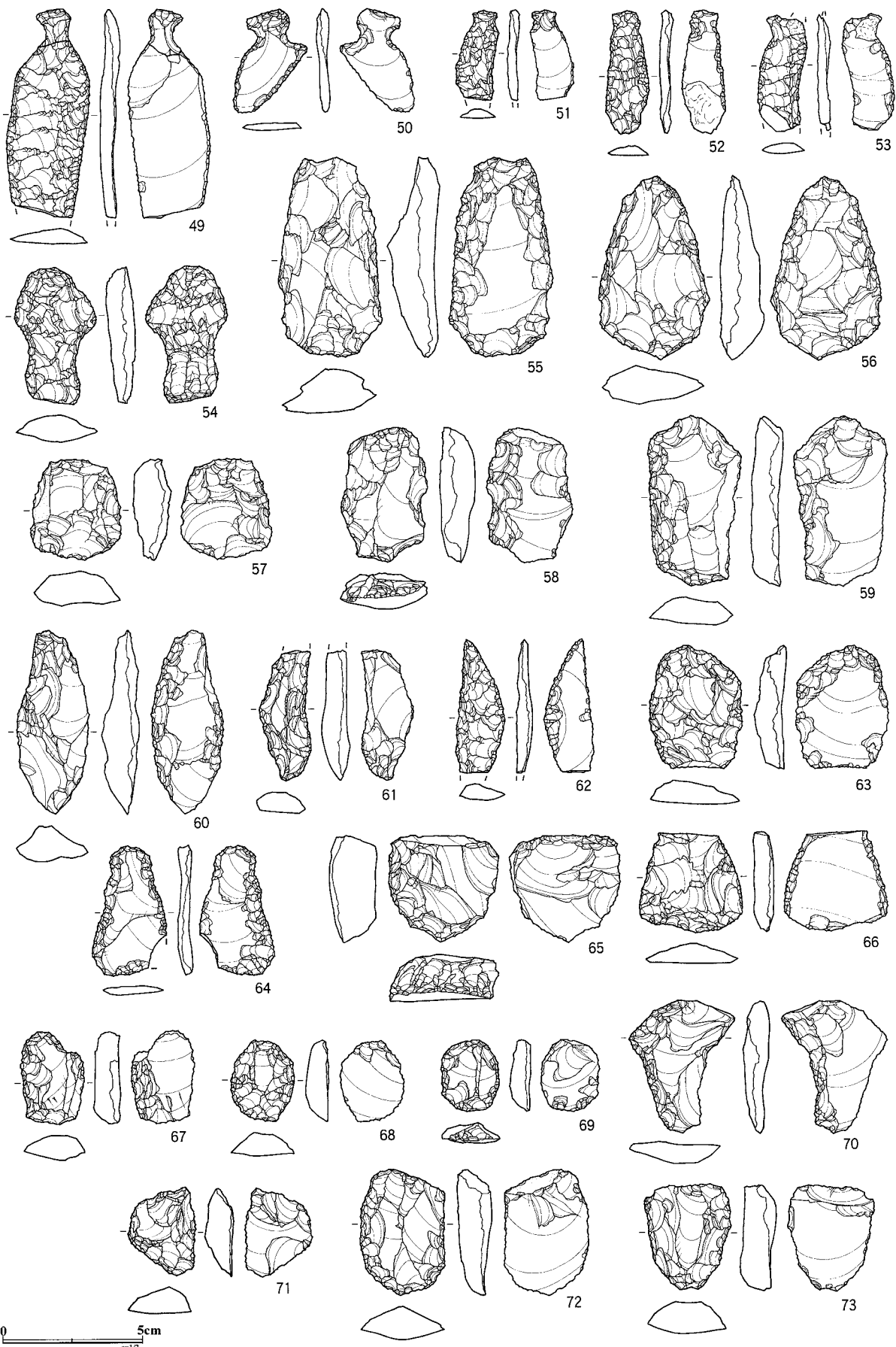
有孔再生土器片 (112)

I群b-1類土器の破片を用いている。



图IV-13 石器 (1)

IV 包含層の遺物

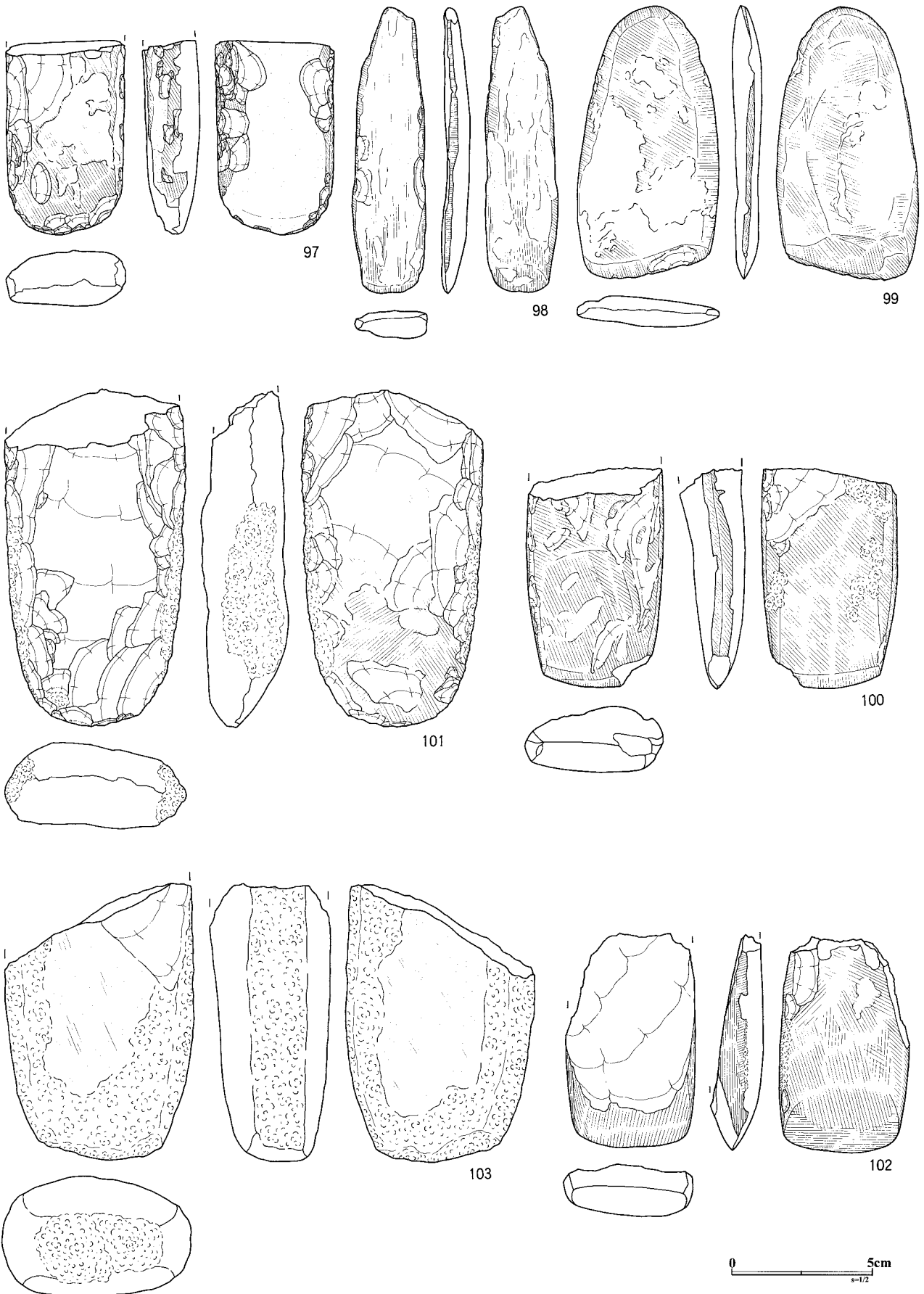


図IV-14 石器 (2)

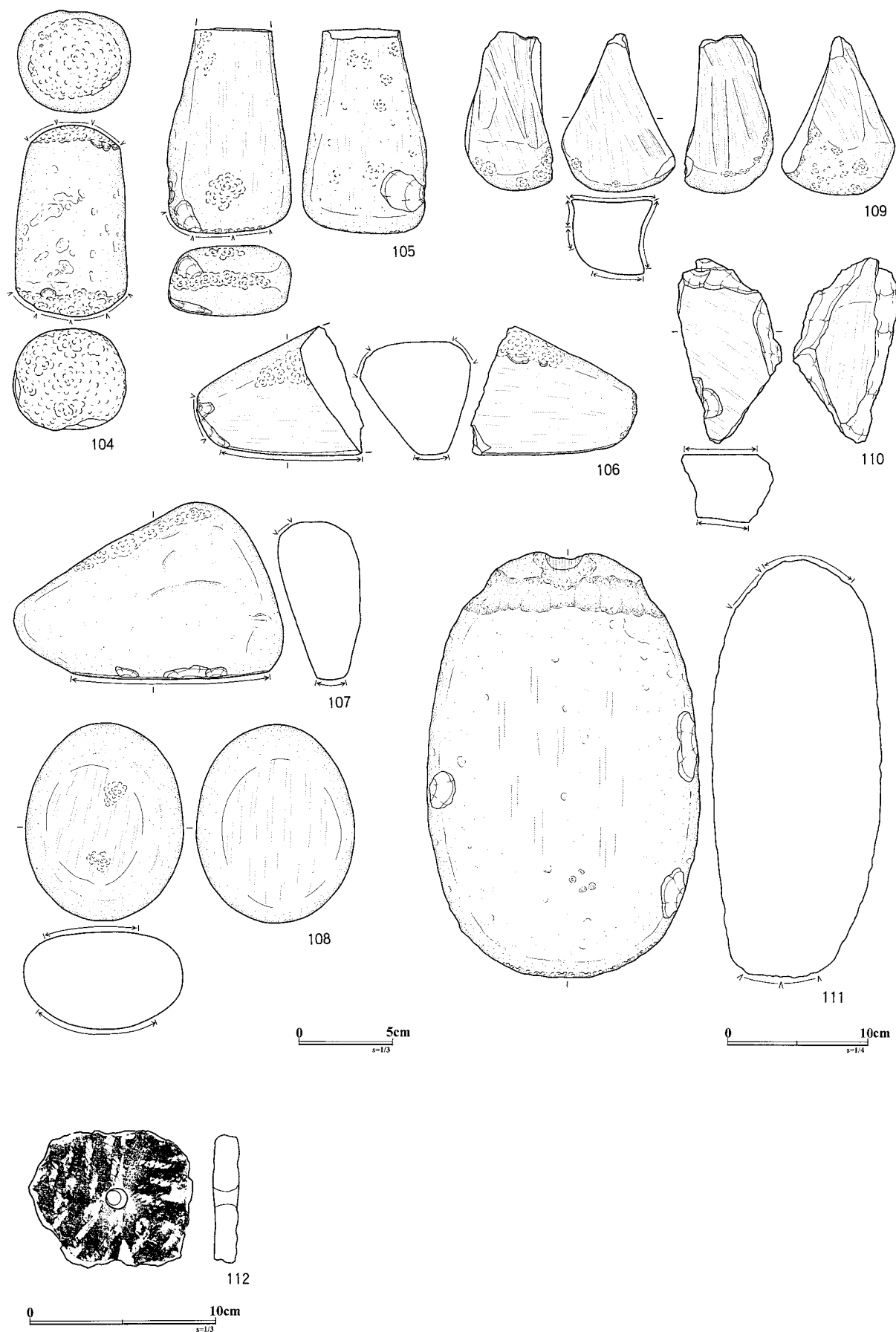


图IV-15 石器 (3)

IV 包含層の遺物



図IV-16 石器(4)



图IV-17 石器(5)·土製品

表-1 Ⅲ層の盛土状遺構 (UM) 一覧

遺構名	位置	層位	規模	方位	備考
UM-1	H-55, I-54~56, J-55~57, K-56, 57, L-57	Ⅲ層	18.4×(4.5)／0.1m	N-46°-E	

表-2 Ⅲ層の道跡 (UR) 一覧

遺構名	位置	層位	規模	方位	備考
UR-1	D-50~52, E-52~55	Ⅲ層	19.3×0.5／0.05m	N-21.5°-E	

表-3 Ⅲ層の土壇 (UP) 一覧

遺構名	位置	層位	規模	方位	備考
UP-2	O-70	Ⅲ層	0.64×0.56/0.3×0.32/0.14m	N-87°-E	
UP-3	O-70	Ⅲ層	0.96×(0.26)/0.68×(0.14)/0.18m	N-28°-E	
UP-4	C-56	Ⅲ層	1.16×1.04/0.77×0.73/0.36m	N-113°-W	縄文晩期土壇墓
UP-5	E-58	Ⅲ層	(1.08)×(0.85)/(1.02)×(0.82)/(0.25)m	N-136°-W	擦文期土壇墓
UP-6	E-58	Ⅲ層	0.59×0.56/(0.41)×0.39/0.19m	N-85°-W	縄文晩期土壇墓？
UP-7	J-61	Ⅲ層	0.66×0.28/0.48×0.22/0.4m	N-66°-W	
UP-8	L-65	Ⅲ層	(0.40)×(0.37)/0.19×0.17/(0.19)	N-62°-E	
UP-9	I-45/46	Ⅲ層	1.07×0.79/0.91×0.68/0.16m	N-130°-W	
UP-10	F-54	Ⅲ層	0.69×0.64/(0.40)×0.35/0.17m	N-101°-W	
UP-11	J-59	Ⅲ層	0.66×0.54/0.35×0.24/0.34m	N-5°-E	

表-4 Ⅲ層の焼土 (UF) 一覧

遺構名	位置	層位	規模	方位	特長
UF-38	M-87	Ⅲ層	0.60×0.46/0.06m	N-31°-E	調査区北東側の緩斜面に位置する。検出は風倒木痕中であつたため、その堆積状況からⅢ層中位と判断した。平面形は不整形である。周辺の遺物は、ほかに伴う遺構がみられないことから、この焼土に伴う可能性が高い。層位と周辺の遺物から、縄文時代晩期後葉と考えられる。
UF-39	H-88	Ⅲ層	0.9×0.5×0.04m	—	
UF-40	C-92	Ⅲ層	0.15×0.09/0.03m	—	
UF-41	F-90	Ⅲ層	0.14×0.05/0.04m	—	
UF-42	J-68	Ⅲ層	0.6×0.46×0.02m	—	
UF-43	K-69	Ⅲ層	0.12×0.08×0.04m	—	
UF-44	P-52	Ⅲ層	0.41×0.31/0.06m	N-86°-E	調査区南東側の緩斜面に位置する。Ⅳ層に近いⅢ層下位で検出した。1・2層がⅢ層起源の土層であることから、Ⅲ層下位と判断した。平面形は不整形である。層位と周辺の遺物から、縄文時代晩期後葉と考えられる。
UF-45	M-51	Ⅲ層	1.96×0.44×0.04m	—	
UF-46	M-51	Ⅲ層	0.28×0.26×0.06m	—	
UF-47	I-58/J-58	Ⅲ層	1.39×0.74/0.05m	—	

表-5 Ⅲ層のフレイク・チップ (UFC) 一覧

遺構名	位置	層位	規模	方位	備考
UFC-1	D-57	Ⅲ層	1.23×0.83/-	—	遺物：図Ⅱ-5-15.表10
UFC-2	H-48	Ⅲ層	0.15×0.28/-	—	遺物：図Ⅱ-5-16.表10
UFC-3	G-48	Ⅲ層	0.89×0.36/-	—	
UFC-4	G-49	Ⅲ層	1.24×0.97/-	—	遺物：図Ⅱ-5-17.表10
UFC-5	E-47	Ⅲ層	1.58×0.50/-	—	遺物：図Ⅱ-5-18・19.表10

表－6 V層の土壌 (LP) 一覧

遺構名	位置	層位	規模	方位	備考
LP- 6	L-52	V層	1.72×1.66/0.98×1.07/0.88m	N-129° -W	
LP- 7	L-52	V層	1.77×1.60/1.23×1.04/0.79m	N-105° -W	
LP- 8	F-43	V層	1.26×1.03/0.85×0.62/0.70m	N-140° -W	

表－7 V層の焼土 (LF) 一覧

遺構名	位置	層位	規模	方位	特長
LF-59	C-88	V層	0.09×0.08/0.03m	—	
LF-60	C-59	V層	0.11×0.05/0.02m	—	
LF-61	F-88	V層	0.06×0.03/-m	—	
LF-62	M-87/88	V層	0.77×0.66/0.10m	N-90° -E	調査区北東側の緩斜面に位置する。V層下位で検出した。平面形は不整形である。周辺には同一面で焼かれたと考えられるLF-63・64がある。土層の特徴はLF-64に類似する。
LF-63	M-87	V層	0.52×0.29/0.08m	N-81° -E	調査区北東側の緩斜面に位置する。V層下位で検出した。平面形は不整形である。周辺には同一面で焼かれたと考えられるLF-62・64がある。焼成層の色調はほかに比べて暗い。
LF-64	M-86/87	V層	0.52×0.29/0.08m	N-27° -W	調査区北東側の緩斜面に位置する。V層下位で検出した。平面形は不整形である。周辺には同一面で焼かれたと考えられるLF-62・63がある。土層の特徴はLF-64に類似する。
LF-65	O-68/69	V層	0.52×0.42/0.14m	N- 6° -W	調査区中央の緩斜面に位置する。検出は風倒木中であつたため、堆積状況からV層上面と判断した。平面形は不整形である。
LF-66	N-66/67	VI層		—	調査区南東側の緩斜面に位置する。VI層上面で検出した。一部のみの検出で、次年度の道路下に続いている。要確認。
LF-67	D-57	V層	0.44×0.38/0.11m	—	
LF-68	F-57	V層	1.01×0.76/0.11m	—	
LF-69	D-56	V層	(0.95)×(0.33)/0.05m	—	
LF-70	C-57	V層	(0.76)×(0.19)/0.05m	—	
LF-71	J-62/63	V層	0.68×0.42×0.06m	—	
LF-72	L-64	V層中位	0.31×0.24/0.06m	N-88° -E	調査区中央の緩斜面に位置する。検出は風倒木中であつたため、堆積状況からV層中位と判断した。平面形は不整形である。
LF-73	E-60	VI層	0.44×0.35/0.10m	—	
LF-74	K-65	VI層上面	0.48×0.46/0.10m	N-58° -E	調査区中央の緩斜面に位置する。VI層上面で検出した。平面形は不整形である。
LF-75	K-65/66	V層中位	0.70×0.30/0.05m	N-41° -E	調査区中央の緩斜面に位置する。検出は風倒木中であつたため、堆積状況からV層中位と判断した。平面形は不整形である。
LF-76	J-66	V層	0.52×0.35/0.06m	N-20° -W	調査区中央の緩斜面に位置する。V層下位で検出した。平面形は不整形である。
LF-77	G-66	V層	0.30×0.2×0.1m	—	
LF-78	D-66	VI層	0.39×0.19/0.05m	—	
LF-79	E-67/F-67	V層	0.75×0.37/0.14m	—	
LF-80	J-68	V層	(0.2)×0.16×0.04m	—	
LF-81	H-68	V層	0.38×0.30/0.05m	N-41° -E	調査区中央の緩斜面に位置する。V層下位で検出した。平面形は不整形である。近くには近接して同一面で焼かれたと考えられるLF-82がある。
LF-82	H-68	V層	0.60×0.42/0.07m	N-34° -W	調査区中央の緩斜面に位置する。V層下位で検出した。平面形は不整形である。近くには近接して同一面で焼かれたと考えられるLF-81がある。焼成層の色調はほかに比べて暗い。
LF-83	N/O-68/69	V層下位	0.70×0.52/0.04m	N-37° -W	調査区中央の緩斜面に位置する。検出は風倒木中であつたため、堆積状況からV層下位と判断した。平面形は不整形である。
LF-84	C-66	V層	0.74×0.52/0.07m	—	遺物：図Ⅲ－11－11.表11
LF-85	G-68	VI層	0.39×0.30/0.07m	—	
LF-86	L-56	V層	0.36×0.29/0.06m	—	
LF-87	K-52/53	V層	0.48×0.41/0.08m	—	
LF-88	J-50/K-50	V層	0.46×0.25/0.09m	—	

遺構名	位置	層位	規模	方位	備考
LF-89	K-49	V層	0.23×0.18/0.05m	—	
LF-90	L-48	V層	0.83×0.57/0.14m	—	
LF-91	J-51	V層	0.33×0.32/0.05m	—	
LF-92	H-50/51	V層	1.23×0.50/0.07m	—	遺物：図Ⅲ-11-1.表9
LF-93	H-49	V層	0.24×0.21/0.03m	—	
LF-94	H-48	V層	0.24×0.14/0.03m	—	
LF-95	H-48	V層	0.25×0.15/0.04m	—	
LF-96	F-47	V層	0.25×0.21/0.06m	—	
LF-97	F-47	V層	0.22×0.15/0.05m	—	
LF-98	F-46	V層	0.33×0.21/0.05m	—	遺物：図Ⅲ-11-2.表9
LF-99	F-46	V層	0.16×0.13/0.03m	—	
LF-100	F-46	V層	0.75×0.27/0.06m	—	
LF-101	S-45	V層	0.3×0.28×0.06m	—	
LF-102	S-45	V層	0.41×0.22×0.1m	—	
LF-103	R-50	V層	0.96×(0.76)×0.08m	—	
LF-104	O-49	V層	0.2×0.16×0.04m	—	
LF-105	N-49	V層	0.64×0.28×0.04m	—	
LF-106	F-45	V層	0.47×0.44/0.08m	—	
LF-107	F-45	V層	2.83×1.73/0.05m	—	
LF-108	F-45	V層	0.23×0.20/0.02m	—	
LF-109	I-46	V層	0.21×0.19/0.07m	—	
LF-110	I-46	V層	0.22×0.19/0.02m	—	
LF-111	I-46/H-46	V層	0.39×0.27/0.06m	—	
LF-112	I-45/46	V層	0.80×0.45/0.11m	—	
LF-113	I-45	V層	0.63×0.39/0.06m	—	
LF-114	I-45	V層	0.48×0.21/0.05m	—	
LF-115	I-45	V層	1.78×0.92/0.09m	—	
LF-116	H-45	V層	0.36×0.24/0.07m	—	
LF-117	J-45	V層	0.49×0.23/0.04m	—	
LF-118	L-47	V層	0.58×0.29/0.03m	—	遺物：図Ⅲ-11-3.表9
LF-119	K-47	V層	0.26×0.22/0.03m	—	
LF-120	K-47	V層	0.51×0.22/0.02m	—	
LF-121	N-60	VI層	0.26×0.16×0.06m	—	
LF-122	O-58/59	VI層	0.86×0.44×0.12m	—	
LF-123	M-59	VI層	0.6×0.4×0.08m	—	
LF-124	P-55	V層	0.62×0.36×0.1m	—	
LF-125	P-53	V層	0.28×0.26×0.06m	—	
LF-126	P-52/53/152	V層	0.84×0.26×0.1m	—	
LF-127	D-46	V層	0.31×0.20/0.10m	—	
LF-128	D-45	V層	0.23×0.13/0.05m	—	
LF-129	D-44/45	V層	0.24×0.19/0.03m	—	
LF-130	G-42/43	V層	1.67×0.89/0.09m	—	

遺構名	位置	層位	規模	方位	備考
LF-131	G-43	V層	1.71×1.10/0.05m	—	
LF-132	F-42	V層	0.29×0.23/0.08m	—	遺物：図Ⅲ-11-4・5表9
LF-133	F-43	V層	0.62×0.47/0.07m	—	
LF-134	F-43	V層	0.23×0.22/0.04m	—	
LF-135	F-43	V層	1.74×0.45/0.06m	—	遺物：図Ⅲ-11-6・7表9
LF-136	F-43	V層	0.25×0.19/0.04m	—	
LF-137	E-43	V層	0.25×0.24/0.04m	—	
LF-138	G-44	V層	0.42×0.09/0.07m	—	
LF-139	F-44	V層	0.46×0.26/0.03m	—	
LF-140	F-44	V層	1.47×1.25/0.08m	—	
LF-141	E-44	V層	0.38×0.35/0.04m	—	
LF-142	E-44	V層	0.62×0.38/0.05m	—	遺物：図Ⅲ-11-8表9
LF-143	I-43	V層	0.23×0.21/0.03m	—	
LF-144	I-43/44	V層	0.85×0.30/0.07m	—	遺物：図Ⅲ-11-9・10表9
LF-145	J-43	V層	0.79×0.56/0.10m	—	
LF-146	J-44	V層	0.94×0.36/0.07m	—	
LF-147	K-44	V層	0.48×0.32/0.06m	—	
LF-148	E-46	V層	0.20×0.17/0.04m	—	
LF-149	E-46	V層	0.17×0.15/0.05m	—	
LF-150	E-45	V層	0.71×0.34/0.05m	—	
LF-151	E-45	V層	1.06×0.52/0.07m	—	
LF-152	E-45	V層	0.65×0.33/0.08m	—	
LF-153	D-46	V層	0.60×0.35/0.07m	—	
LF-154	D-45	V層	1.05×0.66/0.07m	—	
LF-155	D-45	V層	0.17×0.16/0.04m	—	
LF-156	E-44	V層	0.45×0.29/0.06m	—	
LF-157	E-45	V層	0.43×0.40/0.04m	—	
LF-158	D-44	V層	0.24×0.19/0.04m	—	
LF-159	H-43	V層	0.17×0.14/0.05m	—	
LF-160	I-48	V層	0.35×0.29/0.05m	—	
LF-161	K-54	V層	0.29×0.27/0.06m	—	
LF-162	F-44	V層	0.28×0.19/0.02m	—	
LF-163	M-45/N-45	V層	0.34×0.21/0.03m	—	
LF-164	J-53	V層	0.41×0.25/0.03m	—	
LF-165	D-49/E-49	V層	0.39×0.23/-m	—	
LF-166	G-57	V層	(0.81)×(0.28)/-m	—	
LF-167	G-56/57	V層	(0.85)×(0.57)/-m	—	
LF-168	D/E-53/54	V層	(3.0)×(1.94)/-m	—	
LF-169	F-51	V層	0.88×0.60/-m	—	

表－8 Ⅲ層遺構の掲載土器一覧

番号	図番号		分類	グリッド／点数	同一未掲載(点)	遺構名
1a	Ⅱ-4	拓本	Vc	F-58/ 2	73	UM- 1
1b	Ⅱ-4	拓本	Vc	F-58/ 5		UM- 1
1c	Ⅱ-4	拓本	Vc	J-55/1.F-58/ 5		UM- 1
2	Ⅱ-4	拓本	Vc	J-55/ 1		UM- 1
3	Ⅱ-4	拓本	Vc	I-54/ 1	1	UM- 1
4	Ⅱ-4	拓本	Vc	I-56/ 1	1	UM- 1
5	Ⅱ-4	拓本	Vc	I-57/ 1		UM- 1
6	Ⅱ-4	拓本	Vc	I-55/11	44	UM- 1
7a	Ⅱ-4	拓本	Vc	J-56/ 4	19	UM- 1
7b	Ⅱ-4	拓本	Vc	J-56/ 3		UM- 1
7c	Ⅱ-4	拓本	Vc	J-56/ 6		UM- 1
8a	Ⅱ-4	拓本	Vc	UP- 6/ 4	1	UP- 6
8b	Ⅱ-4	拓本	Vc	UP- 6/ 2		UP- 6
9	Ⅱ-4	拓本	Vc	UP- 9/ 1		UP- 9
10	Ⅱ-4	拓本	Vc	UP- 9/ 2	2	UP- 9
11	Ⅱ-4	復元	Ⅲb	UP- 6/19.E-58/ 3	36	UP- 6
12a	Ⅱ-4	拓本	Vc	UP- 9/4.UP- 3/2.I-46/ 1	7	UP- 9
12b	Ⅱ-4	拓本	Vc	UP- 9/2.I-46/ 1		UP- 9
13	Ⅱ-4	復元	Ⅶ	B調/9.E-47/11.J-48/ 1	3	UP- 5
14	Ⅱ-5	復元	Ⅲb	UP- 7/104	130	UP- 7
20	Ⅱ-6	復元	Ⅲb	I-45/19.I-46/2.H-48/1.UP- 9/15	25	UP- 9
21	Ⅱ-6	復元	Ⅲb	UP- 9/16.I-45/ 6	34	UP- 9
22	Ⅱ-6	拓本	Vc	UP-10/6.E-54/2.F-54/ 1		UP-10
23	Ⅱ-6	復元	Ⅳb	UF-38/5.M-87/ 3	4	UF-38
24	Ⅱ-6	拓本	Vc	UF-38/1.N-86/ 1		UF-38
25	Ⅱ-6	拓本	Vc	UF-38/ 2		UF-38

表－9 V層遺構の掲載土器一覧

番号	図番号		分類	グリッド／点数	同一未掲載(点)	遺構名
1	Ⅲ-11	拓本	Ⅲb	LF-92/ 1		LF-92
2	Ⅲ-11	拓本	I b - 1	LF-98/ 1		LF-98
3	Ⅲ-11	拓本	I b - 1	LF-118/1.M-47/ 1		LF-118
4	Ⅲ-11	拓本	I b - 1	LF-132/ 1		LF-132
5	Ⅲ-11	拓本	I b - 1	LF-132/ 2		LF-132
6	Ⅲ-11	拓本	I b - 1	LF-135/ 1		LF-135
7	Ⅲ-11	拓本	I b - 1	LF-135/ 1	3	LF-135
8	Ⅲ-11	拓本	Ⅲb	LF-142/ 1	2	LF-142
9	Ⅲ-11	拓本	I b - 1	LF-144/ 1	1	LF-144
10a	Ⅲ-11	拓本	I b - 1	F-43/2.J-46/ 2	27	LF-144
10b	Ⅲ-11	拓本	I b - 2	F-43/1.I-44/1.LF-144/ 1		LF-144

表－10 Ⅲ層遺構の掲載石器一覧

掲載番号	図番号	グリット	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
15	Ⅱ-5	UFC- 1	スクレイパー	黒曜石	3.2	2.5	0.7	5.3	
16	Ⅱ-5	UFC- 2	石鏃	黒曜石	(2.1)	1.1	0.2	0.4	
17	Ⅱ-5	UFC- 4	石鏃	黒曜石	2.7	1.1	0.2	0.4	
18	Ⅱ-5	UFC- 5	石鏃	黒曜石	2.35	0.95	0.3	0.4	
19	Ⅱ-5	UFC- 5	石鏃	黒曜石	(2.15)	0.9	0.3	0.5	

表－11 V層遺構の掲載石器一覧

掲載番号	図番号	グリット	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
11	Ⅲ-11	LF-84	石鏃	黒曜石	(3.8)	1.1	0.4	1.7	

表-12 包含層掲載土器一覧

番号	図番号	分類	グリッド/点数	同一未掲載(点)	備考
1a	IV-2	I b-1	F-43/ 7		
1b	IV-2	I b-1	I-44/ 5	156	
2a	IV-2	I b-1	D-48/ 7	12	
2b	IV-2	I b-1	E-43/ 2		
3a	IV-2	I b-1	D-46/ 1		
3b	IV-2	I b-1	H-46/ 2		
3c	IV-2	I b-1	G-45/1.H-45/3.H-46/ 3	3	No.6と同じ土器の可能性有り
4	IV-2	I b-1	F-47/ 1		
5	IV-2	I b-1	E-46/ 1		
6	IV-2	I b-1	LF-118/1.M-47/ 1		No.3 cと同じ土器の可能性有り
7	IV-2	I b-4	P-47/ 1		B調
8	IV-2	I b-4	Q-46/ 1	4	
9	IV-2	I b-4	E-67/ 2		B調
10	IV-2	IIa	Q-56/ 1		
11	IV-2	IIIb	D-44/ 3	4	
12	IV-2	IIIb	P-54/1.N-55/ 2	3	
13	IV-2	IIIb	Q-48/ 1		
14	IV-2	IIIb	Q-48/ 1		
15	IV-2	IIIb	Q-45/ 1	11	
16	IV-2	IIIb	F-50/ 1	41	
17	IV-2	IIIb	L-43/ 1		
18	IV-2	IIIb	不明		不明
19	IV-2	IIIb	K-45/ 1	2	
20	IV-2	IIIb	L-63/ 1		
21	IV-2	IIIb	F-60/35	21	
22a	IV-2	IVa	H-62/ 1	100	
22b	IV-2	IVa	H-62/ 2		
23	IV-3	IVb	J-47/5.J-48/2.I-47/2.K-46/ 2	11	
24	IV-3	IVb	J-45/ 2	2	
25	IV-3	IVb	M-69/20	36	集中
26a	IV-3	IVc	Q-55/ 6	13	
26b	IV-3	IVc	Q-55/ 4		
27	IV-3	IVc	E-53/1.J-66/ 1		
28	IV-3	IVc	G-43/ 1	4	
29	IV-3	IVc	N-59/41		
30	IV-3	IVc	N-60/16	20	
31	IV-3	IVc	O-55/ 3	1	
32	IV-3	IVc	E-48/ 3	5	
33	IV-4	Vc	H-56/1.F-57/40	24	
34a	IV-4	Vc	J-64/3.M-64/ 4		
34b	IV-4	Vc	K-64/4.K-65/ 2	27	
35	IV-4	Vc	D-48/ 2		
36	IV-4	Vc	D-58/12.E-58/23.F-58/ 4	58	
37	IV-4	Vc	N-73/14.N-74/14	312	
38	IV-4	Vc	D-55/ 3		
39	IV-4	Vc	J-47/24	12	
40	IV-4	Vc	E-58/2.E-59/ 5	20	
41	IV-4	Vc	F-56/9.F-57/ 2	28	
42	IV-4	Vc	K-52/39	109	
43	IV-5	Vc	L- 1 /2.E-47/1.D-46/2.F-45/1	1	B調
44a	IV-5	Vc	G-49/2.I-51/ 1	48	
44b	IV-5	Vc	G-49/1.G-50/ 3		
45	IV-5	Vc	I-57/2.H-57/ 1	29	
46	IV-5	Vc	E-42/ 1		
47	IV-5	Vc	I-49/ 2	26	
48a	IV-5	Vc	E-50/5.F-50/33	138	

番号	図番号	分類	グリッド／点数	同一未掲載(点)	備考
48b	IV-5	Vc	E-49/5.F-50/26		
49	IV-5	Vc	M-83/9	12	
50a	IV-5	Vc	D-57/11	5	
50b	IV-5	Vc	D-57/13		
51a	IV-6	Vc	I-69/9	250	
51b	IV-6	Vc	I-69/7		
51c	IV-6	Vc	I-69/4		
52	IV-6	Vc	L-58/1.M-62/1		
53	IV-6	Vc	N-81/7	399	
54	IV-6	Vc	E-61/76.F-62/7	38	
55	IV-6	Vc	J-55/2	82	
56a	IV-6	Vc	Q-46/6		
56b	IV-6	Vc	Q-46/11	115	
57	IV-7	Vc	E-46/1	38	
58	IV-7	Vc	M-54/118	176	
59	IV-7	Vc	K-55/3	9	
60	IV-7	Vc	N-78/15	9	
61	IV-7	Vc	P-60/11	40	
62	IV-7	Vc	I-52/1.H-51/3.H-53/3.H-49/1.G-50/6.G-51/4	16	
63	IV-7	Vc	D-53/5	48	
64	IV-7	Vc	M-46/2		
65	IV-8	Vc	E-58/5.E-59/1		
66	IV-8	Vc	F-57/4	14	
67	IV-8	Vc	L-1/1		B調
68	IV-8	Vc	J-52/13	38	
69	IV-8	Vc	M-59/4	1	
70	IV-8	Vc	D-53/42	25	
71	IV-8	Vc	K-57/2		
72	IV-9	Vc	K-56/10	28	
73a	IV-9	Vc	E-54/21.F-56/1	66	
73b	IV-9	Vc	E-54/4		
74a	IV-9	Vc	H-59/3.H-60/2	73	
74b	IV-9	Vc	H-59/7		
75	IV-9	Vc	Q-54/2.R-55/1		
76	IV-10	Vc	J-83/8.K-83/20	5	
77	IV-10	Vc	J-73/26	8	
78	IV-10	Vc	F-47/8	22	
79	IV-10	Vc	E-52/2.E-53/1	1	
80	IV-10	Vc	L-81/8	1	
81	IV-10	Vc	O-74/30	75	
82	IV-10	Vc	D-53/17	10	
83	IV-10	Vc	M-80/3.M-81/8	1	
84	IV-10	Vc	F-58/23	7	
85	IV-10	Vc	L-51/1		
86	IV-10	Vc	F-58/4		
87	IV-11	Vc	O-79/10	27	
88	IV-11	Vc	F-58/2	2	
89	IV-11	Vc	M-81/2		
90a	IV-11	Vc	M-63/3.L-63/2	9	
90b	IV-11	Vc	L-63/4		
91	IV-11	Vc	G-51/3	2	
92	IV-11	Vc	E-48/1	7	
93a	IV-11	Vc	D-68/4	66	
93b	IV-11	Vc	D-68/2		
93c	IV-11	Vc	D-68/2		
93d	IV-11	Vc	D-68/9		
94	IV-11	Vc	G-62/33	2	
95	IV-12	Vc	G-47/1.G-48/6.H-47/6.H-48/11.H-49/3	30	亀ヶ岡

番号	図番号	分類	グリッド／点数	同一未掲載(点)	備考
96	IV-12	Vc	M-83/7.N-84/16.L-84/28.M-84/ 4	10	亀ヶ岡
97	IV-12	Vc	D-58/ 1		亀ヶ岡
98	IV-12	Vc	F-48/ 3	2	亀ヶ岡
99	IV-12	Vc	E-47/1.F-47/ 2	6	亀ヶ岡
100	IV-12	Vc	J-48/99.K-48/ 5	7	亀ヶ岡
101a	IV-12	Vc	D-57/11	10	
101b	IV-12	Vc	D-57/ 5		
101c	IV-12	Vc	D-57/ 8		
102	IV-11	VI	L-44/1.H-44/ 1	1	
103	IV-11	VII	Q-51/1.P-52/ 1	2	
104	IV-11	VII	I-43/ 1		
105	IV-11	VII	O-45/ 1	1	

表-13 掲載復元土器規模一覧

	掲載番号	分類	層位	口径(cm)	府径(cm)	器高(cm)	備考
遺構	11	III b	I・II	(19.5)	(12.5)	7.5	
	13	VII	III	(17.0)	7.0	7.1	
	14	III b	覆土	29.6	10.0	28.6	
	20	III b	III	(—)	11.4	—	
	21	III b	III	—	12.4	—	
	23	IV b	III	—	(7.4)	(8.4)	
包含層	21	III b	V	—	11.6	(19.0)	
	25	III b	V	—	(9.6)	(8.3)	
	29	IV c	V	—	7.6	(10.6)	
	30	IV c	V	—	8.8	(4.2)	
	33	V c	III	19.4	—	(18.8)	
	36	V c	III・V	(17.0)	—	(14.5)	
	39	V c	III	(11.4)	—	(9.2)	
	54	V c	V上・V	(—)	9.2	16.4	
	58	V c	III	—	(9.0)	(32.3)	
	61	V c	III	—	10.8	—	
	64	V c	V	—	(4.4)	(2.7)	
	76	V c	III	(12.2)	(7.6)	6.0	
	77	V c	III	18.0	9.0	7.0	
	80	V c	III	11.8	8.0	7.8	
	81	V c	III	(18.6)	9.0	9.4	
	84	V c	III	(23.0)	11.2	8.3	
	87	V c	III	(11.4) (20.3)	(6.6) (10.2)	(13.1)	
94	V c	III	(10.7)	—	(12.8)		
95	V c	III・V	—	8.0	(15.3)	亀ヶ岡	
96	V c	III	10.8	(7.6)	23.4	亀ヶ岡	
100	V c	III・V	17.2	8.2	18.2	亀ヶ岡・朱が多少残っている	

表-14 包含層掲載石器土製品一覧

掲載番号	図番号	層位	グリット	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
1	IV-13	VI	I-57	有舌尖頭器	黒曜石	(7.05)	2.3	0.7	11.5	
2	IV-13	VI	F-55	有舌尖頭器	黒曜石	(7.6)	2.95	0.9	18.5	
3	IV-13	B調	CL 0	有舌尖頭器	黒曜石	(7.4)	3.45	0.9	24.7	
4	IV-13	V	L-68	有舌尖頭器	黒曜石	6.6	3.0	0.9	13.7	
5	IV-13	V	K-68	有舌尖頭器	黒曜石	(4.9)	2.1	0.85	7.6	
6	IV-13	V	I-57	スポール	黒曜石	6.9	3.0	0.9	8.8	
(7)	IV-13	V	O-37	彫器	黒曜石	5.3	2.1	0.7	8.5	北埋調報207
8	IV-13	V	M-44	石槍	黒曜石	4.5	2.8	0.65	5.5	
9	IV-13	V	N-79	石槍	黒曜石	(4.7)	2.6	0.9	8.0	
10	IV-13	V	L-60	石槍	頁岩	(6.45)	3.1	0.8	12.9	
11	IV-13	V	L-54	石槍	黒曜石	(5.8)	1.8	0.55	5.7	
12	IV-13	V	Q-54	石鏃	黒曜石	(4.1)	1.2	0.4	1.7	
13	IV-13	V	N-47	石鏃	黒曜石	4.3	1.4	0.5	2.5	
14	IV-13	V	J-48	石鏃	黒曜石	1.6	0.85	0.15	0.2	
15	IV-13	VI	N-57	石鏃	黒曜石	2.8	1.1	0.2	0.5	
16	IV-13	V	F-66	石鏃	黒曜石	2.0	1.4	0.2	0.4	
17	IV-13	V	O-54	石鏃	黒曜石	(3.0)	1.3	0.2	1.1	
18	IV-13	V	O-54	石鏃	黒曜石	2.55	1.5	0.4	1.0	
19	IV-13	V	E-47	石鏃	黒曜石	2.8	1.5	0.3	1.0	
20	IV-13	V	J-44	石鏃	黒曜石	(2.8)	1.6	0.35	1.1	
21	IV-13	V	G-50	石鏃	黒曜石	3.1	1.7	0.3	1.1	
22	IV-13	V	L-54	石鏃	黒曜石	3.05	1.55	0.5	1.7	
23	IV-13	V	I-47	石鏃	黒曜石	(2.9)	1.7	0.35	1.2	
24	IV-13	V	M-56	石鏃	黒曜石	3.4	1.5	0.4	1.3	
25	IV-13	III	L-82	石鏃	黒曜石	3.5	1.7	0.4	1.8	
26	IV-13	III	L-81	石鏃	黒曜石	3.5	1.7	0.4	1.9	
27	IV-13	III	L-3	石鏃	黒曜石	3.8	1.7	0.3	1.6	
28	IV-13	III	P-53	石鏃	黒曜石	2.2	1.3	0.3	0.7	
29	IV-13	III	D-71	石鏃	黒曜石	(2.05)	1.25	0.3	0.6	
30	IV-13	III	I-70	石鏃	黒曜石	(2.2)	1.35	0.25	0.7	
31	IV-13	V	J-44	石鏃	黒曜石	(2.1)	1.45	0.35	0.5	
32	IV-13	V	J-45	石鏃	黒曜石	2.8	(1.3)	0.4	0.9	
33	IV-13	V	F-66	石鏃	黒曜石	2.6	1.3	0.5	1.0	
34	IV-13	V	M-69	石鏃	黒曜石	2.8	0.9	0.5	1.0	
35	IV-13	III	E-48	石鏃	黒曜石	1.8	0.8	0.2	0.2	
36	IV-13	III	D-58	石鏃	黒曜石	(1.75)	0.9	0.3	0.3	
37	IV-13	III	K-63	石鏃	黒曜石	(2.0)	1.0	0.3	0.4	
38	IV-13	III	G-49	石鏃	黒曜石	(2.0)	0.8	0.35	0.4	
39	IV-13	III	P-60	石鏃	黒曜石	2.3	1.0	0.37	0.7	
40	IV-13	III	K-63	石鏃	黒曜石	2.3	1.0	0.25	0.4	
41	IV-13	III	H-50	石鏃	黒曜石	2.75	0.85	0.3	0.6	
42	IV-13	III	I-51	石鏃	黒曜石	1.45	0.8	0.15	0.2	
43	IV-13	III	I-76	石鏃	黒曜石	1.8	0.85	0.3	0.3	
44	IV-13	III	G-46	石鏃	黒曜石	(2.3)	1.0	0.3	0.6	
45	IV-13	III	F-58	石鏃	黒曜石	(2.3)	1.0	0.3	0.6	
46	IV-13	III	G-45	石鏃	黒曜石	2.3	0.85	0.2	0.4	
47	IV-13	III	D-43	石鏃	黒曜石	2.7	1.2	0.2	0.5	
48	IV-13	V	G-42	石錐	頁岩	5.3	1.2	0.85	6.4	
49	IV-14	V	N-50	つまみ付ナイフ	頁岩	(7.5)	3.0	0.7	12.9	
50	IV-14	III	Q-57	つまみ付ナイフ	頁岩	3.75	2.7	0.5	2.9	
51	IV-14	V	H-43	つまみ付ナイフ	頁岩	(3.25)	1.6	0.5	2.2	
52	IV-14	V	E-44	つまみ付ナイフ	頁岩	4.5	1.6	0.5	2.8	
53	IV-14	V	I-43	つまみ付ナイフ	頁岩	4.2	1.8	0.5	3.4	
54	IV-14	V	M-48	スクレイパー	黒曜石	4.95	2.95	1.05	13.1	
55	IV-14	V	F-57	スクレイパー	頁岩	7.2	3.8	1.9	40.4	
56	IV-14	V	P-52	スクレイパー	頁岩	6.65	4.0	1.6	39.5	
57	IV-14	III	F-62	スクレイパー	黒曜石	3.65	3.3	1.4	16.2	

掲載番号	図番号	層位	グリット	分類	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
58	IV-14	B調	L00	スクレイパー	黒曜石	4.9	3.15	1.3	20.6	
59	IV-14	Ⅲ	C-57	スクレイパー	黒曜石	6.15	3.4	1.15	26.0	
60	IV-14	V	Q-53	スクレイパー	珪質頁岩	6.7	2.6	1.4	19.6	
61	IV-14	Ⅲ	J-67	スクレイパー	黒曜石	(4.7)	1.9	1.0	7.5	
62	IV-14	V	F-43	スクレイパー	頁岩	(4.85)	1.8	0.6	4.5	
63	IV-14	V	H-44	スクレイパー	黒曜石	4.5	3.4	1.2	15.2	
64	IV-14	Ⅲ	K-64	スクレイパー	黒曜石	4.7	2.7	0.45	5.3	
65	IV-14	Ⅲ	I-52	スクレイパー	黒曜石	3.9	4.0	1.7	31.4	
66	IV-14	V	G-46	スクレイパー	頁岩	3.6	3.7	0.7	10.9	
67	IV-14	Ⅲ	F-63	スクレイパー	黒曜石	3.35	2.3	1.0	9.0	
68	IV-14	Ⅲ	F-62	スクレイパー	黒曜石	2.95	2.3	0.85	5.8	
69	IV-14	Ⅲ	J-67	スクレイパー	黒曜石	2.6	2.1	0.75	4.3	
70	IV-14	Ⅲ	L-76	スクレイパー	黒曜石	4.8	3.9	0.95	10.9	
71	IV-14	Ⅲ	G-47	スクレイパー	黒曜石	3.2	2.4	1.05	7.2	
72	IV-14	V	L-62	スクレイパー	黒曜石	4.6	3.1	1.3	17.0	
73	IV-14	Ⅲ	E-62	スクレイパー	黒曜石	3.85	3.15	1.3	16.0	
74	IV-15	Ⅲ	E-47	スクレイパー	黒曜石	4.6	4.2	1.1	21.6	
75	IV-15	Ⅲ	H-49	スクレイパー	黒曜石	4.85	3.3	1.4	22.3	
76	IV-15	Ⅲ	J-80	スクレイパー	黒曜石	4.1	3.8	1.2	17.4	
77	IV-15	Ⅲ	E-58	スクレイパー	黒曜石	3.25	3.8	0.8	8.1	
78	IV-15	Ⅲ	K-63	スクレイパー	黒曜石	3.0	(3.7)	0.85	8.2	
79	IV-15	Ⅲ	G-47	スクレイパー	黒曜石	3.25	3.45	0.8	9.5	
80	IV-15	Ⅲ	I-52	スクレイパー	黒曜石	2.4	3.1	0.7	5.9	
81	IV-15	Ⅲ	K-57	スクレイパー	黒曜石	2.55	3.1	0.9	7.2	
82	IV-15	Ⅲ	I-60	スクレイパー	黒曜石	3.55	2.8	1.0	8.6	
83	IV-15	Ⅲ	F-62	スクレイパー	黒曜石	(3.9)	1.6	0.8	4.1	
84	IV-15	Ⅲ	E-58	スクレイパー	黒曜石	5.2	2.3	1.1	7.3	
85	IV-15	V	J-61	スクレイパー	黒曜石	7.8	3.45	1.2	15.2	
		Ⅲ	J-62							
86	IV-15	Ⅲ	F-58	スクレイパー	黒曜石	4.1	4.5	1.1	14.6	
87	IV-15	Ⅲ	E-48	スクレイパー	黒曜石	4.2	2.75	0.85	7.6	
88	IV-15	Ⅲ	D-49	スクレイパー	黒曜石	4.3	4.0	1.4	18.6	
89	IV-15	Ⅲ	I-52	スクレイパー	黒曜石	3.45	2.55	1.5	11.2	
90	IV-15	Ⅲ	L-58	スクレイパー	黒曜石	3.6	3.7	1.25	17.1	
91	IV-15	V	E-52	スクレイパー	黒曜石	2.95	2.9	0.8	6.1	
92	IV-15	Ⅲ	L-80	スクレイパー	黒曜石	4.0	2.8	0.6	7.1	
93	IV-15	Ⅲ	H-52	スクレイパー	黒曜石	3.6	3.35	0.9	6.9	
94	IV-15	Ⅲ	C-58	スクレイパー	黒曜石	2.8	5.4	1.2	13.4	
95	IV-15	Ⅲ	E-63	スクレイパー	黒曜石	3.4	4.1	0.95	13.3	
96	IV-15	Ⅲ	K-53	スクレイパー	頁岩	5.0	5.3	1.1	19.0	
97	IV-16	Ⅲ	F-58	石斧	泥岩	(7.0)	4.3	2.0	114.0	
98	IV-16	V	G-43	石斧	片岩	(10.3)	2.65	1.0	39.8	
99	IV-16	V	H-47	石斧	片岩	9.8	5.1	1.1	75.8	
100	IV-16	V	H-64	石斧	緑色片岩	(7.9)	4.9	2.3	130.0	
101	IV-16	V	H-57	石斧	緑色片岩	(12.1)	6.5	3.1	378.0	
102	IV-16	V	K-65	石斧	砂岩	(7.75)	4.65	1.8	99.5	
103	IV-16	Ⅲ	J-55	石斧	片麻岩	(10.0)	6.8	4.3	500.0	
104	IV-17	V	J-60	たたき石	珪岩	10.3	6.05	5.5	550.0	
105	IV-17	V	R-50	たたき石	泥岩	(11.0)	6.6	3.8	450.0	
106	IV-17	V	F-50	すり石	砂岩	6.95	(8.9)	6.6	340.0	
107	IV-17	V	M-60	断面三角形のすり石	泥岩	9.5	14.5	4.4	870.0	
108	IV-17	Ⅲ	O-52	すり石	砂岩	10.6	8.5	5.2	750.0	
109	IV-17	V	Q-57	砥石	砂岩	8.55	6.05	4.7	185.0	
110	IV-17	V	N-72	砥石	砂岩	(9.9)	(5.6)	4.0	170.0	
111	IV-17	V	O-46	いかり石	凝灰岩	35.1	19.7	12.2	11.0kg	
112	IV-17	V	I-43	円盤状土製品		5.73	4.81	0.98	32.8	I b - 1

写 真 图 版



1 火山灰除去作業(平成16年度調査区) N→



2 表土除去後(平成17年度調査区) SW→
調査前状況

図版2



1 C地区トレンチ調査 SW→



2 B地区25%調査 NE→

調査状況



1 A地区北側Ⅲ層調査 SW→

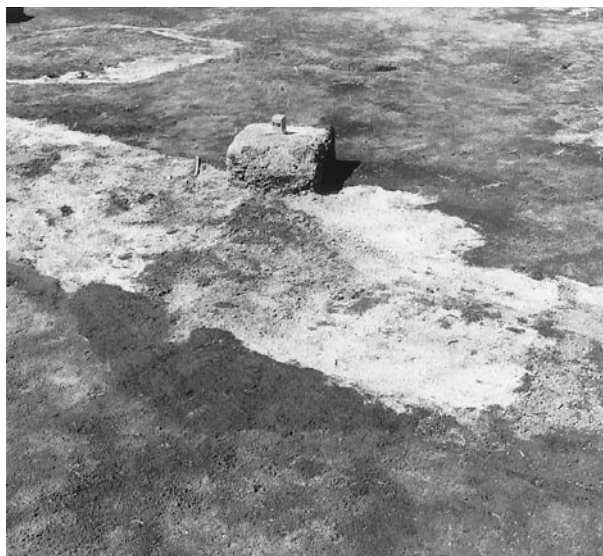


2 A地区南側Ⅲ層調査 S→

図版4



1 UP-2・3断面 S→



3 UP-5確認面 NE→



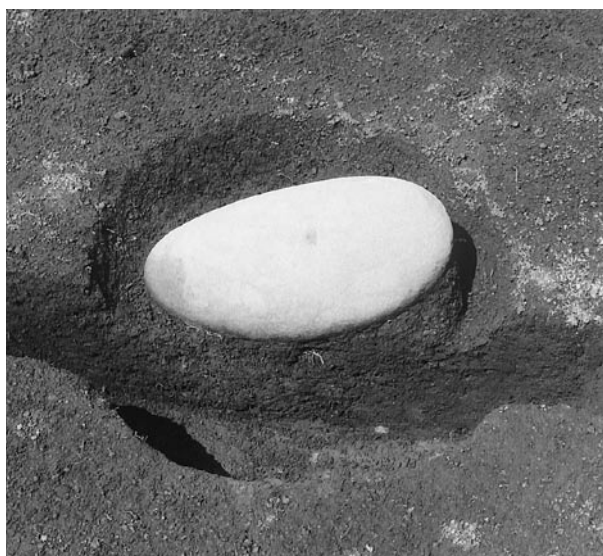
2 UP-4断面 E→



4 UP-6遺物出土状況 NW→



5 UP-7遺物出土状況 NW→



6 UP-8遺物出土状況 E→

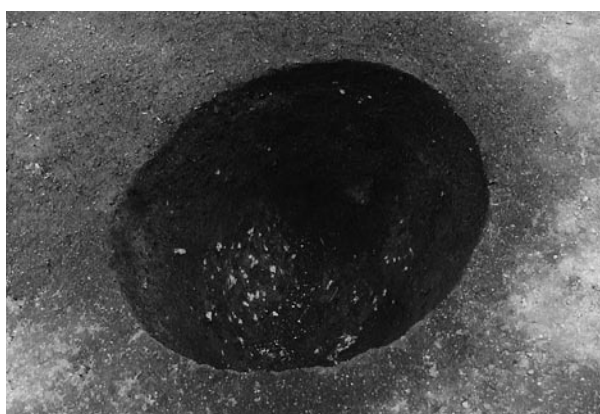
Ⅲ層の調査(2)



1 UP-9遺物出土状況 N→



2 UP-10遺物出土状況 N→



3 UP-11完掘 SE→



4 UR-1検出状況 SE→
Ⅲ層の調査(3)

図版6



1 UM-1 (盛土状遺構) W→



2 UFC-2検出状況 SE→



3 UFC-3検出状況 NE→



4 UFC-4検出状況 N→



5 UFC-5検出状況 W→

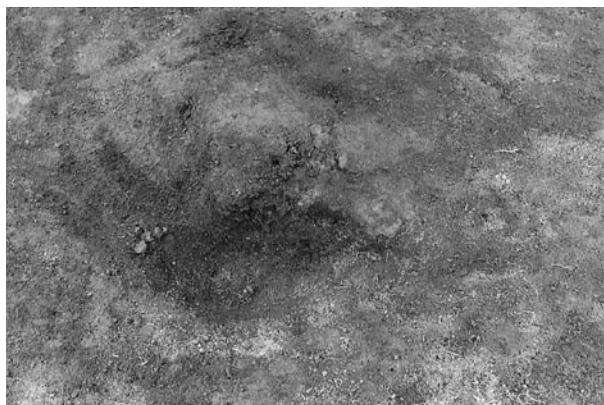
Ⅲ層の調査(4)



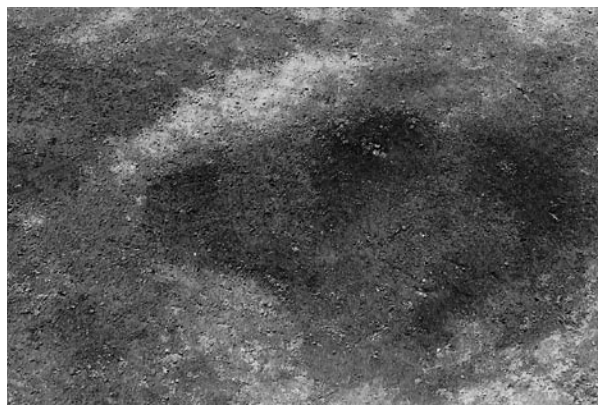
1 UF-38検出状況 NE→



2 UF-39検出状況 NE→



3 UF-40検出状況 E→



4 UF-44検出状況 NE→



5 UF-45断面 SE→

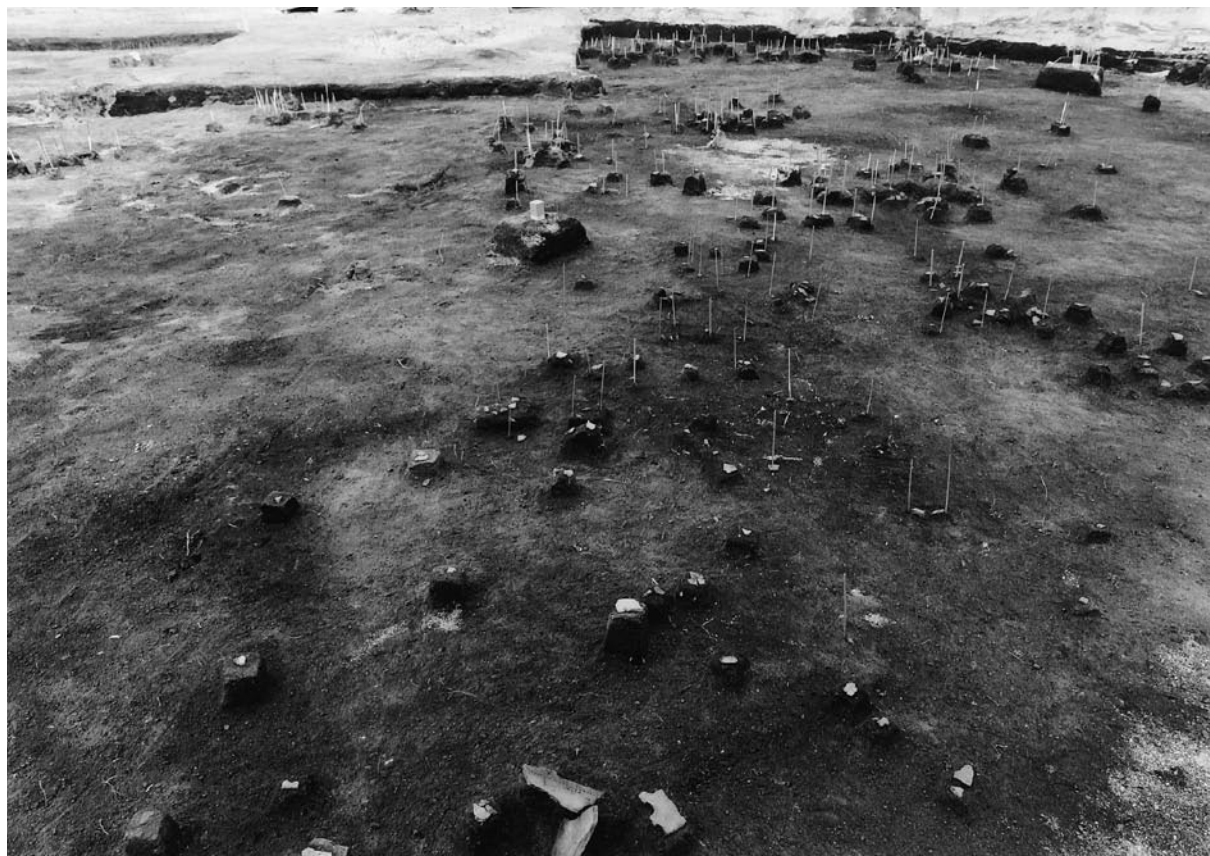


6 UF-46断面 S→



7 UF-68検出状況 S→

図版 8

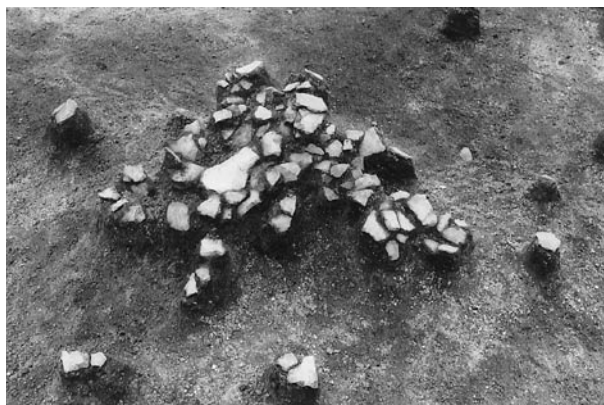


1 A地区北側遺物出土状況 NW→

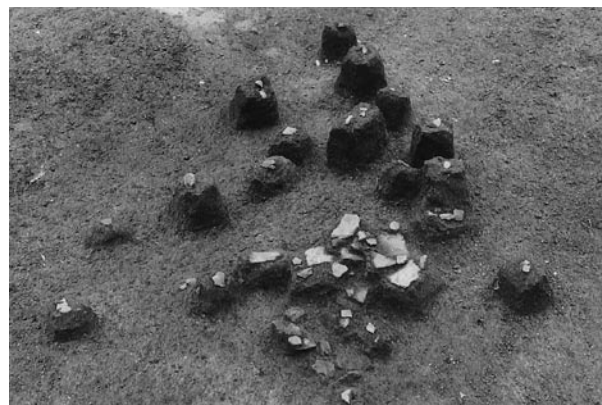


2 A地区南側遺物出土状況 NE→

Ⅲ層の調査(6)



1 土器出土状況 (N-81) N→



2 遺物出土状況 (Q-46) SE→



3 遺物出土状況 (I-45) SW→



4 遺物出土状況 (J-48) NW→



5 土器出土状況 (J-48) S→



6 土器出土状況 (L-53) E→



7 鉄斧出土状況 (N-46) NE→

Ⅲ層の調査 (7)

図版10



1 A地区北側V層上面検出状況 NE→



2 A地区南側V層調査状況 NE→

V・VI層の調査(1)



1 LP-6断面 SE→



2 LP-7断面 SW→



3 LP-6・7完掘 SE→



4 LP-8断面 SE→



5 LP-8完掘 SE→

図版12



1 LF-84断面 SE→



2 LF-103断面 NW→



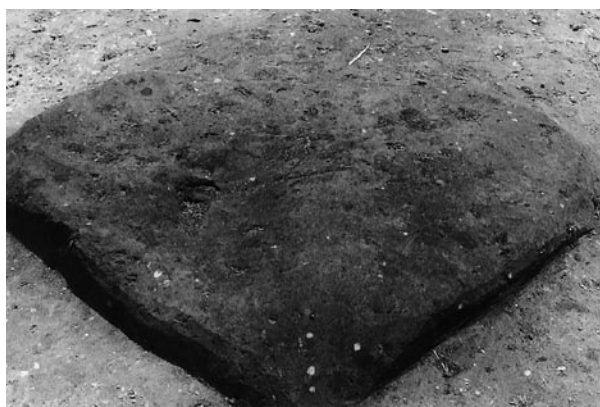
3 LF-109~116検出状況 SE→



4 LF-130~142検出状況 S→



1 LF-148~158検出状況 N→



2 LF-163検出状況 N→



3 LF-164検出状況 S→



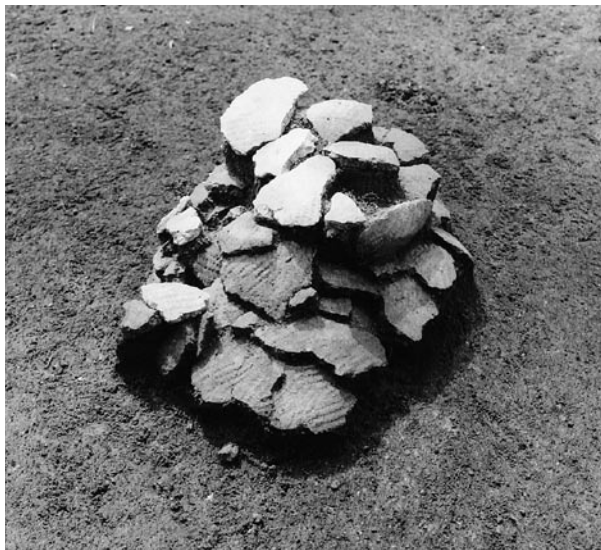
4 LF-165検出状況 SE→



5 LF-166検出状況 NW→

V・VI層の調査(4)

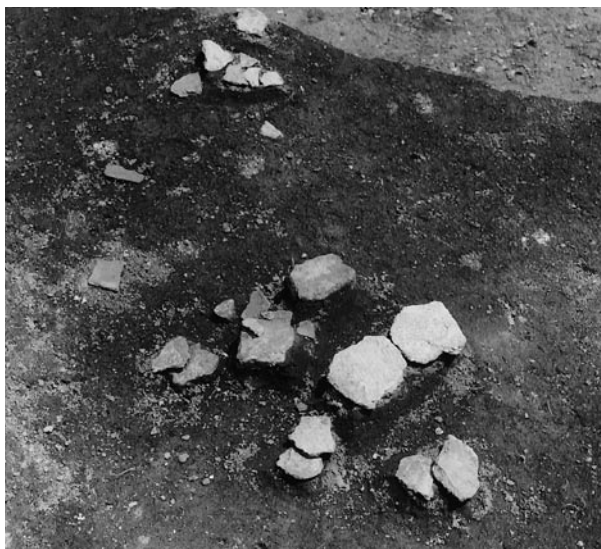
図版14



1 土器出土状況 (E-61) E→



2 遺物出土状況 (M-69) SE→



3 土器出土状況 (M-63) W→



4 いかり石出土状況 (O-46) NW→



5 有舌尖頭器出土状況 (F-55) SE→



6 有舌尖頭器出土状況 (I-57) NE→
V・VI層の調査 (5)



1 平成16年度調査区完掘 S→



2 平成17年度調査区完掘 NE→

調査終了

図版16



20

1 UP-9



21

2 UP-9



11

3 UP-6



22



22

5 UP-10



14

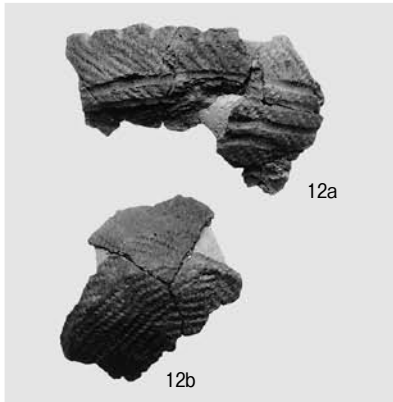
4 UP-7



23

6 UF-38

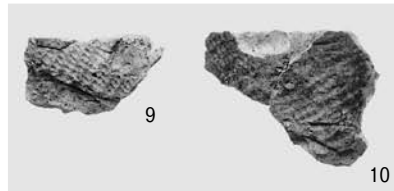
遺構の土器 (1)



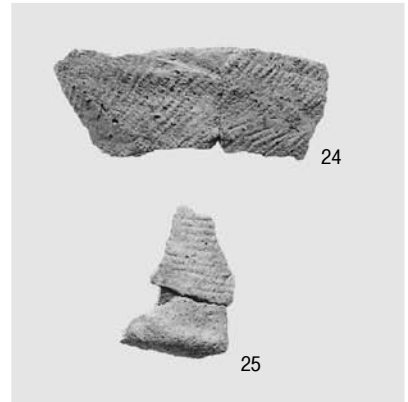
1 UP-3・9



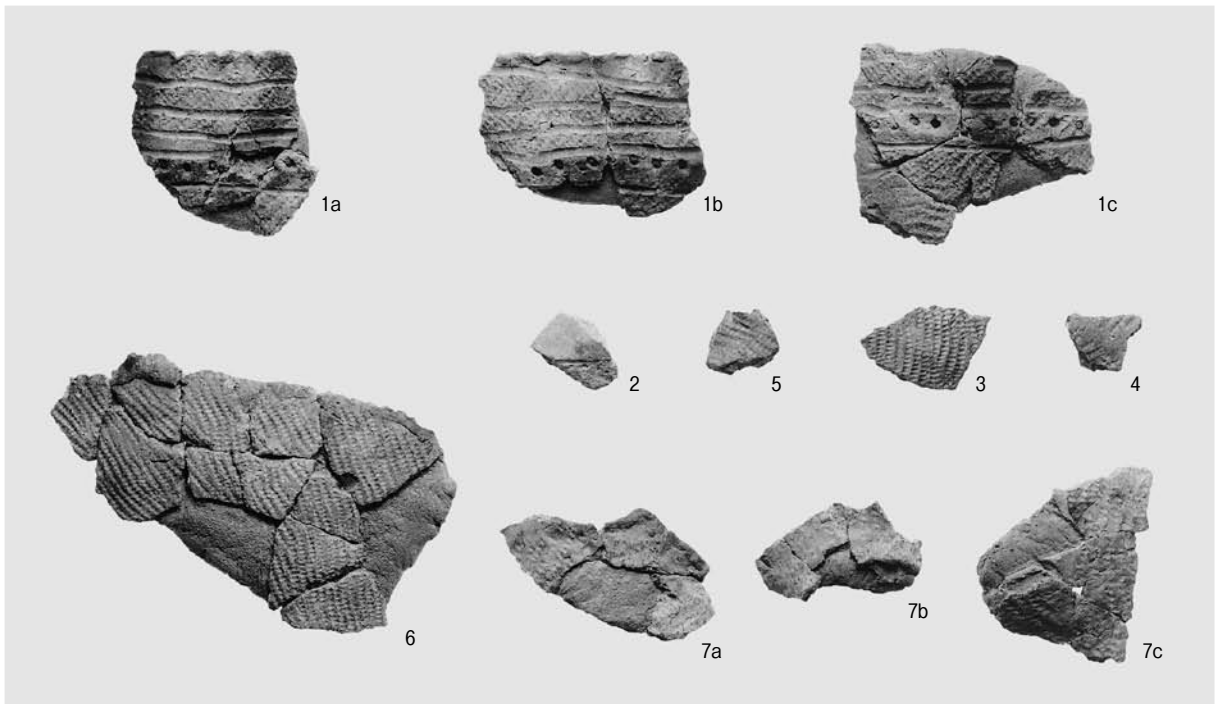
2 UP-6



3 UP-9



4 UF-38



5 UM-1



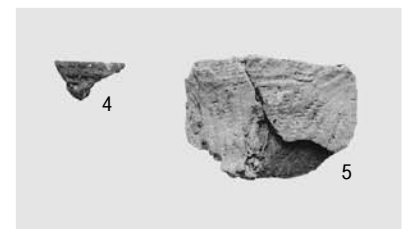
6 LF-92



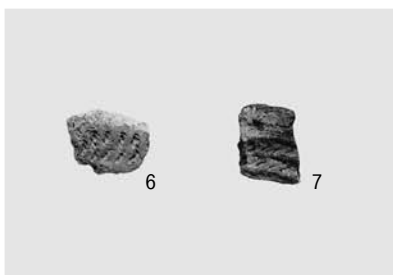
7 LF-98



8 LF-118



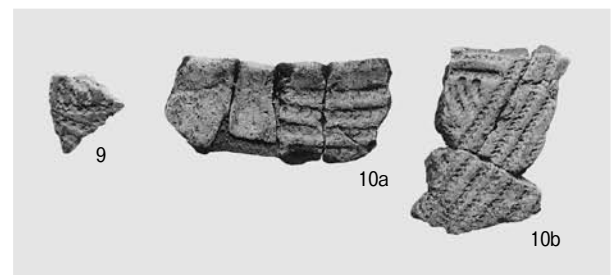
9 LF-132



10 LF-135

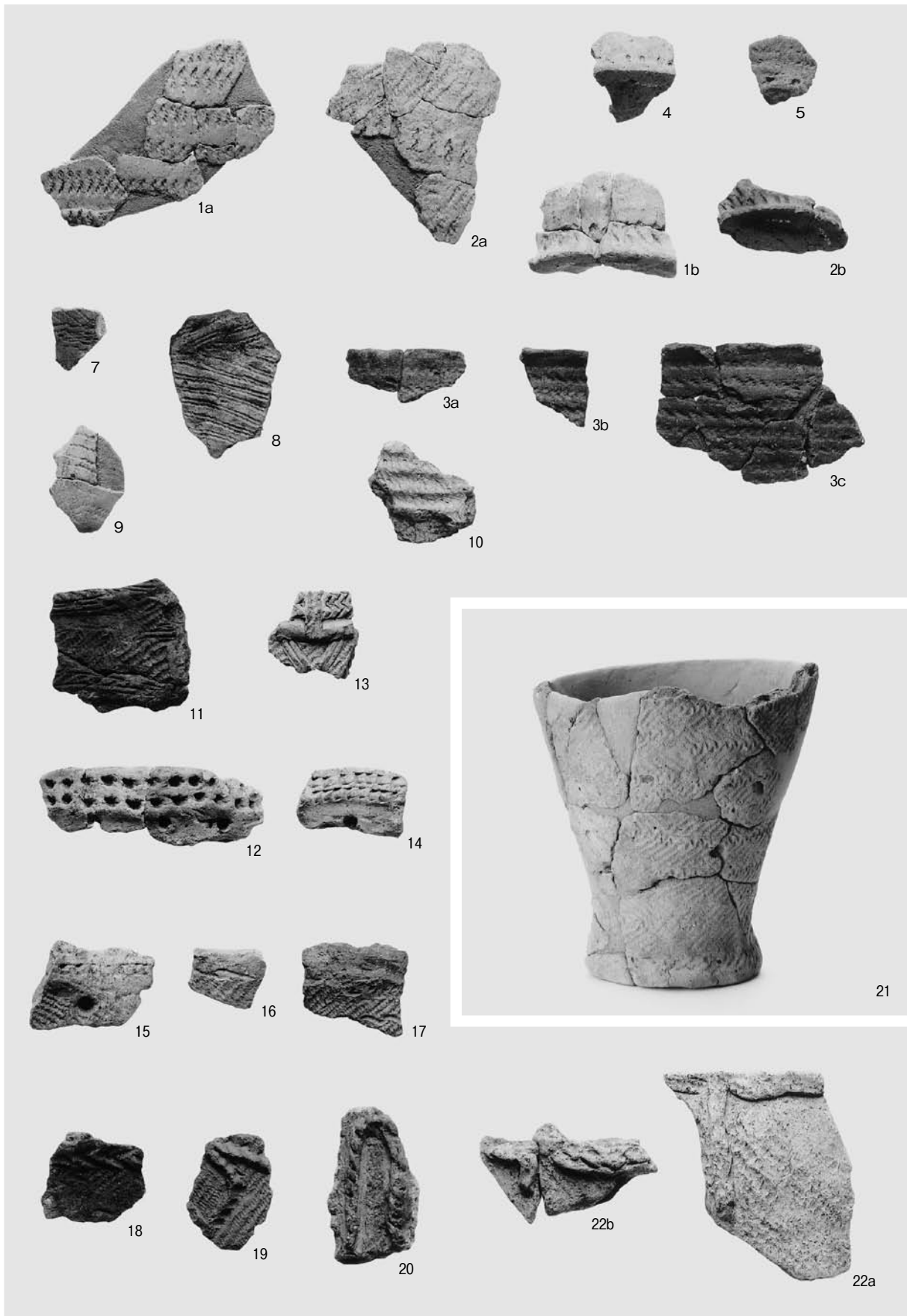


11 LF-142

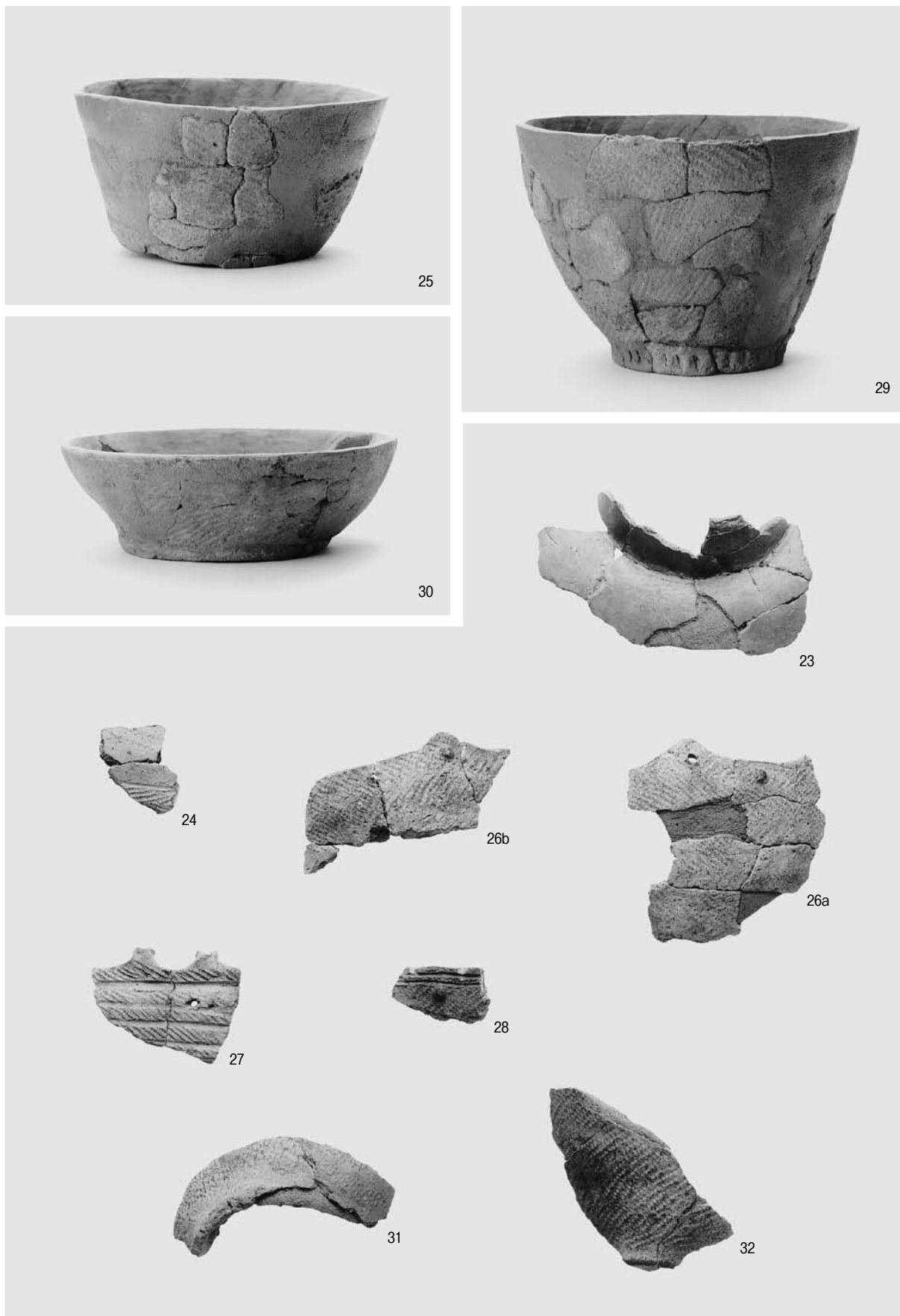


12 LF-144

図版18

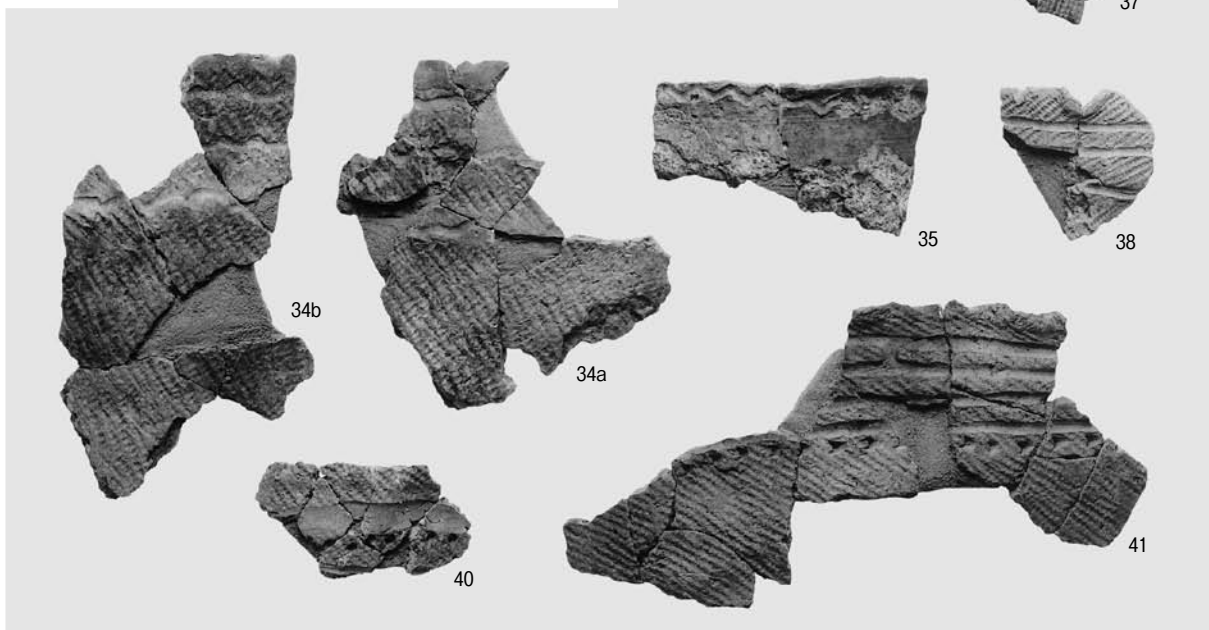


包含層の土器(1)

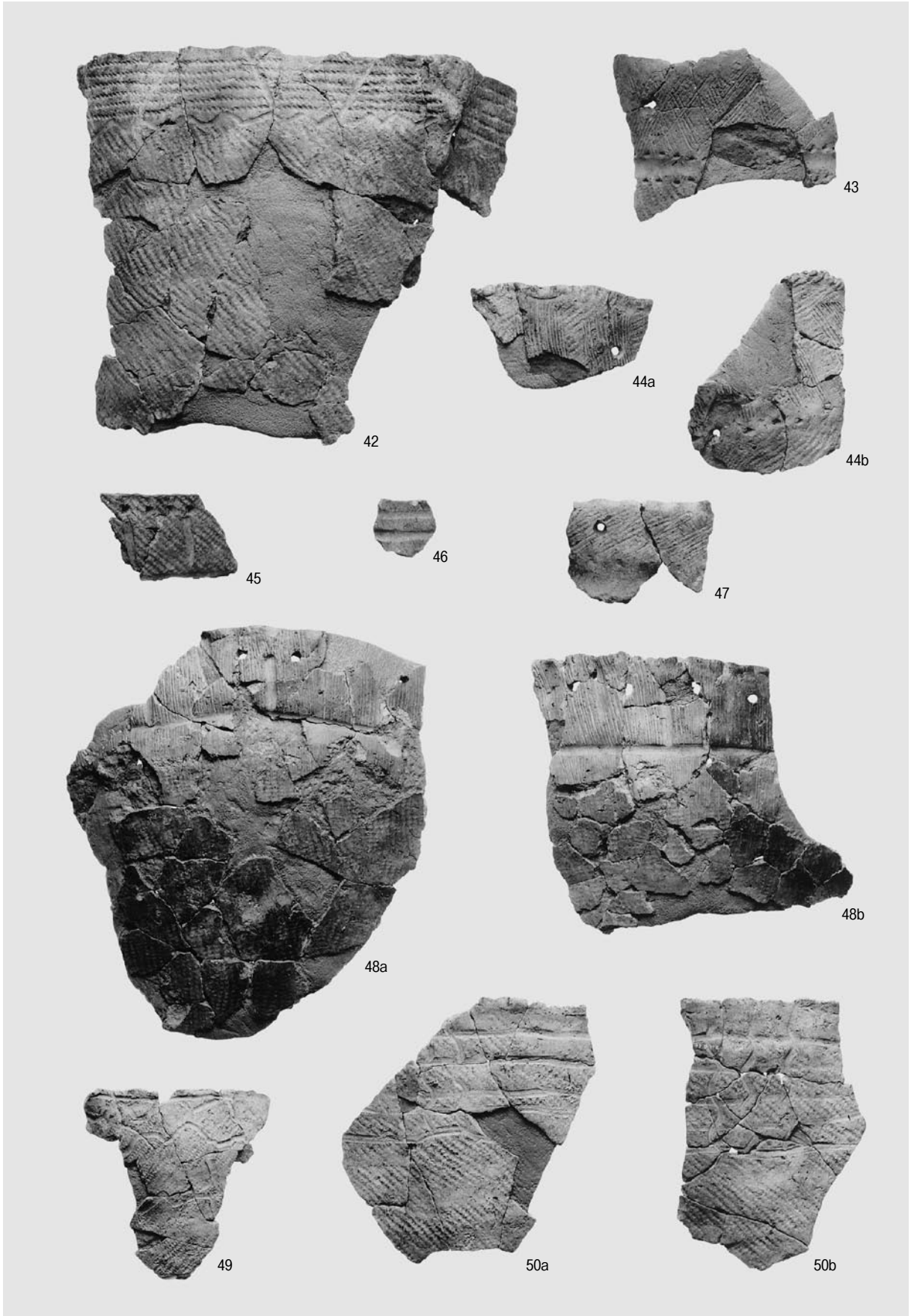


包含層の土器(2)

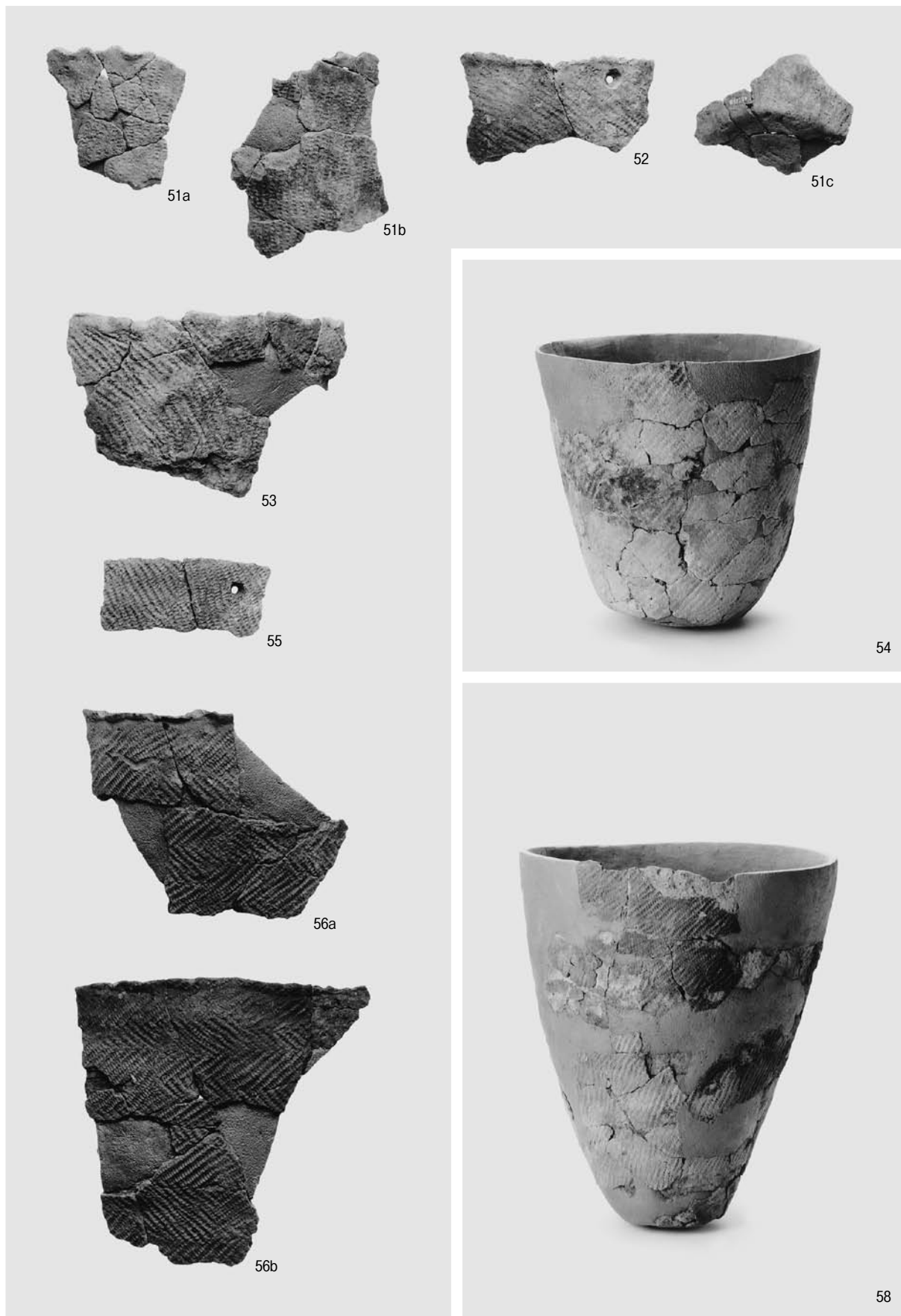
図版20



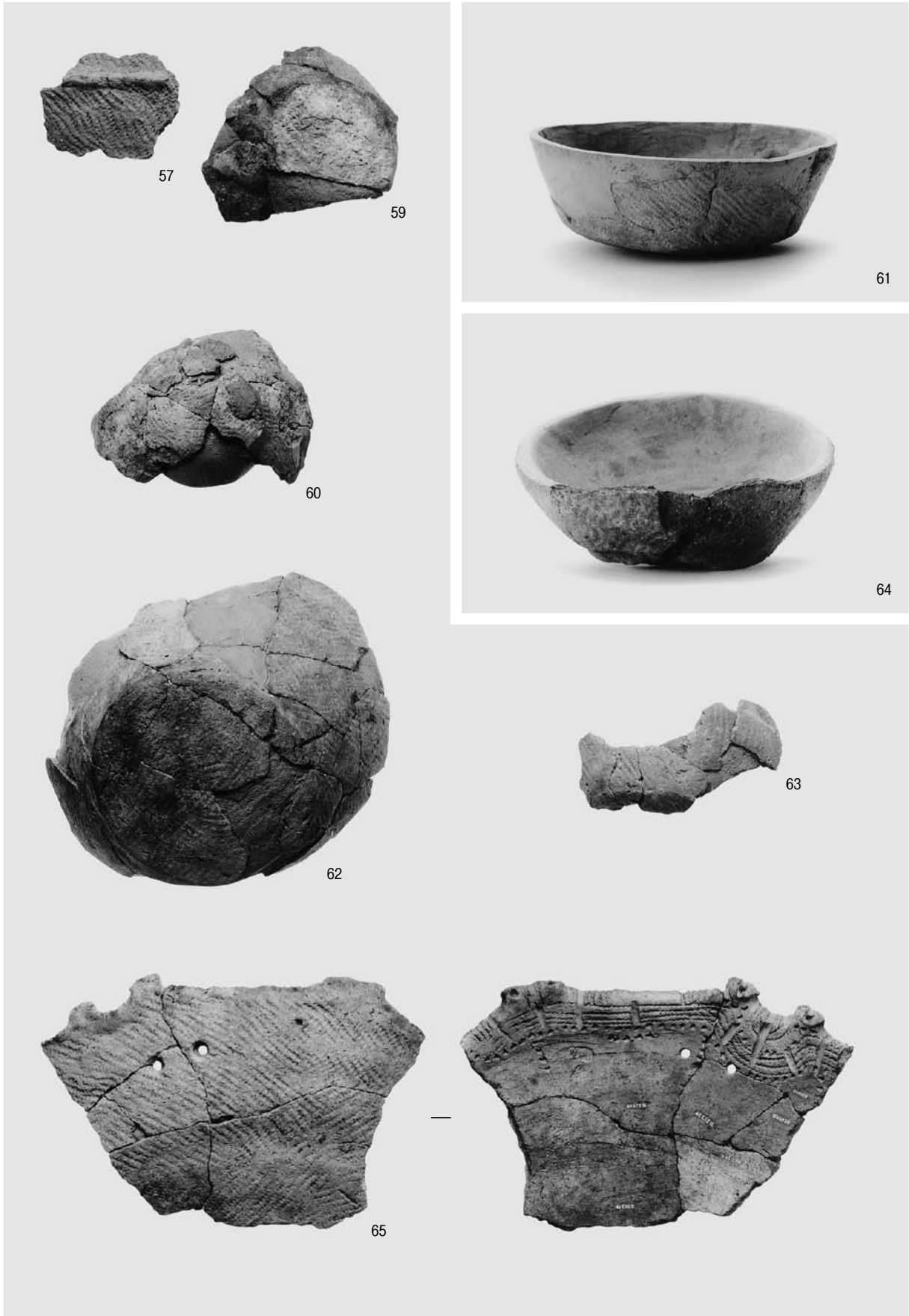
包含層の土器(3)



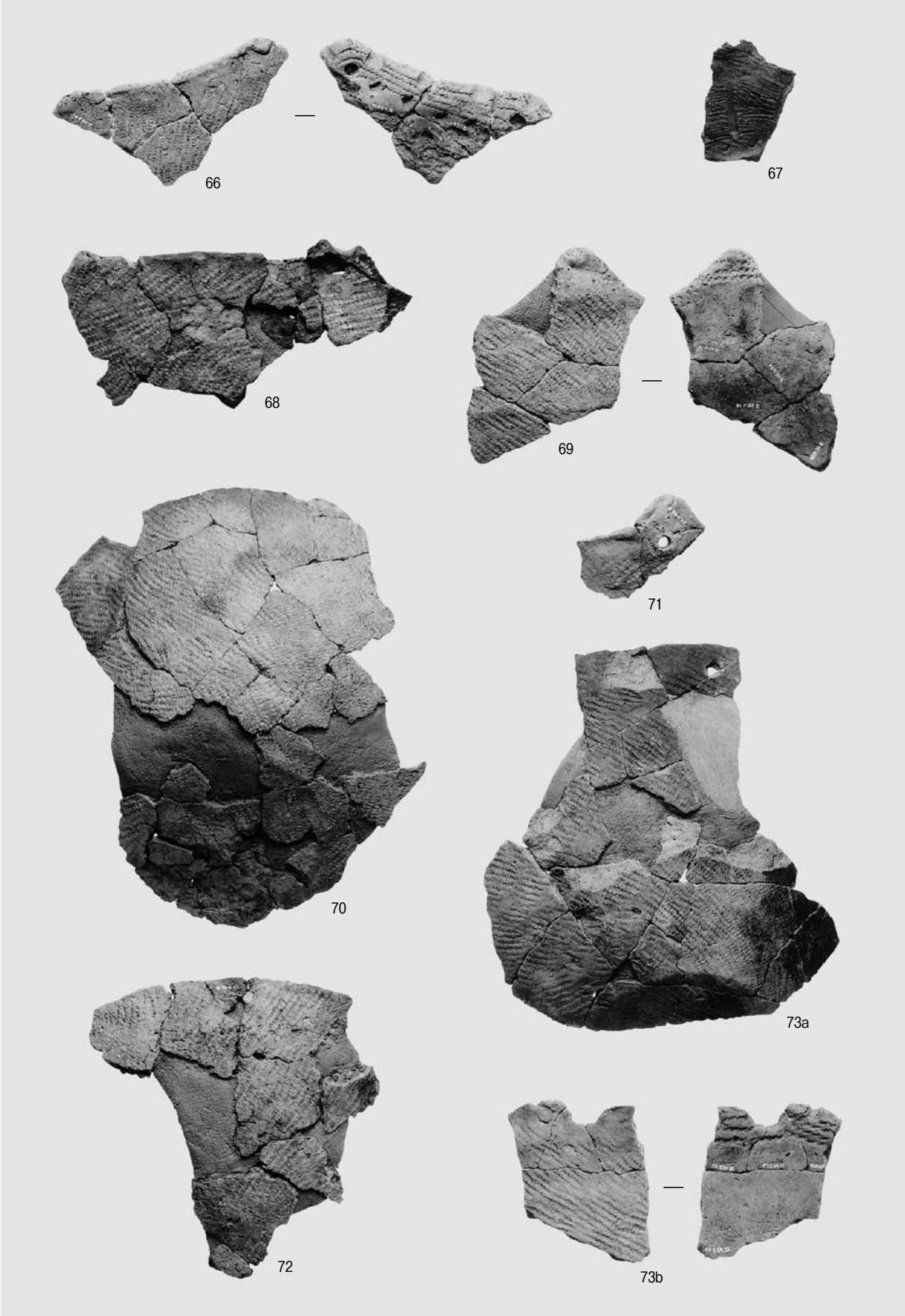
包含層の土器(4)



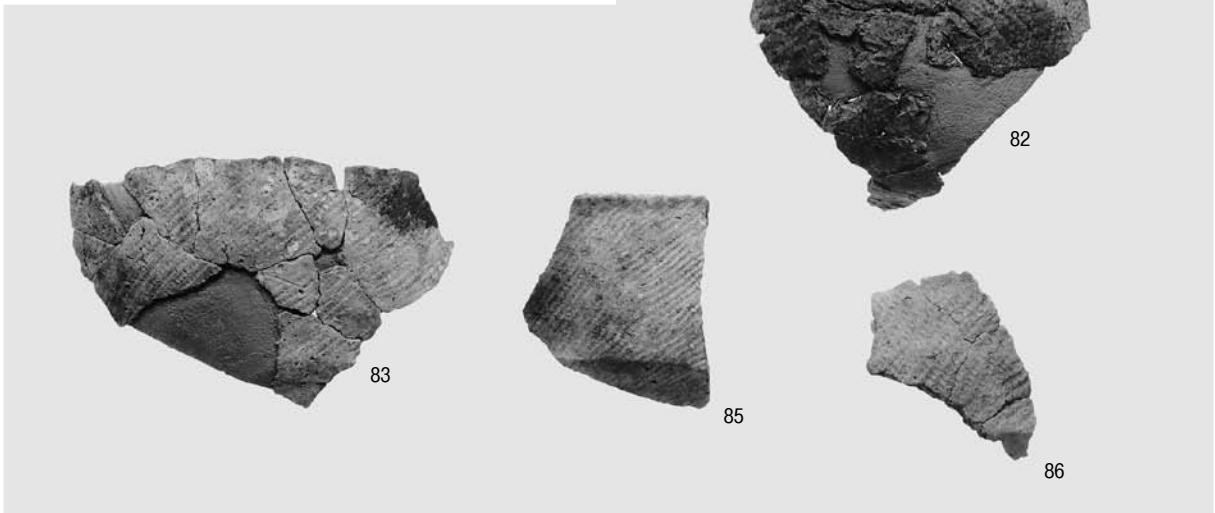
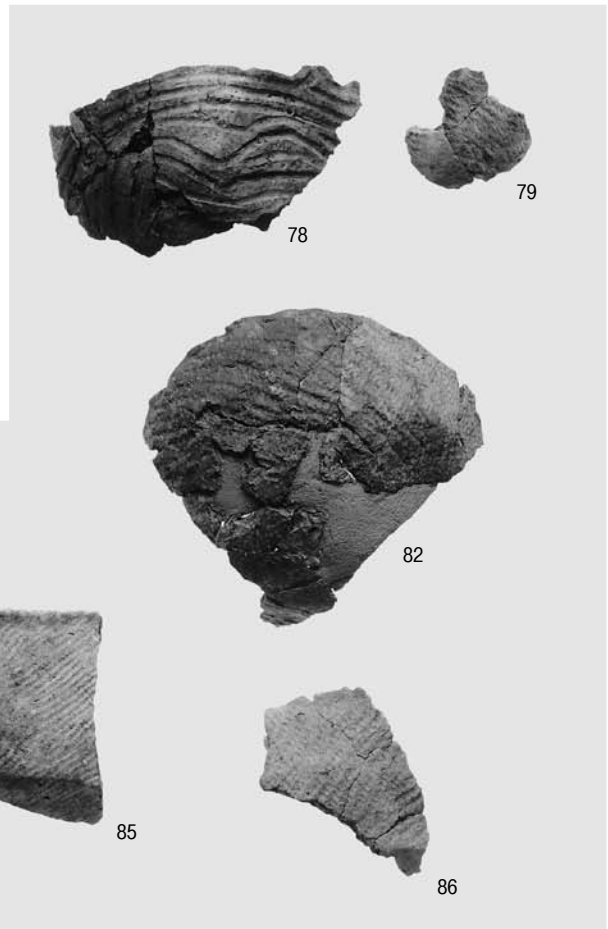
包含層の土器(5)



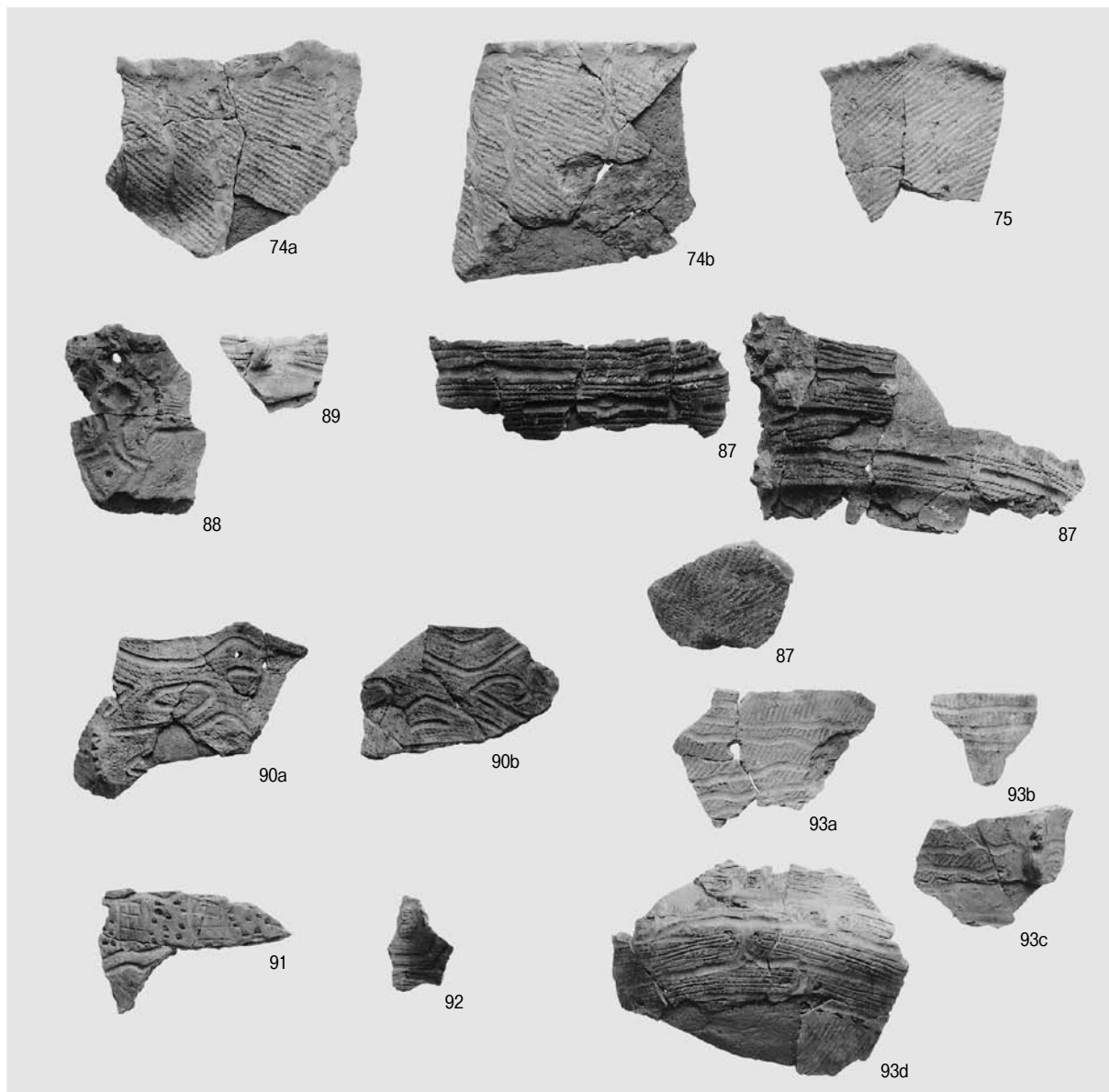
包含層の土器(6)



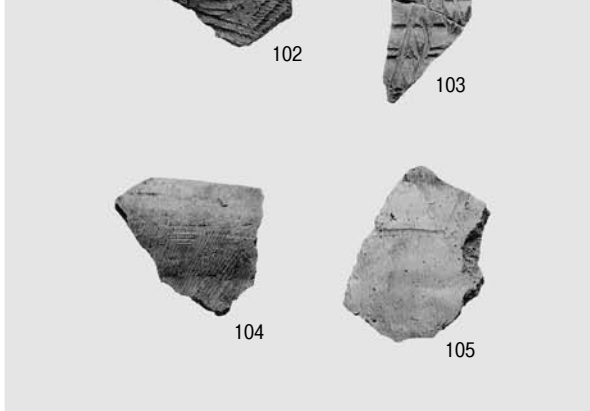
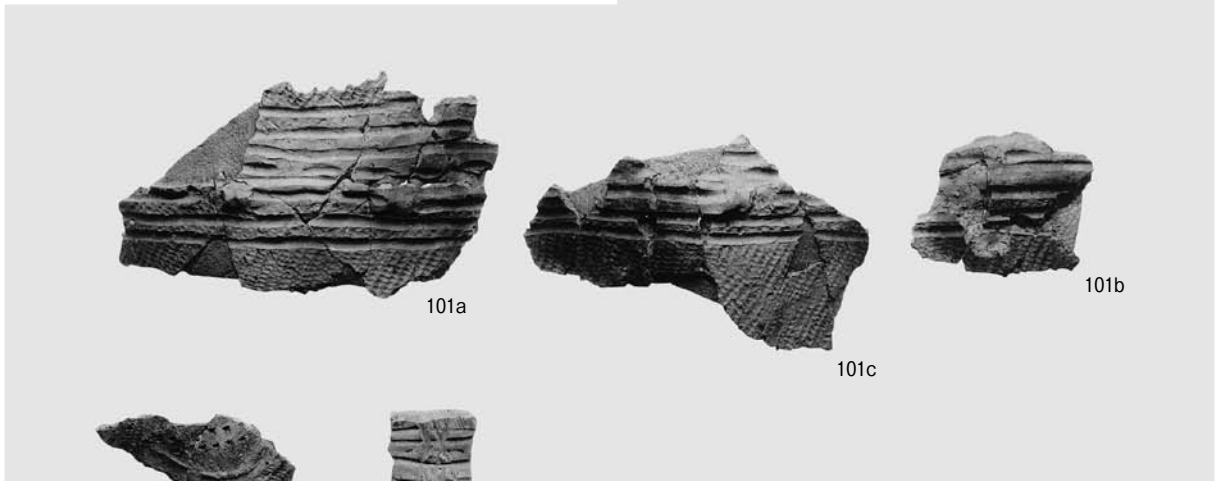
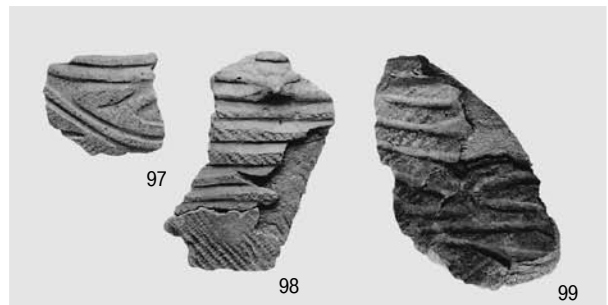
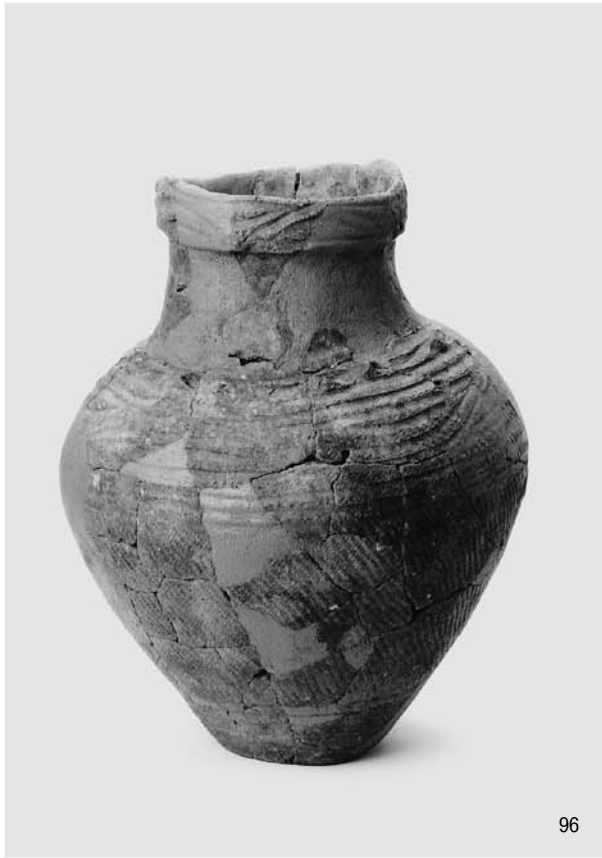
包含層の土器(7)



包含層の土器(8)

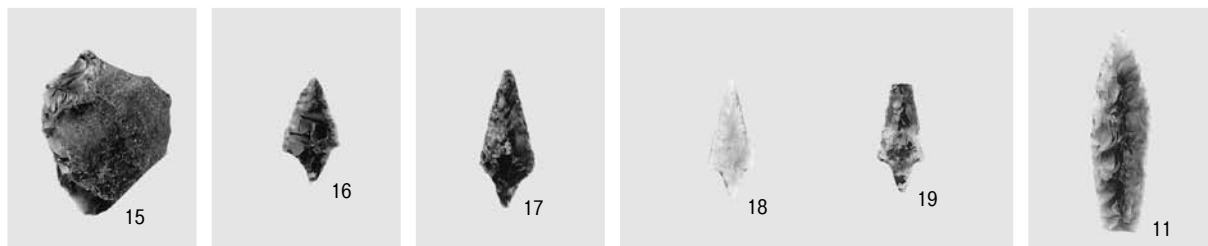


包含層の土器(9)

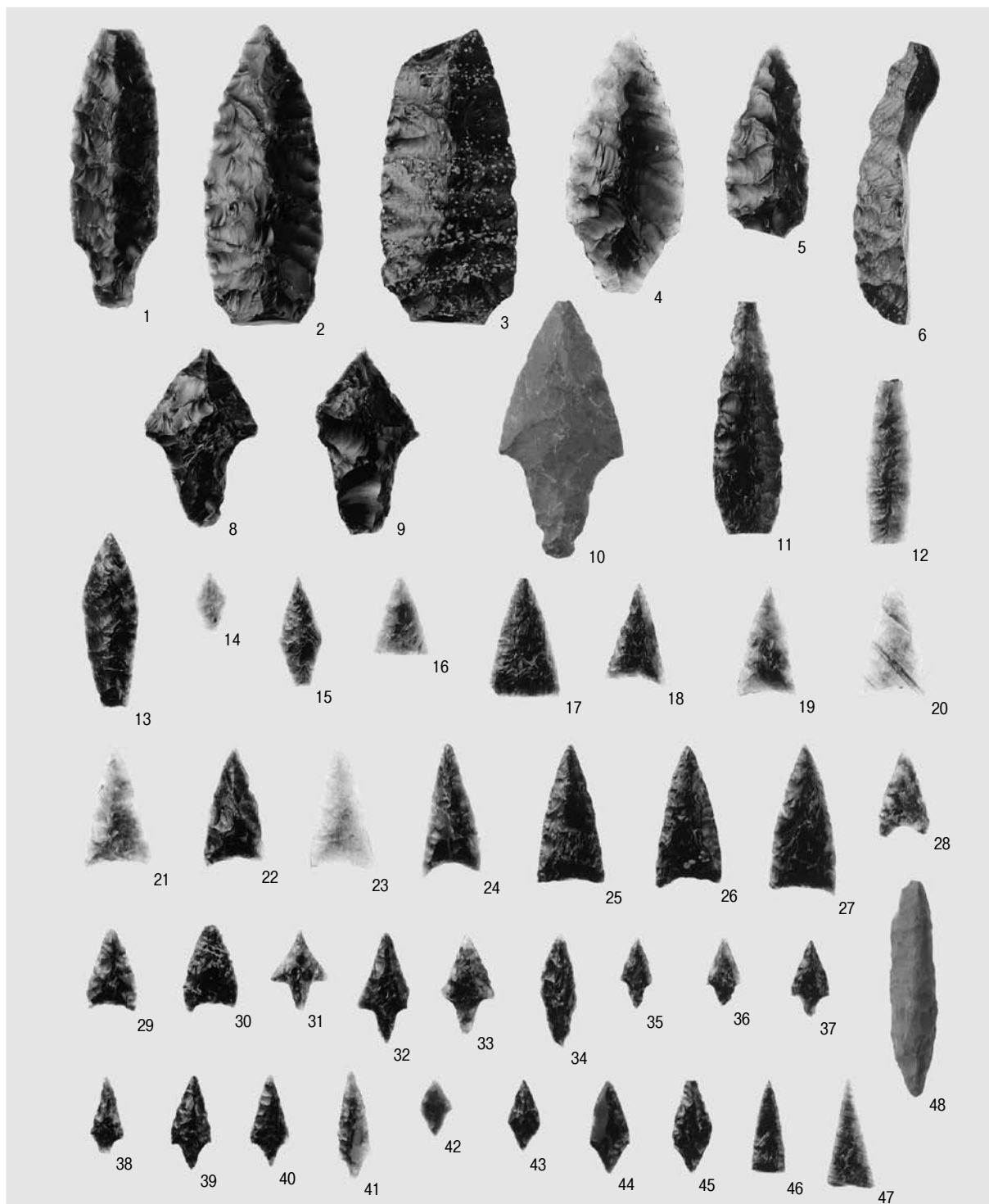


包含層の土器 (10)

図版28

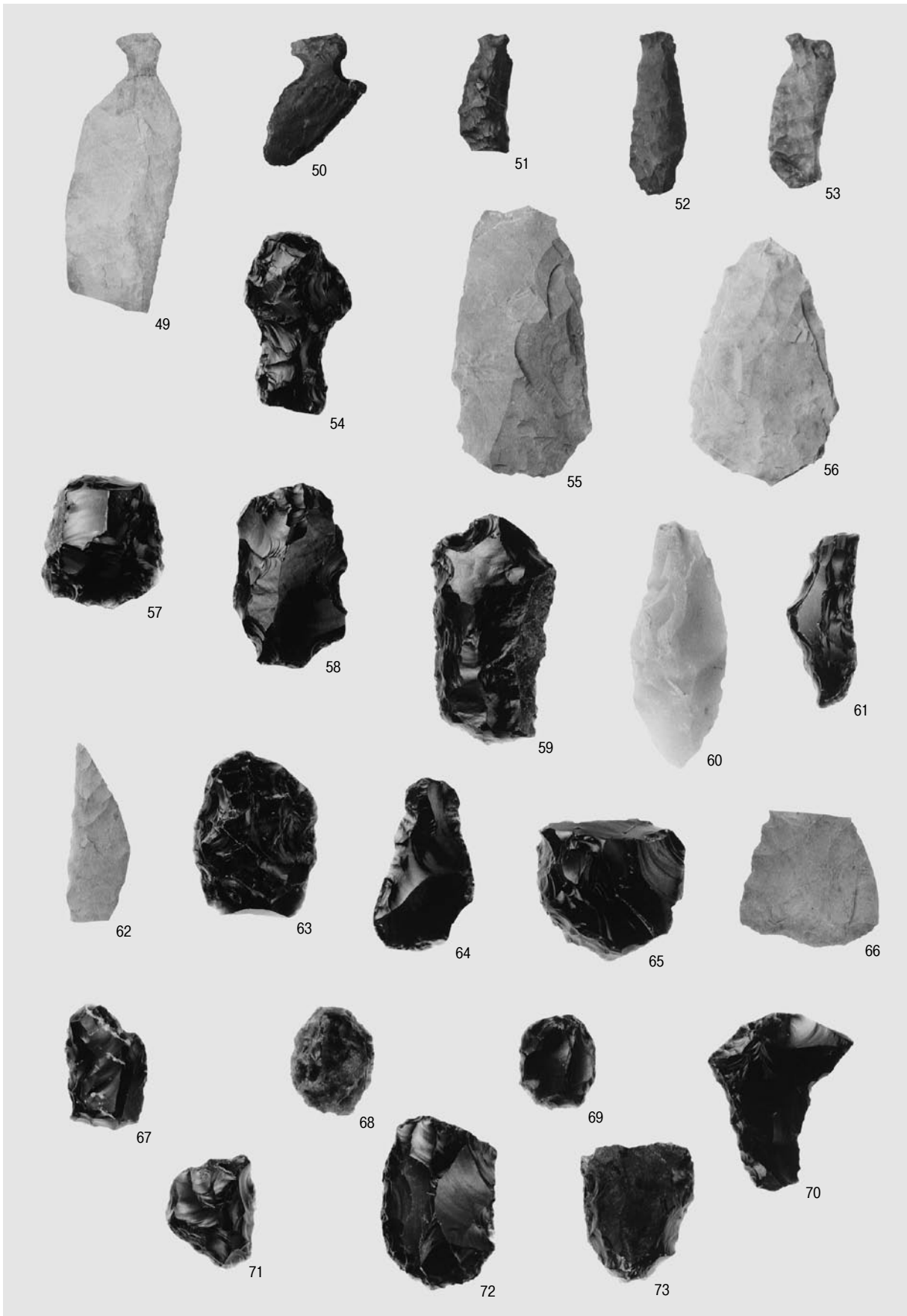


1 UFC-1 2 UFC-2 3 UFC-4 4 UFC-5 5 LF-84

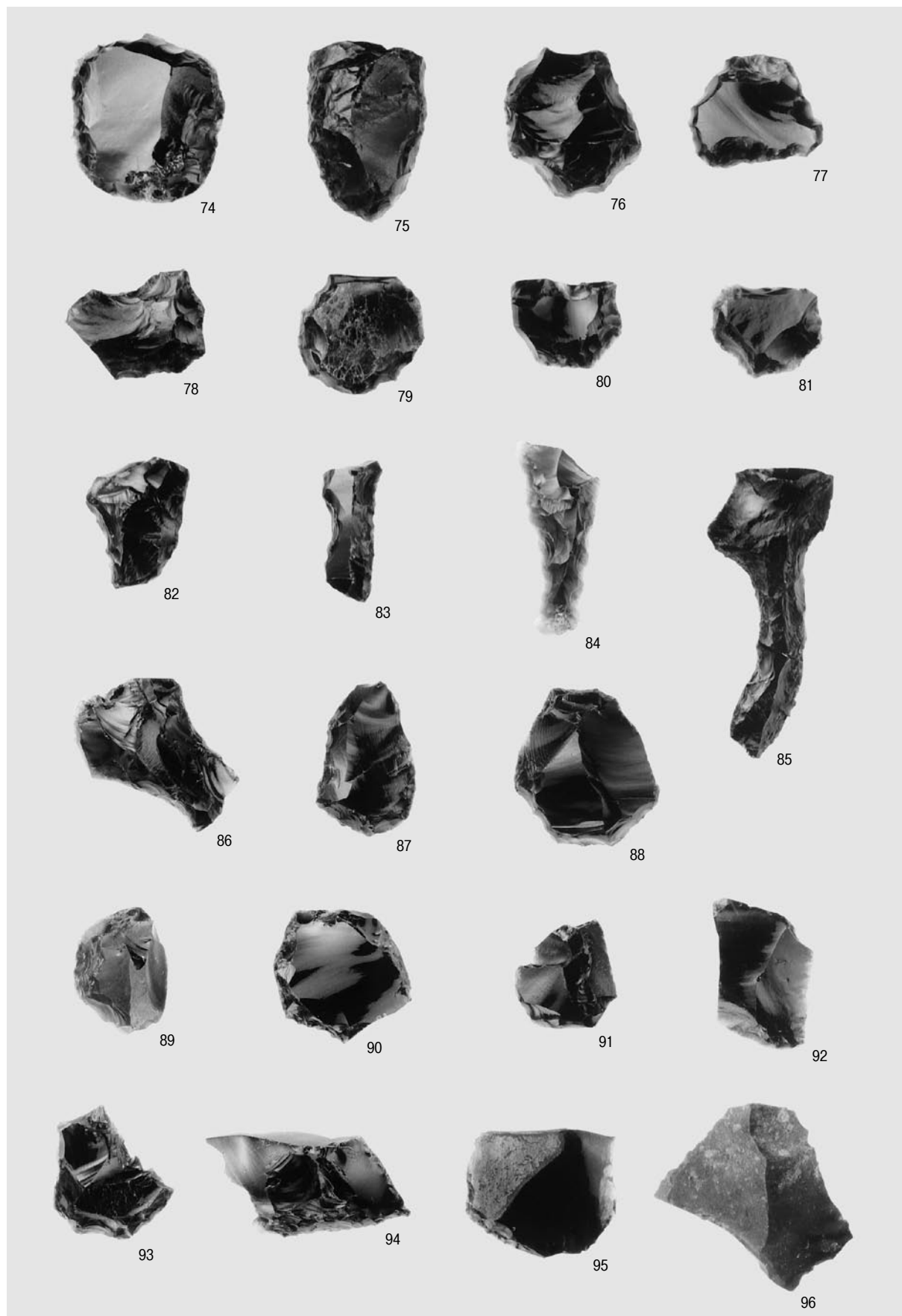


6 包含層の石器 (1)

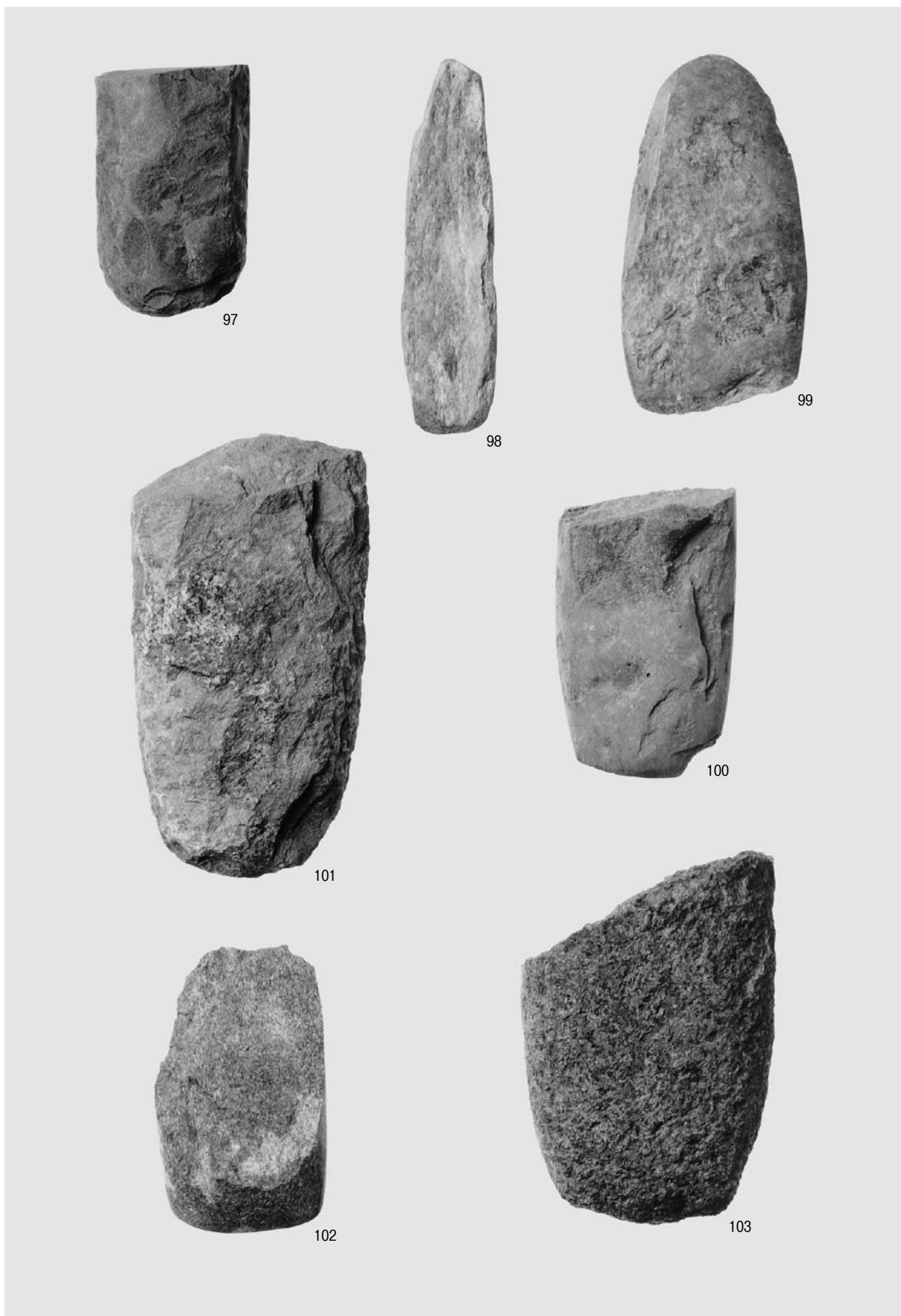
遺構の石器・包含層の石器



包含層の石器 (2)

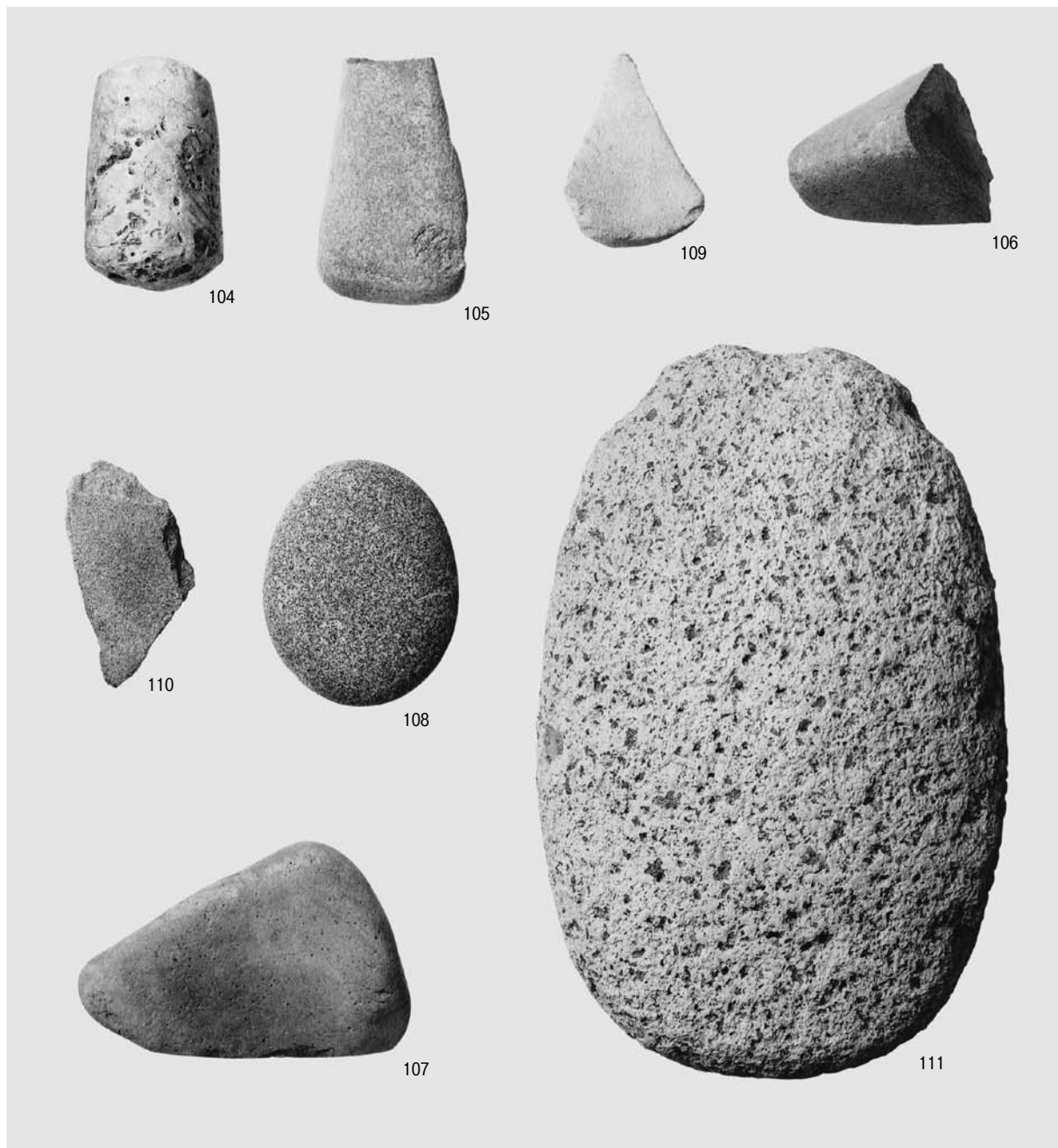


包含層の石器 (3)



包含層の石器 (4)

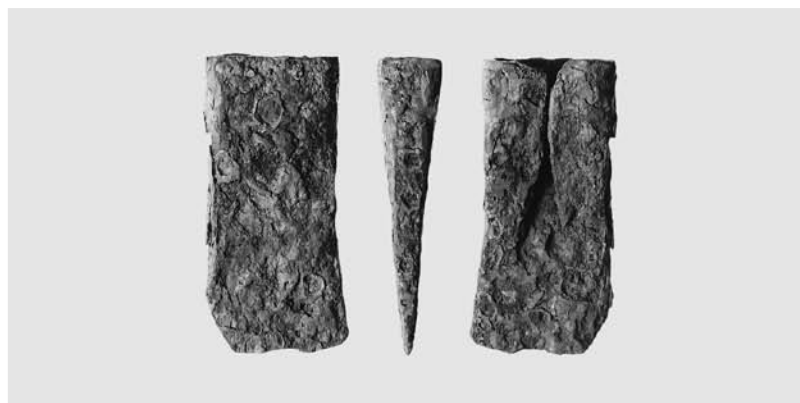
図版32



1 包含層の石器 (5)



2 土製品



3 手斧
包含層の石器・土製品・鉄製品

報告書抄録

ふりがな	ちとせし ちぷにーにいせきかつこさん				
書名	千歳市 チプニー2遺跡 (3)				
副書名	一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書				
シリーズ名	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書				
シリーズ番号	第225集				
編著者名	皆川洋一・菊池慈人・佐藤剛				
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター				
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL011-386-3231				
発行年月日	西暦2006年3月27日				
ふりがな	ちぷにーに				
所収遺跡名	チプニー2				
ふりがな	ほっかいどう ちとせし ちゅうおう				
所在地	北海道 千歳市 中央 1026-13				
コード	市町村 01224 遺跡登録番号 A-03-278				
位置	北緯 42度51分55秒 東経141度43分9秒				
調査期間	平成16年度 20040401~20050331 平成17年度 20050401~20060331				
調査面積	平成16年度 13,400㎡ 平成17年度 1,300㎡				
調査原因	道路建設(一般国道337号新千歳空港関連工事)に伴う事前調査				
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
チプニー2遺跡	墓地・遺物 散布地	擦文文化期	土壙墓1基	擦文土器、手斧	
		続縄文時代	包含層	土器、石鏃	
		縄文時代 晩期後葉	土壙5基、焼土	縄文土器、石鏃、石槍、石錐、スクレイパー、つまみ付ナイフ、石斧、たたき石、いかり石等	
		縄文時代 早期後葉 前期前半 中期後半 後期後葉	包含層	縄文土器、石鏃、石槍、石錐、スクレイパー、つまみ付ナイフ、石斧、たたき石等	
		旧石器時代	包含層	有舌尖頭器、スポール	

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第225集

千歳市 チプニー2遺跡(3)

—一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成18(2006)年3月27日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1
☎011(386)3231 FAX011(386)3238
[E-mail] mail@domaibun.or.jp [URL] http://www.domaibun.or.jp

印刷 株式会社 キサツ
〒064-0921 札幌市中央区21条西10丁目
☎011(531)2111 FAX011(512)3555
